

東京大学社会科学研究所所蔵

極東国際軍事裁判記録

「検察側証拠書類」目録

〔東京大学社会科学研究所〕
〔文献目録第4冊（I）〕

東京大学社会科学研究所

特定研究「日本近代化」研究組織

1971



◇◆ 極東裁判資料一覧 ◇◆

『極東国際軍事裁判記録…目録』凡例補遺

本図書室には「極東裁判資料」と通称する全860冊にのぼるコレクションがあります。そのうちの456冊は「極東国際軍事裁判記録」として、本研究所「極東国際軍事裁判資料委員会」によって整理され、冊子体目録(全3冊)が作成されています。しかし、コレクションの中には目録が作成されていないものや、あつても簡略すぎるものなどがあり、コレクションの全体を把握しにくい状況がありました。また、上記の冊子体目録によっても請求記号(配架場所を示す)に辿り着きにくいという不便がありました。そこで以上の点を改善すべく、不十分ながらカード目録の整備を行い、同時にこの一覧表を作成しました。当該コレクションの検索・利用に役立てていただければ幸いです。

1995年 盛夏
東京大学社会科学研究所
資料雑誌掛

〔凡例〕

(1) 請求記号の形

極東裁判
…
…

*分類番号 → : 本研究所で分類した資料群毎に付与した番号
*図書番号 → : 同一資料群内の1冊(巻)毎に付与した通し番号

(2) 資料区分: 分類した資料群毎に付与した項目名(分類項目名)、または収容されている資料のタイトル

分類番号	資料区分 (分類項目名)	請求記号	冊子体目録 種別その他	マイク化されている図書番号	備考
1	目録および索引類 (18巻) (社研外各所蔵機関目録等を収容)	極東裁判 1 1~18	○ 東京大学社会科学研究所蔵 極東国際軍事裁判記録「総記編」目録	6, 10, 14, 15	
	「東京大学社会科学研究所蔵極東国際軍事裁判記録…目録」 (全3冊)	極東裁判 1 19~21	×	なし	
2	公判速記録(敷) (134巻)	極東裁判 2 1~134	○ 東京大学社会科学研究所蔵 極東国際軍事裁判記録「総記編」目録	全	市販版所蔵あり (極東裁判: 9: 1~27を見よ)
	公判速記録(紋) (10巻)	極東裁判 2 135~144		なし	一部を除き重複所蔵 (極東裁判: 9: 28~35を見よ)
3	検察側証拠書類 (82巻)	極東裁判 3 1~82	○ 東京大学社会科学研究所蔵 極東国際軍事裁判記録「検察側証拠書類」目録	全	
4	弁護側証拠書類 (106巻)	極東裁判 4 1~106	○ 東京大学社会科学研究所蔵 極東国際軍事裁判記録「弁護側証拠書類」目録	7, 8, 16~17, 19~20, 23, 26~29, 31, 33, 36, 41~43, 48~53, 55, 59, 61~62, 65, 95, 100, 103	
5	公判関係資料 (61巻)	極東裁判 5 1~61	○ 東京大学社会科学研究所蔵 極東国際軍事裁判記録「総記編」目録	13, 15~25, 28, 33, 38~40, 49	
6	弁護関係資料 (43巻<45冊>)	極東裁判 6 1~45	○	5, 10~12, 16, 18~19, 23~25, 28, 30~31, 42~45	

7	関係資料 - Pearl Harbor Attack 關 (35卷)	<u>極東裁判</u> 7 1~35	×		なし	
8	極東関係資料 (331卷)	<u>極東裁判</u> 8 1~293	×		なし	
		294~331	○	岡野鑑記旧蔵資料目録		
9	Tokyo war crimes trial (22卷)	<u>極東裁判</u> 9 1~22				内容は「極東裁判：2」 の資料に同じ
	同 Index & guide (5卷)	23~27	×		なし	
	極東国際軍事裁判 速記録 (No.81 ~ 416) (8冊)	<u>極東裁判</u> 9 28~35				

は し が き

極東国際軍事裁判関係資料の有する歴史的な重要性については、ここに改めて指摘するまでもないであろう。東京大学社会科学研究所においては、その収集に努力してきたが、昭和41年度において、橋本欣五郎被告担当金瀬薫二弁護士旧蔵の同裁判関係資料を購入することができ、本格的収集の出発点とすることができた。しかし裁判当時の用紙事情その他によって、すべての資料が金瀬薫二弁護士に渡されたわけではなく、また膨大な量に及ぶ資料の中には散逸したのもあって、欠落分の補充の必要性が痛感された。そこで、これまでに同裁判資料を収集整理していた法務省、朝日新聞社、早稲田大学図書館の資料および目録を検討し、欠落分の確定につとめるとともに、追加収集にも努力したのである。とりわけ法務省は、日本においてもっともよく収集整理を行ってきたところであり、その責任者の一人である豊田隈雄氏には、多大の御教示・御援助を頂いた。この過程で豊田氏のあっせんにより小磯国昭被告担当の三文字正平氏旧蔵の資料を寄贈して頂くという幸運に恵まれ、従来の欠落を補うのに極めて役立った。豊田・三文字両氏の御好意ならびに三文字氏から資料を借覧しておられた仲小路氏の許から資料の運搬その他のあっせんにつき御尽力頂いた末光正人氏に心から感謝の意を表したい。また、法務省、朝日新聞社、早稲田大学図書館からも、それぞれ重複分の資料の御寄贈をうけて補充を行ないえたことも、われわれの心から喜びとするところであり、あわせて感謝の意を表するものである。その際御援助を頂いた朝日新聞調査研究室野坂依世氏、早稲田大学図書館中沢保氏に厚く御礼を申しあげたい。

さてこうして収集した資料は、なお欠落部分を有するものの、御寄贈下さった各方面の御好意にこたえるためにも、また研究者の研究の便宜のためにも、早急に整理し閲覧しうる状態におくことが要請された。本研究所は、文部省特定研究「日本近代化」研究組織の一環として、極東国際軍事裁判資料委員会（林茂、石田雄、利谷信義）を設け、資料の整理方針の確定とその実施を行な

うこととした。

整理にはさまざまな方式が考えられる。これまでの試みとしては、すでに、法務大臣官房司法法制調査部『極東国際軍事裁判書証一覧表』（「検事側立証」「弁護側立証・検事側反駁立証・弁護側再反駁立証」各一冊）および『極東国際軍事裁判公判日誌』（一冊）（ともに謄写印刷で出版年不明）、法務大臣官房司法法制調査部『極東国際軍事裁判資料目録』（タイプ印刷、昭和46年3月刊）、朝日新聞調査研究室『極東国際軍事裁判記録目録及び索引』（活版印刷、1953年）、中沢保「早稲田大学図書館蔵極東国際軍事裁判記録目録」（『早稲田大学図書館紀要』第5号、1963年）、および朝日新聞法廷記者団著『東京裁判』（上、中、下、1962年）などがある。本研究所では、これらを検討した上、資料の全体を次の5部門に大別し、必要があるばあいは、さらにその部門内で細分して整理することとした。すなわち、(1)「目録および索引類」(2)「公判速記録」(3)「検察側証拠書類」(4)「弁護側証拠書類」(5)「公判関係資料」である。

整理作業は、資料の性質上からも、予算の乏しさからもきわめて困難を伴ったが、竹山護夫、山口利昭、成沢光、土田とも子、植田穰、大橋真三、宗像ムツ子、中村晴美、その他の諸氏の献身的な努力によって、ようやく一応の整理をおわることができた。また整理と製本に伴う事務上の処理について、塚越由夫氏の援助にまつところも多大であった。これら諸氏に厚く感謝の意を表するものである。

整理した資料は、製本するとともに、すべて一応のカード化をおわり、利用者の使用に供することができることとなった。このカードは、まだ不十分な点もあるが、これを目録として刊行することができればさらに便利である。幸い文部省特定研究「日本近代化」研究連絡組織の御援助を得て、ここに「検察側証拠書類」の部分を目録化することができたことはまことに喜ばしい次第である。さらに残りの部分についても、順次刊行の機会をもちたいと希望するものである。

重ねて御協力頂いた関係各位に感謝の意を表し序文とする。

東京大学社会科学研究所
特定研究「日本近代化」研究組織
代表者 林 茂

東京大学社会科学研究所
特定研究「日本近代化」研究組織
代表者 林 茂

凡 例

1. 本目録は、東京大学社会科学研究所所蔵「極東国際軍事裁判記録」のうち、「検察側証拠書類」（82巻）の目録である。しかし、資料内容の検討やカード化に不十分な点があるので、「未定稿」としておきたい。

2. 「検察側証拠書類」は、証拠書類番号（Document Number）順に、英文・和文（そのいずれかしかないものは、そのみ）を並列して整理してあるから、目録もその順となっている。したがって、資料を立証段階順にみる必要のあるばあいは、法廷証拠番号（Exhibit Number）順に整理してある法務省、朝日新聞社の目録を併用する必要がある。

3. 目録の各項目、略号およびその内容説明は次の通りである。

(1) P.D.NO. (Prosecution Document 検察側証拠書類番号) これは検察側の作成した証拠書類の整理番号である。この欄に付した※印は、当該番号が、I.P.S. (International Prosecution Section 国際検察局) の作成した証拠書類の整理番号であることを示している。

(2) EX.NO. (Exhibit in Evidence 法廷証拠番号) 法廷で受理された証拠には、受理された順に通し番号がつけられている。この番号はそれを示している。本目録では、各証拠書類に記載のあったもののみを記載した。

(3) 内容 証拠書類に名称が附されているときにはこれを記載し、附されていないばあいは仮に一応の名称を附することとした。

(4) 英文・和文 存在するものには○印を附した。

(5) 備考 証拠書類が空白であるか否か、証明書の有無等についての記載がある。

検察側証拠書類 目次

巻	書類番号 (Doc. No.)	頁数
第1巻	[No. 2A ~ 16]	1
2	[No. 17 ~ 199]	4
3	[No. 200 ~ 219P(39)]	6
4	[No. 219P(40) ~ 220]	10
5	[No. 221 ~ 484]	17
6	[No. 485 ~ 590]	20
7	[No. 605 ~ 696]	22
8	[No. 699A ~ 785]	26
9	[No. 790J ~ 854]	27
10	[No. 858 ~ 949]	30
11	[No. 953 ~ 1024]	31
12	[No. 1027 ~ 1099]	33
13	[No. 1105 ~ 1203]	35
14	[No. 1204 ~ 1298]	37
15	[No. 1302 ~ 1376]	39
16	[No. 1379 ~ 1418E]	41
17	[No. 1420 ~ 1466]	45
18	[No. 1468 ~ 1509D]	47
19	[No. 1513 ~ 1561G]	49
20	[No. 1570 ~ 1598]	52
21	[No. 1603A ~ 1616]	53
22	[No. 1618A ~ 1627]	54
23	[No. 1628 ~ 1630C]	54
24	[No. 1632 ~ 1632Z]	55
25	[No. 1633A ~ 1705]	63
26	[No. 1706 ~ 1767A(22)]	65
27	[No. 1769 ~ 1879]	70

卷	書類番号 (Doc. No.)	頁数
第 28 卷	{ No. 1881 ~ 1909 }	72
29	{ No. 1915 ~ 1980 }	73
30	{ No. 1981 ~ 1999 }	75
31	{ No. 2000 ~ 2124 }	76
32	{ No. 2127 ~ 2155C }	79
33	{ No. 2156 ~ 2214 }	81
34	{ No. 2215 ~ 2227 }	83
35	{ No. 2228 ~ 2236 }	83
36	{ No. 2237 ~ 2310 }	84
37	{ No. 2311 ~ 2361 }	86
38	{ No. 2362A ~ 2414 }	88
39	{ No. 2415 ~ 2499A }	89
40	{ No. 2500A ~ 2548 }	91
41	{ No. 2549 ~ 2599 }	93
42	{ No. 2600A ~ 2628A }	96
43	{ No. 2631 ~ 2685 }	97
44	{ No. 2687 ~ 2740 }	100
45	{ No. 2741 ~ 2750 }	102
46	{ No. 2751A ~ 2759 }	103
47	{ No. 2760 ~ 2772 }	104
48	{ No. 2772A ~ 2781A }	106
49	{ No. 2782 ~ 2849 }	109
50	{ No. 2850 ~ 2854 }	113
51	{ No. 2855 ~ 2892 }	117
52	{ No. 2893 ~ 3024E }	119
53	{ No. 3028 ~ 3150 }	123
54	{ No. 3151 ~ 3334K }	124
55	{ No. 3335 ~ 4013 }	128
56	{ No. 4017A ~ 4033G }	130

卷	書類番号 (Doc. No.)	頁数
第 57 卷	[No. 4034A ~ 4051]	133
58	[No. 4052A ~ 4115]	136
59	[No. 4116 ~ 5058]	139
60	[No. 5059A ~ 5142]	142
61	[No. 5143 ~ 5217]	144
62	[No. 5218A ~ 5293]	146
63	[No. 5294 ~ 5332]	149
64	[No. 5333 ~ 5395]	151
65	[No. 5396 ~ 5444]	154
66	[No. 5445 ~ 5538]	157
67	[No. 5544 ~ 5681]	159
68	[No. 5682 ~ 5744]	161
69	[No. 5745 ~ 5779]	164
70	[No. 5780 ~ 6251]	166
71	[No. 6254A ~ 6905]	169
72	[No. 6906 ~ 6910]	170
73	[No. 6911 ~ 7050(1)]	171
74	[No. 7101 ~ 7527]	171
75	[No. 8003 ~ 8137]	173
76	[No. 8142 ~ 8383]	175
77	[No. 8388 ~ 8439]	177
78	[No. 8440 ~ 8487]	180
79	[No. 9002A ~ 9028]	182
80	[No. 9030]	183
81	[No. 9501 ~ 9546]	184
82	[No. 9547 ~ 11529]	187

1. 緒言	1
2. 研究の目的と意義	2
3. 研究の範囲と対象	3
4. 研究の方法	4
5. 研究の結果	5
6. 考察	6
7. 結論	7
8. 参考文献	8
9. 謝辞	9
10. 索引	10
11. 補遺	11
12. 参考文献	12
13. 謝辞	13
14. 索引	14
15. 補遺	15
16. 参考文献	16
17. 謝辞	17
18. 索引	18
19. 補遺	19
20. 参考文献	20
21. 謝辞	21
22. 索引	22
23. 補遺	23
24. 参考文献	24
25. 謝辞	25
26. 索引	26
27. 補遺	27
28. 参考文献	28
29. 謝辞	29
30. 索引	30
31. 補遺	31
32. 参考文献	32
33. 謝辞	33
34. 索引	34
35. 補遺	35
36. 参考文献	36
37. 謝辞	37
38. 索引	38
39. 補遺	39
40. 参考文献	40
41. 謝辞	41
42. 索引	42
43. 補遺	43
44. 参考文献	44
45. 謝辞	45
46. 索引	46
47. 補遺	47
48. 参考文献	48
49. 謝辞	49
50. 索引	50
51. 補遺	51
52. 参考文献	52
53. 謝辞	53
54. 索引	54
55. 補遺	55
56. 参考文献	56
57. 謝辞	57
58. 索引	58
59. 補遺	59
60. 参考文献	60
61. 謝辞	61
62. 索引	62
63. 補遺	63
64. 参考文献	64
65. 謝辞	65
66. 索引	66
67. 補遺	67
68. 参考文献	68
69. 謝辞	69
70. 索引	70
71. 補遺	71
72. 参考文献	72
73. 謝辞	73
74. 索引	74
75. 補遺	75
76. 参考文献	76
77. 謝辞	77
78. 索引	78
79. 補遺	79
80. 参考文献	80
81. 謝辞	81
82. 索引	82
83. 補遺	83
84. 参考文献	84
85. 謝辞	85
86. 索引	86
87. 補遺	87
88. 参考文献	88
89. 謝辞	89
90. 索引	90
91. 補遺	91
92. 参考文献	92
93. 謝辞	93
94. 索引	94
95. 補遺	95
96. 参考文献	96
97. 謝辞	97
98. 索引	98
99. 補遺	99
100. 参考文献	100

検 察 側 証 拠 書 類 第 1 卷

P. D. No	EX. No	内 容	英 文	和 文	備 考
2A		第三次近衛内閣交迭の顛末	○	○	
10B-1	2170	外国抗議ニ対スル外務省発各省宛送付書	○		
10B-2		1929年7月27日の俘虜の待遇に関する国際条約に関し、米政府申入伝達に関する件		○	
10B-3	2172	外国抗議ニ対スル外務省発各省宛送付書	○		
10C	1469	ベルン、1942年2月4日付平信 午後2時24分受領 在華盛頓國務長官宛 398第4、在日本、米國權益	○	○	
10D	1470	1942年2月14日ワシントン発 在ベルン米國公使宛電報(比島ニ於ケル不法行為ニ対スル抗議)(米政府→日本政府 1942年2月14日 比島抑留者ノ待遇ニ関シ)	○	○	
10E	1471	1942年2月24日ベルン発國務長官宛電報(日本ヨリノ返答)	○	○	
10F	1472	1942年3月9日ベルン発國務長官宛電報(日本ヨリノ返答)	○	○	
10G	1473	1942年3月19日ワシントン発 在ベルン米國公使宛電報 俘虜取扱ニ関スル日本ヘノ通報(米政府→日本政府 1942年3月19日米國俘虜収容所ノ日本人ニ対スル供食状況)	○	○	
10H	1474	1942年4月3日 在ベルン米國公使宛電報(米政府→日本政府 1942年4月3日赤十字社員比島派遣ノ件)	○	○	
10I	1475	1942年5月21日 在ベルン米國公使館宛電報(米政府→日本政府 1942年5月21日寿府条約ノ適用要求)	○	○	
10J	1476	1942年11月17日 在ベルン米國公使館宛電報(日本人ニヨル虐待ノ一例)(米政府→日本政府 比島ニ於ける婦女子の強姦ニ対する抗議)	○	○	
10K	1477	1942年12月12日 在ベルン米國公使館宛電報(米人抑留者ニ関シテ)(米政府→日本政府 1942年12月12日俘虜虐待ニ対スル抗議)	○	○	

10L	1478	1943年4月5日 在ベルン米国公使館宛電報(俘虜虐待に対する抗議)(米国政府→日本政府 1943年4月5日戦争法規違反ニ対スル警告 俘虜抑留者虐待ニ対スル協議)	○	○
10M	1479	在ベルン米国公使館宛電報(日本軍ノ罪状項目)(1944年2月5日俘虜抑留者虐待ニ対スル協議)	○	○
10M-1	2173	居秘合第93号 昭和19年2月12日 俘虜情報局長官殿 外務次官(外国抗議ニ対スル外務省発各省宛送件書)	○	○
10N	1480	1944年6月21日 在ベルン米国公使館宛電報(1944年6月21日スイス代表ノ日本抑留所訪問希望)	○	○
10P	1481	1944年9月11日付 在ベルン米国公使館宛電報(フィリッピンニ於ケル米人抑留者ニ関シテ)	○	○
10S	1482	1945年3月10日 在ベルン米国公使館宛電報(ミンダナオニ於ケル俘虜虐待)	○	○
10S-1	2174	居秘合第192号 昭和20年4月25日 外務省在敵国居留民関係事務室 鈴木公使 俘虜情報局長官殿	○	○
10T	1483	1945年4月6日付 在ベルン米国公使館宛電報(米人4名殺害ノ通報)	○	○
10U	1484	1945年5月19日付 在ベルン米国公使館宛電報(G・J・ルイスノ不法虐殺)	○	○
10V	1485	1945年5月19日 在ベルン米国公使館宛電報(150名ノ米人俘虜虐殺)	○	○
10W	1486	1945年6月8日 在ベルン米国公使館宛電報(米国政府→日本政府 抑留者虐待ニ対スル警告)	○	○
10X	1487	1945年7月31日 在ベルン米国公使館宛電報(在日米人抑留者ノ食糧状態)	○	○
10Y	1467	アーサー・A・サンダスキー証明書	○	○
11A(2)	639A	独外務省ヨリノ押収文書綴抜萃1941.7.4「トマス」(在バンコック)ヨリ独本国宛電報(日本ノ蘭印交渉失敗ノ結果石油ノ実力ノ獲得ノ為仏印ニ進出スベシ)(1941年7月4日発電 独逸機密事項)	○	○
11A(3)	639B	独外務省ヨリノ押収文書綴1941.7.10「オット」大使ヨリ独本国宛電報(日本ノ仏印行動時機切迫 独ノ背後ヨリノ援助希望)	○	○

11A(5)		電報(秘密暗号法)東京1941年(昭和16年)7月22日6時40分,着・1941年(昭和16年)7月22日17時40分,20日付第1304号電報ニ関シテ「オット」ヨリ	○	○
11A(6)	655	1941.11.17「エルドマンズドルフ」ヨリ独外国宛電報(北方又ハ南方ニ於ケル日本ノ行動ニ関スル大島大使ノ個人的意見)	○	○
11A(7)	806	電報(オットより)東京1942年(昭和17年)1月29日7時,着・1942年(昭和17年)1月29日午後10時15分	○	○
12		第八.桜会		○
13C		昭和11年12月17日附「太陽大日本」紙第1頁掲載「青年諸子に告ぐ」と題する橋本欣五郎の論文抜粋 要略	○	○
15		外交資料 日米交渉記録ノ部(昭和16年2月ヨリ12月マデ)外務省編纂		○
15B	1327	第79議会第1会議ニ提出セラレタル真珠湾共同委員会印刷物中、1941年7月1日ヨリ同年12月8日迄ノ間ニ於テ日本政府ヨリ発セラレタル傍受外交通牒	○	○
15E	1159	豊田外相→野村大使(米独関係緩和の希望)	○	○
15F(3)	803	「真珠湾」ヨリノ抜粋(15頁~16頁)1941年7月1日~12月8日間ニ日本政府ヨリ送ラレタル外交通信傍受 東京発ベルリン宛電報	○	○
15F(4)		「真珠湾」ヨリノ抜粋(16頁)1941年7月1日~12月8日間ニ日本政府ヨリ送ラレタル外交通信傍受 東京発ベルリン宛電報	○	○
15F(6)	814	「真珠湾」ヨリノ抜粋(19頁)1941年7月1日~12月8日間ニ日本政府ヨリ送ラレタル外交通信傍受 東京発ワシントン宛電報	○	○
15G	1191	「真珠湾」抜萃 188頁~191頁 来栖大使→山本「アメリカ」局長電話	○	○
15H	1194	国際検察部書類(1941.11.29東京発ワシントン宛一合衆国側ノ態度変化ニ対スル反省要求)	○	○
15I	1145	第79議会第1会議ニ提出セラレタル真珠湾共同委員会印刷物中1941年7月1日ヨリ同年12月8日迄ノ間ニ於テ日本政府ヨリ発セラレタル傍受外交通牒ヨリノ電報 ワシントン(野村)ヨリ東京へ 1941(昭16).10.8,907号(412部)	○	○

15J	1187	1941(昭16).11.25ハノイ発東京宛電報(日米交渉に関して)	○	○
16A		憲兵隊報告第352号 日本本土を空襲せる亜米利加航空士の調査に関する件の報告 憲兵司令官「中村アキト」より参謀総長杉山元宛 1942年5月26日	○	○
16B		陸軍一般命令第2190号(秘)空襲に参加せる敵航空隊員の処置に関する通牒 発信者 木村兵太郎/KIMURA HEITARO/(陸軍次官) 受信者 後宮淳/USHIROKU JUN/総参謀長. 1942年7月28日	○	○

検 察 側 証 拠 書 類 第 2 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
17	※	Combined Fleet Top Secret Operation Order.	○		
17	1252	西南太平洋地区総司令部公書		○	
24	28.29	支那=関スル九国条約		○	
35	63	「ブリュッセル」ニ於ケル支那=関スル九国条約締約国会議経緯		○	
38		「外国関係(日米間)1931年→1941年第2卷」ヨリノ抜粋 グルーニ依ル覚書 南方「アジア」ヘノ進出	○	○	
39		仏印交渉 昭和15年9月23日付 外務省発表	○	○	
88	22	太平洋方面=関スル交換公文		○	
106	26	太平洋方面ニ於ケル和蘭国ノ島嶼タル属地ニ関スル権利尊重ニ関スル声明		○	
117	52	日本国和蘭国間司法的解決 仲裁裁判及調停条約		○	
145	2313	日本国「ソヴィエト」社会主義共和国聯邦間漁業条約 昭和3年5月25日公布	○	○	
149		「ヤップ」島及他の赤道以北の太平洋委任統治諸島に関する日米条約	○	○	
166		第33 不戦条約 戦争抛棄ニ関スル条約	○	○	
167		天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本国皇帝裕仁此ノ書ヲ見ル	○	○	

173	24	締約国は互に太平洋方面に於ける其の島嶼たる属地及島嶼たる領地に関する其の権利を尊重すべきことを約す	○
174	25	太平洋方面に於ける島嶼たる属地及島嶼たる領地に関する四国条約追加協定	○
177		聯盟国ハ其ノ軍備ノ規模・陸海及空軍ノ企画並軍事上ノ目的ニ供用シ得ベキ工業ノ状況ニ関シ充分ニシテ隔意ナキ報道ヲ交換スベキコトヲ約ス	○
178	75	Imperial Ordinance Relating to the Organization of the ministry of the Navy. (海軍省官制)	○
179	73	Imperial Ordinance Relating to General Rules concerning the Organization of the Ministrie. (各省官制通則)	○
180	74	Organization of the War Ministry. (陸軍省官制)	○
181		Concerning Military Ordinances (Sept. 11. 1907 Military Ordinance No 1)	○
182	1959	Certificate of Illness (NAGANO) (永野被告死亡関係証明書)	○
182	76	Imperial Ordinance Relating to the Organization of the ministry of Forcingr Affairs. (外務省官制)	○
183	79	Imperial Ordinance relating to the Organization of the Naval General Staff Office. (海軍軍令部令)	○
184	78	参謀本部条例 朕参謀本部条例は改正し之が施行を命ず	○
185	80	大本營令 朕大本營令を制定し之が施行を命ず	○
188		陸戦の場合に於ける中立国及中立人の権利義務に関する条約	○
189		印度支那軍司令官と在印度支那日本陸海軍代表との間に於て締結されたる協定	○
190		日本国中華民國間基本関係に関する条約	○
193	34	各国の海軍軍備制限に関する条約の批准書寄託調書 1923年8月17日	○
194	35	第34「ロンドン」海軍条約	○

195	95	内大臣府官制		○
196	94	第5編 官規第1章 官制・職制		○
197	87	拓務省官制		○
198	88	内務省官制		○
199	68	The Constitution of the Empire of Japan. (大日本帝国憲法)		○

検 察 側 証 拠 書 類 第 3 卷

P. D. No	EX. No	内 容	英 文	和 文	備 考
200		The Imperial House Law. (皇室典範)	○		
201	70	内閣官制	○	○	
202	81	議院法		○	
202F		J. B. ポーウェル著 「在華25年」より P. 92, P. 93	○		(9)のみ和文付
203	82	貴族院令	○	○	
203C		III. Development of manufacturing. Excerpt from "Manchuria—Land of Opportunity"	○		1~8ページ前半脱落
204	83	枢密院官制		○	
203D		IV. Commerce and finance. (1) Foreign Trade of Manchuria Excerpt from "Manchuria—Land of Opportunity"	○		
204A (5.6)		満州ニ於ケル日華衝突ノ概況		○	1~4なし
205	84	国家総動員法	○	○	

206	85	大日本帝国憲法告文	
207	93	陸海軍大臣の現役将官制	
208		俘虜情報局官制 昭和16年12月29日	
209	71	企画院官制	
210	72	情報局官制	
211	86	憲法前文	
212	89	軍需省官制	
213	90	大東亜省官制 昭和17年11月1日	
214	91	文部省官制	
216	97	昭和15年勅令第843号内閣官制第10条の規定に依り国務大臣として内閣員に列せしめらるる者に関する件中改正の件	
217	98	治安維持法 昭和16年3月10日	
218	27	太平洋方面に於ける葡萄牙国の島嶼たる屬地に関する権利尊重に関する声明	
219B		亜米利加合衆国ノ外国關係ヨリ拔萃 1931~1941 第11員ヨリ同12員 日本大使館ヨリ(米国)國務省宛 1931年9月24日臨時閣議後發表セラレタル声明	
219C		「1931年ヨリ1941年ニ至ル米日外交關係第1卷」ヨリノ拔萃 第50頁 793.94/2856 電報 駐日大使(フォーブス)ヨリ國務長官宛 1931年11月24日発信	
219G		日米外交關係書よりの拔萃 上海に於ける軍事行動	
219H		1937年10月6日國際連盟總會ニ依り採択サレタル第一回報告書	
219I		日本駐割「フォーブス」大使ヨリ國務長官宛電信訳文	
219M		米国ノ外交關係ニ関スル書類	

219P (1)	920	1931.9.22 スチムソン 國務長官備忘録 (日本大使トノ会談 満洲事変勃発ニ関シテ)	○	○
219P (2)	921	1931.9.22 國務長官ノ日本大使ニ対スル覚書 (満洲事変ノ勃発ニ関シ)	○	○
219P (3)	922	1931.9.24 國務長官発駐日代理公使宛電報 (覚書ヲ日本政府ヘ手交スベキ命令)	○	○
219P (4)	930	電報 1952.1.7 「スチムソン」→「フォールズ」駐日大使 (米ハ連盟決議ニ賛成ナル旨申入レノ訓令) (「日米外交関係文書」書証番号58号ヨリノ拔萃)	○	○
219P (5)	923	1931.9.24 臨時閣議ノ後発セラレタ声明ノ拔萃 (日本大使館ヨリ國務省ヘ)	○	○
219 (6)	924	1931.9.28 日本外相ヨリ米大使館宛書簡拔萃	○	○
219P (7)	925	1931.9.30 国際聯盟理事会ニヨリ採択セラレタル決議	○	○
219P (8)	926	1931.10.9 「スチムソン」→「ギルバート」ジュネーブ公使 米ノ態度ニツキ連盟ニ取次ヲ訓令セルモノ (「日米外交関係文書」書証番号58号ヨリノ拔萃)	○	○
219P (9)	927	1931.10.24 連盟理事会決議 (日本軍隊ノ撤退・支那側ノ日本權益保全) (「日米外交関係文書」書証番号58号ヨリノ拔萃)	○	○
219P (10)	928	1931.12.10 連盟理事会決議 (戦斗行為ノ中止・5名ノ調査委員会ノ決定) (「日米外交関係文書」書証番号58号ヨリノ拔萃)	○	○
219P (11)	929	1931.12.11 「スチムソン」→「ジョンソン」(駐支公使) (米ハ12-10 連盟決議ニ賛成ストノ声明ヲ発表) (「日米外交関係文書」書証番号58号ヨリノ拔萃)	○	○
219P (12)	933	電報 1933.2.25 「スチムソン」→「ウィルソン」(スイス公使) (米ノ連盟決議ニ同意ナル旨ノ再表明) (「日米外交関係文書」書証番号58号ヨリノ拔萃)	○	○
219P (13)	931	電報 1932.1.16 「フォールズ」→「スチムソン」(満州ニ領土ノ野心ナシ) (「日米外交関係文書」書証番号58号ヨリノ拔萃)	○	○

219P (14)	932	電報 1932.2.24「スチムソン」→「カニンガム」(米国の原則ノ明示) 上海総領事(「日米外交関係文書」書証番号58号ヨリノ抜萃)	○	○
219P (15)	934	1934.11.14「グルー」→国務長官(満洲国建設ニ関スル報告)(「日米外交関係文書」書証番号58号ヨリノ抜萃)	○	○
219P (16)	940	1937.10.30 奉天領事→駐支大使(大橋領事米国ノ与論悪化通告ノ報告)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (17)	965	1934.8.31 米大使館→日外務省非公式声明(満洲ノ石油統制ニ関スル非公式覚書)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (18)	939	1934.11.30 米大使→日外相覚書(満洲ノ石油統制ニ関スル抗議)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (19)	941	1935.4.16「グルー」→広田外相口頭声明(満洲ノ石油統制ハ米ノ与論ヲ悪化セリ)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (20)	944	1937.12.1「グルー」→広田外相覚書(満洲ノ治外法権撤廃ニ米国ハ従ヒ得ズ)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (21)	966	「スチムソン」覚書 1933.1.5(日本ハ長城線以南ニ領土的野心ナシトノ保証ヲ与フ)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (22)	935	日外務省非公式声明 1934.4.17(日本ノ満洲ニ於ケル権利ノ主張・連盟脱退示唆)(「日米外交関係文書」書証番号58号ヨリノ抜萃)	○	○
219P (23)	936	電報 1934.4.25「グルー」→国務長官(広田外相トノ会談報告)(「日米外交関係文書」書証番号58号ヨリノ抜萃)	○	○
219P (24)	937	1934.5.19「ハル」覚書(日本大使ハ支那ニオケル日本ノ優越性ヲ主張・米国ハ平等ヲ要求)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (25)	938	1935.12.5「ハル」ノ声明(米ハ北支ノ事態ヲ嚴重監視ス)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (26)	942	1934.12.29 斎藤大使→「ハル」通告(華府条約廃棄通告)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (27)	943	電報 1936.1.15「デービス」→「ハル」(日本ノ共通最大限軍備制限ニハ米国ハ賛成シ得ズ)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○

219P (28)	945	1936.1.15 永野全権→「ロンドン」会議々長(ロンドン軍縮会議脱退通告) (「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (29)	946	電報 1937.6.18 「グルー」→「ハル」(備砲口径制度ニ日本ハ参加セズ) (「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (30)	948	「ハル」覚書 1936.6.12 (米国ハ国際平和ヲ希望ス)(「日米外交関係 文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (31)	947	「ハル」声明(米国ハ国際紛争調停ノ責任及権利ヲ有ス)(「日米外交関係文書」 58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (32)	949	「ハル」覚書 1937.7.21 (日本大使トノ会談・米ノ紛争調停意向申入・ 日本ハ事変不拡大防止ノ言明)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (33)	950	「グルー」覚書 1937.8.10 (日支事変解決交渉ニ協力ノ旨外相ニ申入) (「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (34)	951	1937.8.13 日本大使館→米國務省文書(極東ノ特殊事情理解ニ関スル申 入レ)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (35)	952	1937.8.23 國務省新聞発表(米ハ日支平和解決ヲ要望ス)(「日米外交 関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (36)	953	1937.9.28 「ハル」→駐「スイス」公使(日支事変ハ不戦条約九ヶ国条約 違反)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (37)	961	「ルーズベルト」演説 1937.10.5 (日本ノ行動非難)(「日米外交関係 文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (38)	962	1937.10.6 国際聯盟総会ニ依リ採択セラレタル第一報告抜萃(日本軍支 那侵入の件)(外国関係 P.384、P.393~394)	○	○
219P (39)	963	1937.10.6 國務省ニヨッテ発セラレタ新聞発表抜萃(支那における日本 の行動に対する非難)(外交関係I P.396~P.397)	○	○

検 察 側 証 拠 書 類 第 4 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
-----------	---------	-----	-----	-----	-----

219P (40)	964	電報 1937.12.23「ヤーネル」「アジア」艦隊長官→海軍大佐(パネイ号事件=対スル委員会報告)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (41)	967	國務長官演説 1938.3.17(米ノ努力・日本ニ対スル警告)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (42)		日本総理大臣ノラジオ演説(近衛公爵)抜萃	○	○
219P (43)		日本外務大臣(有田)ヨリ日本駐割米国大使(グルー)1938年11月18日	○	○
219P (44)	987	1938.11.19「ドウマン」米大使館参事官覚書(米ノ対支政策ヲ日本大使ニ申入レタル件)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (45)		日本駐割米国大使館ヨリ日本外務省ニ対スル補助覚書 1937.9.1	○	○
219P (46)	955	1937.9.17「グルー」→広田外相通牒(「ミッション」病院爆撃ノ抗議文)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (47)	956	1937.9.22「グルー」→広田外相通牒(南京ヨリ米人引揚勧告ニ対スル抗議)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (48)	957	1937.9.25 備忘録 米極東局長→日本大使館参事官(非戦闘員爆撃ニ関スル抗議)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (49)	958	1937.9.27 連盟委員会決議(日支ノ非武装都市爆撃ハ犯罪ナリ)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (50)	959	國務省新聞発表 1937.9.28(日本ノ非武装都市爆撃ハ不法ナリ)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (51)	960	國務省新聞発表 1938.1.31(日本兵ノ「アリソン」殴打事件)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (52)	969	1938.2.4駐日アメリカ大使(グルー)→外務大臣(広田)(米權益侵害ニ対スル抗議)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (53)	971	1938.3.26米大使館→外務省覚書(上海米布教団權益侵害ニ対スル抗議)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○

219P (54)		在日アメリカ大使館ヨリ日本外務省へ抜萃第925 (外国関係I・590頁)	○	○
219P (55)	974	1938.5.30 米大使館→外務省 (南通市ニ於ケル米教会ニ対スル日本水上機4機ノ爆撃ニ関スル抗議) (「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (56)	975	1938.5.31 米大使館→外務省 (上海米教会・学校ニ対スル日本機ノ爆撃ニ関スル抗議) (「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (57)	976	米大使館→外務省 1938.6.10 (蘇州ノ米病院兵舎ノ不法接収ニ関スル抗議) (「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (58)	980	1938.5.28 「グルー」大使→宇垣外相申入 (山東省, 教会爆撃) (「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (59)	981	「グルー」大使→宇垣外相申入 1938.8.16 (武昌米教会爆撃) (「日米外交関係文書」58号抜萃)	○	○
219P (60)	982	「グルー」大使→宇垣外相 1938.8.26 (澳門爆撃) (「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (61)	983	「グルー」大使→有田外相申入 1938.10.31 (河南省ノ米教会爆撃) (「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (62)	985	「グルー」大使→有田外相申入 1939.3.30 (米人ノ生命財産・權益侵害ニ対スル抗議) (「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (63)		駐日米大使グルー (Grew) ヨリ日本外務大臣有田への口頭による申入 1939年5月11日	○	○
219P (64)		駐日代理大使ドウマン (Dooman) ヨリ國務長官への報告 1939年5月22日午後6時発	○	○
219P (65)		國務長官ヨリ日本駐割大使 (Grew) への報告 1939.7.6	○	○
219P (66)		國務長官覚書 (ワシントン) 1939年 (昭和14年) 7月10日	○	○
219P (67)	1000	駐日アメリカ大使グルーヨリ日本外務大臣 (野村) へ 抜萃 1939.12.5 (対外関係第1冊670頁)	○	○

219P (68)	1002	米大使館→外務省 1940.4.28 (天津ニ於ケル日本軍ノ米權益ニ対スル不当干渉ニ対スル抗議(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (69)	1010	1940年6月13日附国務省ノ新聞発表抜萃(外文関係第1冊690頁)	○	○
219P (70)	1011	駐日アメリカ大使(グルー)発 日本外務大臣宛(松岡)抜萃.第1630号 東京 1940年(昭和15年)9月13日	○	○
219P (71)	1034	駐日米大使(グルー)ヨリ日本外務大臣(松岡)宛てたる書簡 1940.11.26	○	○
219P (72)		駐日米大使(グルー)ヨリ日本外務大臣(松岡)へ呈スル書簡(抜萃) 1941.2.4	○	○
219P (73)	1064	駐日米大使(グルー)ヨリ日本外務大臣代理(近衛公)へ 1941年4月14日 東京 抜萃 1779号	○	○
219P (74)	1069	駐日米大使(グルー)ノGREWノヨリ日本外務大臣(松岡)へ 抜萃 1793号 東京 1941.5.6(1941.4.29の米大使館爆撃ニ対スル抗議) (外交関係第1冊P.711)	○	○
219P (75)	1072	駐日米大使(グルー)ノGREWノヨリ日本外務大臣(松岡)へ 抜萃 第1802号 東京 1941.5.17 日本軍ノ無差別爆撃ニ対スル抗議(外交関係I P.713)	○	○
219P (76)	1082	駐日アメリカ大使(グルー)ヨリ日本外務大臣(松岡)宛書簡抜萃 第1817号 東京 1941.6.4 日本軍ノ重慶メソヂスト監督伝導会資産爆撃ニ対スル抗議 (外交関係I P.714)	○	○
219P (77)	1088	グルーヨリ国務長官宛てたる電報 東京発信1941年6月16日	○	○
219P (78)	1099	駐日米大使(グルー)ヨリ日本外務大臣(松岡)宛書翰1941.7.8	○	○
219P (79)		1937年12月26日付合衆国亜細亞艦隊司令長官ヤーネル発国務長官宛書簡	○	○
219P (80)	968	1938.1.31「グルー」大使→広田外相通告(北支ニ於ケル関税率改正ニ関スル抗議)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○

219P (81)	970	1938.4.4米大使館→外務省補助覚書(南京在任米人權益侵害ニ対スル抗議) (「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (82)	973	1938.10.3「グルー」大使→近衛首相口頭申入(中国ニ於ケル米權益尊重 ・門戸開放機会均等ノ申入レ)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (83)	984	「グルー」大使→有田外相申入 1938.11.7(米船舶ノ航行制限・商品ニ 対スル侵害ヘノ抗議)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (84)	986	「グルー」大使→有田外相申入(口頭)(權益尊重・米ノ対支政策)1938. 11.21(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (85)		駐日アメリカ大使グルー(Grew)発日本外務大臣宛抗議文 1938.11.24	○	○
219P (86)		駐日米国外使グルー(Grew)ヨリ日本外務大臣(有田)ヘノ覚書 1938年 12月30日	○	○
219P (87)		駐日米大使グルー(Grew)発日本外務大臣(有田)宛覚書 1939.3.11	○	○
219P (88)		駐日米国外使館参事官ドゥマン(Dooman)ヨリ日本外務大臣(阿部)宛書簡 1939.9.1	○	○
219P (89)	1001	「グルー」大使→有田外相 1940.2.6(汕頭ニ於ケル輸入物資ニ対スル重 課税ニ対スル抗議)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (90)	1004	「グルー」大使→有田外相 1940.3.20(南支那海軍部隊ノ米会社桐油輸 出拒絶ニ対スル抗議)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (91)	1005	米大使館→外務省補助覚書 1940.7.15(北支ニ於ケル米米貿易ノ差別待 遇ニ関スル抗議)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (92)	1022	国務長官代理「グルー」大使 1940.8.9(7月中ニ於ケル日本ノ各種不法 行為ニ関スル通知)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (93)	1024	「グルー」大使→松岡外相 1940.9.18(中国ニ於ケル米石油製品ノ貿易 妨害ニ対スル抗議)(「日米外交関係文書」58号ヨリ抜萃)	○	○
219P (94)	1031	駐日米国外使(グルー)ヨリ日本外務大臣(松岡)宛抜萃(北支ニ於ける米ニ対す る經濟妨害ニ対しての抗議)1940年10月11日	○	○

219P (95)	1032	駐日米国大使(グルー)より日本外務大臣(松岡)宛てたる書翰抜萃 北支に於ける日本陸軍の軽工業用原料の検査及船積みの監理に関する申入れ 1940年10月24日	○	○
219P (96)		国務省より日本大使館宛 1941.8.13	○	○
219P (97)		1933.5.3駐日大使(グルー)ヨリ国務卿宛電報	○	○
220C (12)	1052	電報 発 駐日米国大使「グルー」宛 国務長官 抜萃 東京1941(昭16)2.27 外務大臣(松岡)とグルーとの会談の件(外交関係Ⅱ P.308~309)	○	○
220C (13)	1100	日本外務大臣(松岡)ニ対スル駐日米国大使(グルー)ノ口頭声明	○	○
220C (14)	1102	国務省発表新聞紙掲載 昭和16年7月24日(仏印問題)	○	○
220C (15)		日本外務大臣(豊田)ヨリ日本駐割米国大使(グルー)宛回答抜萃 1941年7月25日付	○	○
220C (16)		1941.8.2国務省発表ノ新聞記事(外交関係Ⅱ 320.321頁)	○	○
220C (17)	1027	日本大使館より米国務省宛抜萃 屑鉄其の他原料の日本への輸送に関する処置に対する申入れ 1940年10月7日	○	○
220C (18)	1014	談話大略 国務省内ニテ準備セル覚書(ワシントン)1942(昭和17)年5月19日 1941年(昭和16)合衆国政府及日本政府トノ間ニ行ハレタ非公式会談ノ説明抜萃(外交関係Ⅱ 525.329.330頁)	○	○
220C (19)		会談概要 国務省ニ於テ調整サレタル覚書 1942年5月19日ニ行ハレタ日米両国間ノ非公式会談記録抜萃	○	○
220C (20)	1043	国務長官ニ依ル覚書抜萃 1941(昭16)2.14ワシントン 在米日本大使と米大統領の会談の件(外交関係Ⅱ P.387~388)	○	○
220C (21)	1056	国務長官覚書抜萃 1941年3月8日(ワシントン)(外交関係第2巻 P.389.R392-3.395)	○	○

220C (22)	1057	國務長官ニ依ル覚書(ワシントン)1941年3月14日 抜萃(外交関係Ⅱ P. 396 at PP. 397~398)	○	○
220C (23)	1059	1941年(昭和16年)4月9日私人タル米国人及ビ日本人ノ個人ヲ通ジテ國務省ニ提出セラレタル提案(外交関係Ⅱ P. 498~502)	○	○
220C (24)	1060	國務長官ノ覚書抜萃 ワシントン1941(昭16)4.14 日米関係改善ニ關するもの(外交関係Ⅱ P. 402~403)	○	○
220C (25)	1061	國務長官覚書(ワシントン)1941年(昭16)4月16日抜萃(外交関係Ⅱ P. 406~407)	○	○
220C (26)	1070	1941(昭和16)5.12 日本大使(野村)ヨリ國務長官ニ手交セラレタ提案ノ草案 「アメリカ」合衆国ト日本政府トノ間ニ協定セラレタル秘密覚書(外交関係Ⅱ P. 420~425)	○	○
220C (27)	1071	附属書類 昭和16年5月16日國務長官ヨリ日本大使ニ手交サレタ提案A・B・C(外交関係Ⅱ P. 432-434)	○	○
220C (28)	1077	会談覚書 ワシントン 昭和16年5月28日	○	○
220C (29)	1078	野村大使ニ手交セラレタ米國提案ノ草案 ワシントン 昭和16年5月31日	○	○
220C (30)	1079	野村大使ニ手交サレタル米國側声明 昭和16年5月31日 日本側草案ニ対スル修正提案ノ口頭釈明予備声明	○	○
220C (31)	1080	野村大使ニ手交されたる米國の非正式且非公式口頭声明 昭和16年5月31日	○	○
220C (32)	1081	國務長官ニ依ル覚書(ワシントン)昭和16年6月2日	○	○
220C (33)	1083	会談覚書(ワシントン)ニ於テ 昭和16年6月4日 合衆国政府側ノ附属書及ビ補足書	○	○
220C (34)	1085	國務長官ヨリ日本大使(野村)ニ手渡サレタル非正式且非公式口頭声明書 昭和16年6月6日	○	○

220C (35)	1087	日本大使(野村)ノ同職ヨリ非公式ニ受取りタル草案 昭和16年6月15日	○	○
220C (36)	1091	国務長官から日本大使(野村)ニ手交された口述声明 昭和16年6月21日	○	○
220C (37)	1092	国務長官ヨリ日本大使(野村)ニ手交セラレタル提案ノ草案「ワシントン」ニテ 昭和16年6月21日	○	○
220H	1232	合衆国外交関係ニ関スル文書ヨリノ抜萃「会談備忘録」ワシントン 1941年 12月7日 日本大使ノ対米覚書手交ノ状況	○	○
220J		1941.12.5 日本大使(野村)ヨリ国務長官ニ手交サレタ声明書	○	○
220M	1289	電報 駐蘇大使(スタンハート)ヨリ国務長官宛 1941.3.24 「1931年(昭和6年)ヨリ1941年(昭和16年)ニ至ル日米外交関係」 第2巻143頁~145頁)	○	○
220N	1287	1940.5.11 国務省ヨリ出サレタル新聞発表(日米外交関係第2巻1931~1941年度285頁)	○	○
220P	1288	米国国務長官覚書1940.5.16(華府)(米国外交関係一日本第2巻 1931年~1941年285頁~288頁)	○	○
220R	1292	電報 国務長官ヨリ日本駐在米国大使(グルー)宛 1940.6.22 米国外 対外関係 日本(1931~1941)86頁~87頁	○	○
220S	1293	1940.6.24 「グルー」覚書 有田外相ト会談	○	○
220T	1296	1940.6.28 有田外相「グルー」口頭声明(米国条約ニ関シテ)	○	○

検 察 側 証 拠 書 類 第 5 巻

P.D. No	EX. No	内 容	英 文	和 文	備 考
221F		平和と戦争より抜萃 P.475 国務長官より日本大使(堀内)宛		○	
222	99	国家総動員法の規定に基き制定せられたる諸勅令		○	

223Q	1939年5月22日「第二世界戦争誘因事跡」191頁 断片	○	○
223X	昭和16年6月22日 独逸ハ.....ソ聯ニ侵入シタ	○	○
225	45 ソビエツト聯邦と日本国間との中立条約		○
226	67 在米日支資産の凍結		○
227	20 大連會議に於いて極東共和国代表者に対し日本国代表者より提出された原案 1922年4月		○
228	日本・労働社会主義共和国連邦關係ノ基本規定ニ關スル協約		○
229	理事会の提案は実行せられざりき戦闘が繼續せる一方総会は3月3日両当事国代表 の言をききたる後3月4日決議を採択		○
231	日ソ中立条約廢棄に就いて		○
232	日本政府に対するソヴィエツト政府宣言		○
233	日露講和条約 1905年9月5日「ボニツマス」にて署名		○
234	60 中華民國代表團からの通牒 1938年9月11日		○
235	規約17条第1項に基く理事会の9月19日付帝國政府宛招請状		○
236	62 規約第17条1項に基く理事会の招請状に対する9月22日付帝國政府回答		○
237	66 日本ノ國際連盟脱退		○
238	65 日本ノ國際連盟脱退通告文		○
239	1105 宣誓口供書 ジョセフ・クラーク・グルー	○	○
300	INDEX From FAR EASTERN COMMISSION OF INQUIRY (MILITARY)		○
300A-1	Mr. Yoshizawa Foreign Minister. March 3. 4. 5. 7. 8 Tokyo 1932		○
300A-2	General Araki War Minister. March 5 Tokyo 1932		○

300A-3		Admiral Osumi Navy Minister. March 7 Tokyo 1932	○	
300A-4		Admiral Nomura. Admiral Shiozawa Japanese Navy. March 18 Shanghai 1932	○	
300A-5		Dr. Koo Chinese Assessor. March 25, 1932 Shanghai	○	
300A-6		Mr. Matsuoka Special Representative. March 22, 1932 Shanghai	○	
300A-7		Chinese Government Leaders. March 30. 31, 1932 Nanking	○	
343		大佐橋本欣五郎ノ訊問 1946年2月18日	○	○
405A		証拠書類405号4頁~7頁より抜萃	○	
405B		証拠書類第405号第18頁より24頁に至る抜萃	○	
409A		証拠書類第409号第7頁より抜萃	○	
425	1445	昭和19年7月~20年5月22日付の日記帳抜萃	○	○ 証明書付
426	1440	載録1-18892-A項ヨリノ抜萃(日本兵士日記)	○	○
428	1445	1945年6月28日付ATIS 西南太平洋公報第2089号中ノADVATIS 公報第710号項目第5-605588号より抜萃	○	
433		中支那振興株式会社法(昭和13年4月30日 法律第82号)	○	
436		満洲拓植公社ノ設立ニ関スル協定	○	○
438A		満洲重工業開発株式会社定款	○	
438B		満洲重工業開発株式会社管理法(康德4年12月20日 勅令第460号)	○	○ 証明書付
439		北支那開発株式会社法(昭和13年4月30日 法律第81号)	○	
440A		南満洲鉄道株式会社ニ関する件(明治39年6月7日 勅令第142号)	○	

451		大政翼賛会 証拠書類451番抜萃				<input type="radio"/>
454	277	第85回帝国議会に於ける内閣総理大臣演説				<input type="radio"/>
465		視察委員に対し、行ひける土肥原の演説				<input type="radio"/>
468A		ADDRESS OF HLS EXCELLENCY GENERAL HIDEKI TOJO REPRESENTATIVE OF JAPAN NOV.5, 1943				<input type="radio"/>
472		松岡洋右演説集抜萃				<input type="radio"/>
474		ナゼ既成政党ノ解消ヲ叫ブカ? 松岡洋右著				<input type="radio"/>
475		「興亜の大業」松岡洋右著				<input type="radio"/>
478A		「枢軸国=使シテ」松岡洋右述				<input type="radio"/>
479		「昭和維新」松岡洋右著				<input type="radio"/>
480		青年よ起て一世界変局と大和民族の使命—松岡洋右著				<input type="radio"/>
483		「政党を脱退して日本国民に訴ふ」松岡洋右				<input type="radio"/>
484		「満鉄を語る」抜萃 松岡洋右				<input type="radio"/>
484B		「革新の必然性」橋本欣五郎著				<input type="radio"/>

検察側証拠書類 第6巻

P. D. No.	EX. No.	内 容	英文	和文	備 考
485		「動く満蒙」松岡洋右		<input type="radio"/>	
487		「青年に贈る」橋本欣五郎著 (序文、第一章、第二章、第三章、第四章)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
487B	1290 A	ADDRESSES TO YOUNG MEN by HASHIMOTO KINGORO (Doc No 487 translation of pages 187 to 197)	<input type="radio"/>		

488	264	「革新ノ必然性」昭和15年12月31日発行 橋本欣五郎著(1頁~17頁)	○	○	
490		「世界再建の道」抜萃 橋本欣五郎著		○	
490C		Excerpt from "Road to Reconstruction of the World" by Hashimoto	○		
497A		AFFIDAVIT	○		
520	839	1943年4月18日フシュルニ於ケル独逸国外務大臣ト大島大使トノ会談覚書ノ 抜萃	○	○	
520A		1943年4月18日リップントロップ/Ribbentrop/大島会談抜萃 独外 相覚書	○	○	
522	867	ゲラルド・シエーファー口供書 1946.4.16	○	○	証明書付
522		1941年7月14日附ノオットヨリ独外務大臣宛ノ3乃至4頁ノ電報ヨリノ抜萃	○	○	
522		1941年7月14日付ノオットーヨリ独外務大臣宛ノ3乃至4頁ノ電報ヨリノ抜 萃	○	○	
525A ※	3816 A	国家機密 1942年7月9日シュタインオルト/Steinort/ニ於テノ独逸外 務大臣及大島大使間ノ会談記録(独外相註 国家機密事項 以上手書挿入)	○	○	
526	585	日米関係調整ト開戦ノ際ノ願慮ニ付情報 1941年5月24日(日本ハ「シンガ ポール」「マニラ」ヘノ奇襲ハ依然準備シアリ)	○	○	
527		1941年3月29日伯林ニ於テ独逸外相及ヒ松岡日本外相ニ取交サレタル会談ニ 関スル報告	○	○	
527		1941年3月29日伯林ニ於テドイツ外相及ヒ松岡日本外相間ニ取交サレタル会 談ニ関スル報告供述書パウル・O・シュミット/PAUL O. SCHMIDT/	○	○	
528	583	「1941年(昭和16年)4月5日伯林ニ於テ日本外務大臣松岡ト独逸外務大臣 トノ間ニ交ハサレタル会談ノ筆記」1941年4月7日ベルリンニテ シュミット		○	
528		口供書 パウル・オー・シュミット		○	

531(t)	769	1941年2月23日「フシュル」ニ於ケル独逸外務大臣ト大島大使トノ会談記録ヨリノ抜萃	○	○
531A		独逸大使館第56/R号附言 1941年2月23日「フッシュル」ニ於ケル「ドイツ」國務大臣ト大島大使トノ会談ニ関スル記録カラノ覚書	○	○
532	582	1941年4月4日伯林ニ於テドイツ外務大臣及ビ國務大臣マイスナー両氏ノ立会ノ許ニ行ハレン總統ト日本外務大臣松岡氏トノ会談ノ記録	○	○
532B		1941年4月4日伯林ニ於テドイツ外務大臣・國務大臣マイスナー両氏ノ立会ノ許ニ行ハレン總統ト日本外務大臣松岡氏トノ会談ノ覚書	○	○
533		覚書 H・ヒムラト大島中将ノ会談 ベルリン1939年1月31日	○	○
548		機密第1潜水部隊命令作第2号 昭和18年3月20日 三戸寿	○	○
551	357	桂林日本軍不法行為 供述書韋廖	○	○
552	1462	訊問ニ関スル日本軍指令 1945年3月29日 押収パンフレット(識別証拠)	○	○
	A			
571	771	東京「ドイツ」大使館 大使宛電報 1941年7月10日付	○	○
574		戦ひの哲理 鈴木貞一	○	○
580A	1970	満洲工作機械株式会社ヲ航空緊急整備ノタメ利用致度件照会	○	○
587A		1940年(昭和15年)10月27日読売新聞掲載ノ大島浩ノ論文 同盟ヲ活用セヨ外交ニ後手ハ禁物	○	○
587B		日滿支經濟建設十年計画要綱(1940年11月8日附読売新聞ヨリ)	○	○
590		官報号外昭和20年1月22日 第86回帝國議會貴族院議事速記録第3号	○	○

検 察 側 証 拠 書 類 第 7 卷

P.D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
605		中支那派遣軍情勢判断提出(送付)ノ件		○	

607		大臣ヨリ関東軍司令官宛電報 昭和7年4月4日			
608	752A	陸満密受第1719号 塚 春及南鳥地方作戦資料調査ノ件 昭和8年12月10日 陸軍次官柳川平助宛			
612	※ 3378 A	THE GUIDANCE OF THE MILITARY GOVERNMENT OF MANCHUKOKU August 1, 1934			
613		昭和7.6. 6.4.後 2:30発 7:30着 関東軍参謀長ヨリ陸軍次官 宛書簡			
618		密大日記(昭和8年第1冊)陸軍大将南次郎閣下への尾崎行雄以下6名の質問書 (昭和6年8月6日)			
618		質問書 昭和6年8月6日 軍縮国民同盟尾崎行雄以下6名 陸軍大将南次郎閣下 宛			
620P		満洲国ニ対スル祝賀ノ件			
621 (1~7)		関参満第381号 満洲国指導要綱送付ノ件 昭7.11.3			
623		蒙情発第98号 蒙 疆地方特別調査ニ関スル件通牒 昭和13年6月19日 石本 寅三ヨリ東条英機宛			
624	※ 3381	Copy sent to the General Staff ITO 24 January 1934			
625	※	支那事変地ヨリ帰還スル軍隊及軍人ノ言動指導取締ニ関スル件 別冊 事変地ヨリ 帰還ノ軍隊・軍人ノ状況			
625		「陸支密大日記」に関する証明書			
626A	1991	支那派遣軍軍令第4号 敵航空機塔乗員処罰ニ関スル軍律 左ノ通定ム 昭和17 年8月13日 畑俊六			
626A-3		Extract from Interrogation of Hideki Tojo 4 Feb. 1946 P. 2~3			
627	872	兵器交付に関する件(各師団の受領すべき兵器需品の連絡電 別紙 内地ニテ交付 すべき前号武器弾薬品目員数 兵器修理部品品目員数表			

628A	874A	昭和16年11月 波集団戦時月報(甲)第4号	○	○	
629	3370	陸軍次官ヨリ中国派遣軍参謀長宛電報(暗号)	○	○	
630A	873	第3飛行集団長ヨリ次官次長宛秘密電昭和16年11月14日	○	○	
635		内閣一覧表		○	
638	3366	仏人宣教師殺害=関スル報告(海南島)昭和16.10.10 南支派遣軍司令部	○	○	日本文証明書無
639		「日本及日本人の道」大川周明著 序(抜萃)		○	
641		昭和15年第16冊 陸満密大日記 陸軍省		○	
642B	※	軍事機密 各特務機関対満支及对蘇蒙謀報担任区域要図	○	○	
643		蒙古建軍並強化拡充基本要綱 昭和14年5月1日		○	
644		開宣発第163号「在満輿論指導機関ノ機構統制案」送附の件		○	
644C		昭和10年11冊ノ内其10 満受大日記(密)陸軍省ヨリ抜萃		○	
645(2)		満密大日記 満洲国承認問題=関スル件		○	
646		陸満密大日記(昭13年第7号)321主計課 満洲事件費機密費交付ノ件	○	○	
650A	1975	「英人俘虜収容=伴フ一般民衆ノ反響」提出ノ件 昭和17年10月13日	○	○	
651		次官宛 朝鮮軍参謀長からの電報(昭17.3.1)		○	
653A	634	印軍情第356号 仏印兵ノ日本軍属殺傷事件=対スル仏印当局ノ動向=関スル件 昭和16年5月10日 長勇発 木村兵太郎宛	○	○	
654A	875	南総31第13号総司令部前進ノ件通牒 1941.11.22		○	
668A	1971	外事月報(昭和17年9月分)内務省警保局外事課		○	
676		警察歴史追加ノ分 北支事変=伴フ警備実施法=関スル訓令		○	
676		在満日本大使館警務部長田中静老ヨリ間島警察部長、在満各公館警察署長派遣所長 へ 時局情報に關する件		○	

684		「亜細亞、歐羅巴、日本」抜萃 大川周明著 アメリカ合衆国其他对土屋久泰其他 供述書	○	○
684		「亜細亞、歐羅巴、日本」抜萃 大川周明著		○
684A	2179	供述書 土屋久泰		○
685		合衆国其他对荒木貞夫其他 □供述書	○	○
685A		大川周明著「大東亞秩序建設」抜萃	○	○
687		「佐藤信淵の理想国家」大川周明著		○
687A		「佐藤信淵ノ理想国家」ヨリノ抜萃 大川周明著	○	○
688		「近世歐羅巴植民史」抜萃 大川周明著		○
689		「復興亜細亞ノ諸問題」抜萃 大川周明著		○
690		「国史読本」抜萃 第2章 大川周明著		○
691		「日本文明概説」大川周明著		○
692		「日本二千六百年史」抜萃 大川周明著 長谷川巳之吉供述書付	○	○
692A	2181	供述書 荒木貞夫		○
693A		「日本及び日本人の道」ヨリ抜萃 142~143頁	○	○
693		「日本及日本人ノ道」ヨリノ抜萃 大川周明著 123頁~126頁	○	○
694		「亜細亞建設者」大川周明著 書籍番号第694号抜萃		○
695		「日本的言行」大川周明著 抜萃		○
696		「日本文明史」大川周明著 抜萃		○

検 察 側 証 拠 書 類 第 8 卷

P. D. No	EX. No	内 容	英 文	和 文	備 考
699A	1028	支那ニ於ケル日英間ノ諸懸案ニ関スル覚書 1940年11月22日	○	○	
702A		英国外務大臣宛ノメッセージヲ含ム日本外務大臣ノ覚書	○	○	
705		興亜院官制・興亜院連絡部官制	○	○	
706A	1972	労力不足の対策として俘虜を使用せんとする計画	○	○	
713		日米通商航海条約廃棄に関する北米合衆国「ハル」國務長官発在米堀内大使宛通牒 (昭和14年7月26日付)	○	○	
715		陸軍5ヶ年計画大綱(1937年6月10日)	○	○	
724A-B		昭和10年10月2日広田外務大臣宛若杉参事官の書簡 植田大使の書簡		○	
733(1)		昭和15年 記事編輯上、注意事項、原案書類		○	
751		Plan of Stationing Meteorological Service System in Chahar.	○		
751B	719A	昭和13年満密大日記(陸軍省)			英文・和文ノ一致セス
751C	762	昭和13年満密大日記(陸軍省)	○	○	
751D	770	1月17日付次官宛関東軍参謀長の電報(1938年)	○	○	
760		第56議會ニ於ケル田中外務大臣ノ演説(4、1、22)		○	
766	263	パネー号事件ニ関スル米合衆国海軍省調査		○	
772	657	皇軍ノ北部仏印進駐問題ニ対スル英米ノ干涉	○	○	
785D.F. G.I.L	647A .658	外機密 昭和18年4月 仏印ニ関スル日仏間(不公表ヲ含ム)条約集ヨリノ抜萃 外務省条約局	○	○	D.F.Iノミ英文付

検察側証拠書類 第9巻

P. D. No.	EX. No.	内 容	英文	和文	備 考
790	1169	「帝国国策遂行要領」ニ関スル対外措置		○	
790A		昭和16年10月9日後 野村大使発豊田外務大臣宛電報写		○	
790B		昭16.10.10 野村大使発豊田外相宛電報写		○	
790C	1169	昭和16年11月5日御前会議決定「帝国国策遂行要領」ニ関連する対外措置	○	○	
790C		昭16.10.11着 野村大使発豊田外相宛電報写		○	
790D		昭16.10.17後 野村大使発豊田外相宛電報写		○	
790F		昭16.10.18後本省着 豊田外相宛野村大使発電報写		○	
794A	909A	枢密院会議筆記1.議院法中改正法律案帝国議會へ提出の件1.南洋庁事務官の特別任用ニ関する件 昭和12年1月20日	○	○	
800A	633	松岡外相「アンリー」仏大使問往復文書「タイ」仏印紛争調停案ノ提案ニ関スルモノ 1941.3.11	○	○	
813(1)		日支国交調整ニ関スル近衛総理談 昭和13年12月22日		○	
815(1)		張学良(満州に於ける日本人に対しての)		○	
820A	※ 3268	1937.10.2陸軍省の日支事変解決に対する意見 1937.10.22 陸海外三相決定「日支事変に対する第三国の干渉調停に対する態度」	○	○	
820B	※ 3272	Matters Regarding the Imperial General Headquarters Council in the Imperial Presence (Feb 18 1938 East Asis: I)	○		
820C	※	Outline of Measures for the China incident.	○		
820D	※ 3270	1938.1.21近衛首相→広田外相(国策大綱の件)	○	○	

820E ※		Concerning the basic Policy for Settling the Chinese Incident.	○		
820G ※	3269	1938.1.14 附「御前会議開催に関する経緯」	○	○	英文証明書つき
821B		昭和10年外務省公表集第十四輯・第十七(日蘭間常設調停委員会成立ニ就テ) 10月31日公表	○	○	証明書付
823A	777A	昭和15年12月外務省公表集(第十九輯)(日独伊三国条約締結ニ関スル松岡外相謹話 9月27日午後10時放送)		○	
823B- (1)	1284	昭和15年12月外務省公表集(支那事変関係ヲ除ク)	○	○	
823B- (2)	1285	1940.5.11 日本政府公武声明(蘭印現状維持希望)(外務省公表集)	○	○	
823B- (3)	1286	1940.5.13, 14 情報部発表(英・仏・日本声明に賛成)(外務省公表集)	○	○	
823B- (4)	1297	第二次近衛内閣基本国策要綱	○	○	
827 ※		南陸相時代と満州事変 事変当時の回顧	○	○	英文一部欠落
828		赤誠会の中野並に西部大会状況	○	○	
829	38	文化的協力ニ関スル日本国伊太利国間協定(3月23日)		○	
829B		外務省公表集第十八輯新南群島ノ行政管轄決定ニ関スル外務省発表(3月31日)	○	○	
831		1931.12.9 支那事変報告会議筆記	○	○	
837A	628	帝国外交方針 昭和15.9.28	○	○	
847B		門戸開放新原則声明 昭和13年12月8日	○	○	
847C		情報局発表 日本国「フランス」国間議定書ニ付テ 昭和16年7月29日	○	○	
847D	1494	在京亜爾然了国代理大使ヴィウより東郷外務大臣宛書簡 昭和17年1月3日	○	○	

847E	1495	昭和17年1月5日 在東京「アルゼンチン」大使館発 在東京 外務大臣東郷茂徳宛書簡	○	○
847F	1956	1942年1月29日東郷外相→「アルゼンチン」代公使通告(英・加・新ノ捕虜ニ対シ寿府条約準用)	○	○
851A		昭和16年12月8日日本大使坪上貞治閣下宛 泰国外務大臣書簡	○	○
851B	12	軍事費に関するA協定	○	○
852	265	駐支英国大使遭難事件我方最終回答(9月22日発表)	○	○
853A	954A	支那事変関係公表集(第2号)「ブラッセル」会議召請文	○	○
853B	954B	九国条約国会議不参加回答文 10月27日	○	○
853C	954C	蕉湖及南京に於ける英国艦船攻撃に関する12月16日附広田外務大臣宛英国大使公文(12月30日)	○	○
854-A	972A	支那事変関係公表集(第3号)外務省情報部 帝国政府声明 1938.1.16	○	○
854-B	972B	南京駐在「アリソン」米国領事ニ関スル情報部長談 1938.1.31	○	○
854-C	972C	支那事変関係公表集(第3号)外務省情報部規約第17条ニ基ク国際聯明理事会ノ招請状ニ対スル帝国政府回答 1938.9.22	○	○
854-D	972D	1938.10.12南支作戦ニ関スル情報部長談(第三回權益尊重ノ方針ニハ変化ナン)(「日米外交関係文書」972号抜萃)	○	○
854-E	972E	1938.11.18日本政府→米国政府回答文(中国ニ於ケル米商業妨害ノ抗議ニ対スル回答文)(「日米外交関係文書」972号抜萃)	○	○
854-G	972F	第73回帝国議會ニ於ケル内閣總理大臣演説(1月22日)	○	○
854H	972G	1938.1.22第73議會ニ於ケル広田外相ノ演説(「日米外交関係文書」972号抜萃)	○	○
854I		近衛総理大臣「ラヂオ」放送(11月3日)	○	○
854J	972H	1938.12.22近衛首相談(抗日国民政府ノ武力掃蕩要請・支那政府ノ提携日滿支三国提携ノ強調)(「日米外交関係文書」972号抜萃)	○	○

検察側証拠書類 第 10 卷

P . D . No	EX . No	内 容	英 文	和 文	備 考
858		仏領印度支那及泰国間ノ停戦ニ関スル協定		○	
864A		日本国「タイ」国間同盟条約 1941年12月27日公布	○	○	
865	513	友好関係ノ存続及相互ノ領土尊重ニ関スル日本国「タイ」国間条約	○	○	
870		日本国、伊太利国及独逸国間議定書締結ノ件 昭和12年11月6日会議筆記	○	○	英文一部欠落
875A	850	1・日満経済共同委員会設置ニ関スル協定締結ノ件 昭和10年7月3日会議筆記	○	○	
885	493	議定書 1939年2月24日作成	○	○	
887		満洲国ニ於ケル日本国臣民ノ居住及満洲国ノ課税等ニ関スル日本国満洲国間条約	○	○	
887		満洲国ニ於ケル日本国臣民ノ居住及満洲国ノ課税等ニ関スル日本国満洲国間条約 關於在満洲国臣民居住及満洲国課税等之満洲国与日本国間条約		○	
889	※ 3520	極秘 附属議定書よりの抜萃	○	○	
903A	914・ 914A	昭12・1 12年度海軍予算要綱並ニ海軍関係国防ノ全視ニ就テ(豊田副武中 将述 日本外交協会特別委員会秘密会席上)	○	○	
905	3830	官情報2131号		○	
907		「タイ」国「フランス」国間平和条約及附属議定書	○	○	
915		帝国ノ倫敦海軍軍縮會議脱退ニ際スル広田外務大臣談話(昭和11年外務省公表集 ヨリ)	○	○	
922		Dreimachtepakt Ymischen Deutsobland. Italien und Japan	○		
928		第8節 支那事変関(P.90のみ)第1款事変発生ニ因ル人事応急措置		○	
940A	555A	日本帝国外務大臣松岡洋右宛 オットよりの書簡 1940.9.27	○	○	

940B		独逸大使 東京1940年9月27日 閣下日本帝国外務大臣松岡洋右宛	○	○
940C		1940年9月27日オット発 松岡洋右宛 日本ト英国間ノ武力闘争ノ何等ノ危機モ存在シナイトイフコトニ就イテハ現在ノ事情デハ無關心デアルコトヲ許サナイ	○	○
949A	485	枢密院会議筆記 1・日独協定締結ノ件(1頁)昭和8年11月25日	○	○

検 察 側 証 拠 書 類 第 1 1 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
953		5頁 満州事件ニ関スル経費支弁ノ為公債発行ニ関スル件		○	
954		中華民国上海所在「アメリカ」総領事館内合衆国財務省財務官発 1939年4月5日「コロシビヤ」地区「ワシントン」財務官ニ代リテ・エフ・エム・ジェコブソン		○	
955	559	覚書 1940年9月27日伯林ニ於テ締結セラレタ三国条約第四条ニ関シテ 松岡洋右		○	
956		枢密院会議筆記1 文化的協力ニ関スル日本国・独逸国間協定締結ノ件		○	
956B	589	文化的協力ニ関スル日本国・独逸国間協定締結ノ件 昭和13年11月22日	○	○	
977A	1974	政務次官・参与官回付決議 台湾軍及朝鮮軍ニ俘虏引渡ノ件	○	○	
978A	1967	俘虏就労ニ関スル件 昭和17年10月2日 辰己栄一	○	○	
978B	1968	口供書 台湾軍司令官→陸軍大臣 石橋兼雄	○	○	
979A	1976	朝鮮俘虏收容所ニ関スル諸規定ノ件報告 朝鮮軍司令官板垣征四郎より陸軍大臣 東条英機殿へ	○	○	
980A	1973	朝鮮俘虏收容ノ件	○	○	
984	259	北支ニ於ケル各鉄道ノ軍事的処理要領案提出ノ件		○	
985A		日本軍仏印進駐ニ関スル日仏協定締結交渉経緯(昭和15年7月~9月) 典拠及び公正ニ関する証明書	○	○	

989	3381 A	陸軍省受領 陸満密受第101号	○
990	334	口供書 田中隆吉 1946年11月8日	○ ○
990(1)	1175	対英米開戦名目骨子案(連絡会議決定)	○
1005 (1)※	3744	救国反同盟会の所要経費に関する件(1939.4.1興亜院会議決定)	○ ○
1005 (4)		昭和14.4.19 秘電報第987号 総務部長宛 台湾軍参謀長	○
1005 (6)		昭和14.4.20 総務部長宛 台湾参謀長 河内電第51号 影佐電第2号	○ ○
1005 (8)		昭和14.4.24 鈴木総領事 東亜局長有田外務大臣 東亜一課長第93号 川村ヨリ久米へ	○ ○
1005 (11)		渡辺工作関係電報 昭和14.4.29 大本営陸軍部第8課	○ ○
1005 (13)		昭和14.5.3 台電第98号 影佐ヨリ第2部長へ	○ ○
1005 (19)		昭和14.5.24 原電中支第249号 総務部長宛 土肥原機関	○ ○
1005 (20)		昭和14.5.30 原中支電第276号 総務部長宛 土肥原機関	○ ○
1005 (21)		秘電報 昭和14.4.22 土肥原中将へ 晴氣少佐ヨリ	○
1008	529	昭和15年6月29日有田大臣放送 国際情勢ト帝国ノ立場 外務大臣有田八郎ノ 演説 1940.7.29	○ ○
1014		我が国経済力充実発展に関する件	○
1014A		昭和7年9月30日対満蒙実行策案 委員会ニ於テ拓務省側ノ留保付ニテ可決 日満産業統制委員会設置ニ関スル件	○

1014C	満洲ニ於ケル電信電話事業ニ関スル件	○
1014D	満洲国指導方針要綱 昭和8年8月8日閣議決定	○
1014E	満洲ニ於ケル君主制実施準備ニ関スル件 昭和8年12月22日閣議決定	○
1014F (1-13)	日満経済統制方策要綱 昭和9年3月30日閣議決定	○
1014L (1-6)	満洲国国幣価値安定並幣制統一ニ関スル件 昭和10年11月4日閣議決定	○
1014N	我が国経済力充実発展ニ関スル件	○
1014O	「満洲重工業確立要項」昭和12年10月22日閣議決定	○
1021	昭和16年12月10日枢密院審査委員会記録	○
1022	枢密院会議筆記 昭和16年12月10日対米英戦ノ共同遂行・単独不講和及新秩序建設協力ニ関スル日本国「ドイツ」国及「イタリア」国間協定締結ノ件	○
1024A	日本国独逸国間貿易ニ関スル協定	○
1024B	日本国独逸国間貿易ニ関スル協定ノ実施ニ伴フ支払ニ関スル取極(支払取極)	○
1024C	日本国独逸国間貿易協定及支払取極ノ実施ニ関スル細目取極(責取極)	○

検 察 側 証 拠 書 類 第 1 2 卷

P. D. No	EX. No	内 容	英 文	和 文	備 考
1027B	616A	昭和14年度執務報告 昭和16年12月 1939年度執務報告	○	○	
1030(1)	651	往翰訳文 条約第14号 仏領印度支那ノ共同防衛ニ関スル日本国「フランス」国 間議定書	○	○	
1031(1)	649	仏領印度支那ノ共同防衛ニ関スル日本国「フランス」国間議定書締結及軍事上ノ協 力ニ関スル公文交換ノ件審査委員会	○	○	

1038		第79回帝国議会衆議院議事速記録第3号(1942年1月22日)	○	○
1038B		第79回帝国議会衆議院議事速記録第3号 國務大臣ノ演説(1942年1月22日)	○	○
1043	381	昭和13年度執務報告抜萃194~203 外務省条約局 第6章・阿片及麻薬=関スル問題		○
1044		支那關係各種案作 第一節 对支政策=関スル件		○
1045	382	第5章 阿片及麻薬問題 一・第24回阿片諮問委員会	○	○
1046		次官ヨリ関東軍參謀長宛電報 関參滿電715号=関シ(暗号)昭和13年5月24日		○
1046C	720A	昭和13年滿受大日記(密)ヨリノ抜萃 陸軍省	○	○
1054		昭和15年陸滿密大日記 陸軍省 昭和15・12・16		○
1072B (1)	1182	共産「インターナショナル」に対する協定の効力延長に關する日本国・「ドイツ」国・「イタリア」国・「ハンガリー」国・滿洲国及「スペイン」国間議定書締結及右協定の秘附屬協定の廃止に關する日本国「ドイツ」間秘密公換の件審査委員会	○	○
1077	637	枢密院會議筆記 昭和16年7月3日 日本仏印間協定及び日本泰國間協定に關する枢密院會議議事録	○	○
1078	1241	1941・12・8枢密院審査委員会記録米國及英國ニ對スル宣戰ノ布告ノ件審査委員会	○	○
1079		日本国中華民國間基本關係=関スル條約締結及關係公文交換ノ件外1件第1回審査委員会 昭和15年11月20日(水)宮中東三ノ間本院控室ニ於テ開會		○
1086		大東亞省官制外8件第1回審査委員会 昭和17年10月9日 原・鈴木等々の出席者	○	○
1086B	687	大東亞共榮圈確立=関スル枢密院調査委員会ノ議事録ノ抜萃	○	○
1087 ※		枢密院會議筆記 米國及英國に對する宣戰の布告の件 昭和16年12月8日(月)午前10時50分開議	○	○

1093	帝国ト国際連盟諸機関トノ協力関係終止ノ件 昭和13年11月2日枢密院会議筆記		○
1095A	電報 昭和20年5月6日東郷外務大臣発 独逸問題ニ関スル記者会見談ニ関スル件 「ソ」独・瑞典・瑞西・葡・「エアラ」・「アフガン」満大・北大・南大・上大西貢宛		○ ○
1097	枢密院会記筆記 一・満州国ノ共產「インターナショナル」ニ対スル協定参加ニ関スル議 一・定書締結ノ件「ハンガリー」国ノ共產「インターナショナル」ニ対スル協定参加ニ関スル議定書締結ノ件		○

検 察 側 証 拠 書 類 第 13 卷

P. D. No	EX. No	内 容	英 文	和 文	備 考
1105A. B.4C		日独協定締結ノ件審査報告及証明書	○	○	
1108		支那ニ於ケル日独経済提携協定問題 東亜局 昭和13年度執務報告第一冊第一課ヨリノ抜萃	○	○	
1112A	1333 A	1941.12.14 中立国ニ対する政策其他の問題(外務省)	○	○	
1114B	1978	情勢ノ推移ニ応ズル俘虜処理要項(1945.3次官通牒)	○	○	
1122		日本国「ビルマ」国間同盟条約締結ノ件外3件審査委員会 昭和18年7月29日宮中東三ノ間ニ於テ開会	○	○	
1124A	910A	昭和5年枢密院委員会録(日支関税協定締結ノ件 1930年ロンドン海軍条約御批准,件ソノ他)	○	○	
1129	549	昭和15年6月9日松岡外務大臣・スターマー非公式会談要旨(米國ノ参戦防止ト対「ソ」親善関係ノ確立「スターマー」ノ三国同盟締結ノ基礎条件提示)	○	○	
1131	1040	電信写 昭和16年2月8日重光大使ヨリ松岡外務大臣ニ	○	○	
1132	1041	電信 昭和16年2月13日後8時発 在英重光大使宛 松岡外務大臣 第46号	○	○	

1133		昭和16年2月17日発重光大使宛松岡外務大臣ノ電報(英外相申出ニ関スル件)	○	○
1144A ~E		昭和12年4月政変ヲ繞ル右翼団体ノ運動 警保局保安課ヨリノ拔萃及証明書	○	○
1150	1045	昭和16年2月14日後7時発 電信 野村大使宛 松岡外務大臣 米国朝野啓発ニ関スル件	○	○
1153		宣誓供述書 上月良夫		○
1154~ (1.2)		1946年2月12日国際聯盟麻薬統制機関ヨリノ情報移牒 戦争犯罪事務局ノ高覧ニ供ス 華府国務長官閣下宛 米国領事ホワード・エルティング・ジュニア		○
1156L (1)		議事録拔萃 日本国軍隊ノ撤去完了期		○
1156L (2)		議事録拔萃 決議		○
1156L (3)	268	支那事変ニ関スル政府声明(昭和13年1月16日)		○
1157A		在独大島大使宛松岡外務大臣発 昭和16年2月17日	○	○
1165	650	枢密院会議筆記 仏領印度支那共同防衛ニ関スル日本国「フランス」国間議定書締結及軍事上ノ協力ニ関スル公文交換ノ件	○	○
1170		「マライ」及「シャン」地方ニ於ケル「タイ」国ノ領土ニ関スル日本国「タイ」国間条約締結ノ件審査委員会 昭和18年8月18日	○	○
1187B		日本国軍隊ノ「タイ」国領域通過ニ関スル日本国「タイ」国間協定承認ノ件外1件審査委員会 昭和16年12月20日	○	○
1201		二・一国民政府ニ借款供與ニ関スル情報局発表(7月28日)	○	○
1202	550	日独伊三国条約締結ニ関スル件(御前会議議題)	○	○
1203	267	「支那事変と帝国外交」阿相達夫(昭和13年8月)ノ拔萃 99頁		○

検察側証拠書類 第14巻

P. D. No.	EX. No.	内 容	英文	和文	備 考
1204		日・独・伊 国間協定締結ニ就キ情報局発表(12.11.午後11時)		○	
1204	1300	Address of Mr. Yosuke Matsuoka Minister for Foreign Affairs at the 76th Session of the Imperial Diet January 21. 1941	○		
1204C	496	昭和16年度政府公表集—対外関係—情報局		○	
1204D	558	昭和16年度政府公表集—対外関係—情報局	○	○	
1204E (1)		第76回帝国議会ニ於ケル松岡外務大臣演説(1月21日)	○	○	
1204F		昭和16年度政府公表集—対外関係—情報局	○	○	
1210		対外関係ニ関スル政府公表集(情報局)10.11.12頁ヨリノ抜萃 日本国独逸国間経済提携ニ関スル協定		○	
1210B		昭和18年度(1月~6月)政府公表集対外関係(情報局)	○	○	
1214A (1)	556	外務大臣ヨリ在京独逸国大使宛往翰案 南洋旧独国植民地ニ就イテ	○	○	
1215	553	枢密院会議筆記 日本国独逸国及伊太利国間三国条約締結ノ件 昭和15年9月26日	○	○	
1217(1)	773	日独伊三国条約締結第三周年記念日ニ際シテノ重光外務大臣放送	○	○	
1217A		第83回帝国議会ニ於ケル重光外務大臣答弁 10月27日		○	
1226A (1)		枢密院筆記 国境面定委員会ノ構成及運用ニ関スル議定書並ニ非武装地帯ニ関スル規定ノ履行ニ関スル議定書承認ノ件外1件第2回審査委員会抜萃 昭和16年6月7日	○	○	
1230(1)	807	ベルリン発 リッベントロップヨリ東京大使館宛電報	○	○	

1230C	3860	スターマ発外務大臣宛 1943年2月	○	○
1230D	3861	1944.9.6「リ」外相→在京独大使電報(独ノ单独和平ニ関スル日本ノ提案ノ件)	○	○
1230E		1944年2月13日12時30分発 フォン・リップントロップ発大使宛	○	○
1242		対北支工作ニ伴フ関東軍宣伝計画送附ノ件 昭和10年12月9日関東軍参謀長西尾寿造 陸軍次官古荘幹郎宛		○
1250A (1)	1023	通信 1940.8.5重光大使→松岡外相(日本ノ大東亜政策実行ニ関スル進言)		○
1258		仏領印度支那ニ関スル日仏居住・航海条約		○
1259	557	枢密院質問要旨 9月16日	○	○
1266		ベルリン1937年7月28日 第182号及ビ第193号電信ニ応ヘテ、ワイスマツケル署名	○	○
1269A		電報(秘密暗号法)東京1937年1月4日午後5時35分発 到着1937年1月5日午後2時 ライヒ大臣親展	○	○
1269C		電報 1937年1月5日独逸國務大臣宛親電		○
1270A		電報 東京1938年1月10日19時25分 着1938年1月10日15時35分 秘 独逸国大臣宛親展 デイルクゼンヨリ	○	○
1270B		1938年1月12日ベルリン 電信 漢口11号 独逸大使館	○	○
1271A (1)		電報 漢口 昭和13年1月13日1時40分 中国外務大臣ノ口頭ノ声明書トラウトマン	○	○
1271B (1)		電報 東京1938年1月14日19時40分 独逸國務大臣宛 デイルクゼン	○	○
1273		電報 漢口発昭和13年1月13日後7時40分	○	○
1273D		電報 東京1938年1月17日16時13分 國務大臣宛		○
1273G		電報 1938年1月15日	○	○

1273		電報 漢口 昭和13年1月13日午後7時40分 中国外交部長ノ口上書原文	○	
1274		フォン・イラートト日本大使ノ中国問題対談ニツイテ 伯林ニ於テ1938年1月25日	○	○
1274 (1-5)		電報 東京発1938年1月18日16時40分 着信1938年1月18日13時15分	○	
1275	505	1939年(昭和14年)4月16日ローマ チアノ伯ノ立会ノ許ニゲーリング陸軍元師ト首領トノ会談ノ覚書	○	○
1276		東京1938年(昭和13年)1月26日(独日関係ノ日支事変現段階ヘノ適応)ベルリン外務省宛	○	○
1285	787A	昭和15年12月18日枢密院会議筆記(漢ノ日独伊条約参加ノ件羅及スロヴァキアノ三国条約参加ノ件)	○	○
1287	660	仏領印度支那ニ関スル日仏居住航海条約竝ニ日本国印度支那間関税制度貿易及其ノ決濟ノ様式ニ関スル日仏協定御批准ノ件審査委員会 昭和16年6月16日(月曜日)本院事務所ニ於テ開会	○	○
1298	786A	昭和19年9月26日付松岡外務大臣宛来栖大使ノ電報	○	○

検 察 側 証 拠 書 類 第 1 5 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
1302	3379 A	満洲經濟統制関係書類送付ノ件通牒	○	○	
1303		俘虜ニ関スル諸法規類聚	○	○	一部英文つき
1303(1)		供述書 アララ・オキカツ		○	証明書付
1308	527	日独伊提携強化ニ関スル陸海外協議議事録(昭和15.7.12)	○	○	
1338A (1)		(昭和13.9.21)宇垣大臣内奏資料(東亞局第一課関係)		○	

1339A (1)-1	1044	電信 昭和16年2月14日午後6時発 松岡大臣発在英重光大使宛 英外相申出ニ関スル件	○	○
1339A (2)-1	1039	昭和16年2月7日「イーデン」外相ヨリ重光大使へ申入ノ文書	○	○
1339A (3)	1046	電信写 昭和16年2月17日起草 発・松岡外務大臣 宛・重光在英大使 大臣「クレーギー」会談ノ件	○	○
1339A (4)	1035	加瀬秘書官ヨリ欧三太田へ通報 昭和15.12.9 欧三 クレーギー松岡会談ニツイテ	○	○
1339A (5)	1101	電信写 発・松岡外務大臣 宛・在英重光大使 昭和16年2月13日起草 英側へ手交英文	○	○
1339A (6)		電信 発・松岡外務大臣 宛・在英重光大使 昭和16年2月13日起草 英側へ手交英文ノ件	○	○
1339A (7)	1053	第二次我方申入 3月4日重光大使「チャーチル」ニ手交 1941.2.27 交戦国間の調停に関するもの	○	○
1339A (8)	1047	在東京英国大使館R.H.クレーギーより日本帝国外務大臣松岡洋右に於てた「マライ」「タイ」間に英軍隊活動との日本新聞の誤報に対する抗議 1941年2月21日	○	○
1339A (9)	1062	外務大臣代理「ウィンストン・チャーチル」閣下ヨリ日本帝国外務大臣松岡洋右閣下へノ書簡	○	○
1339A (10)	1063	電報 昭和16.4.22起草・同日後8:20発 発・松岡大臣 宛・在英重光大使宛 松岡大臣ノ英首相へ手交ノ英文書ノ件	○	○
1340		1941年3月27日ドイツ国外務大臣並ニオット及大島両大使列席ノ下ニ「総統」ト日本外務大臣松岡トノ間ニ行ハレタル会談	○	○
1340B	577	1941年(昭和16年)3月27日ドイツ外相並ニオット・大島両大使列席ニテ「総統」ト松岡日本外相トノ会談議事要録	○	○
1355	690A	昭和17年度総合研究記事 総力戦研究所調製	○	○
1356A※	870	機密第1号 第1回総力戦机上演習 第3期乃至第9期演習状況課題及演習処置綴机上演習統監部	○	○

1372A	778A	1942年6月24日柏林ニ於テ行ハレタルドイツ外務大臣ト大島大使トノ会談記録	○	○
1373A※	3820	1942年5月9日ノ独逸外務大臣及大島大使会談ニ関スル覚書	○	○
1374	608	電報 東京1941年(昭和16)12月5日13時 独逸国外務大臣宛	○	○
1375A	642	1941年7月19日独逸外務大臣宛電 日本ノ仏印占領ニ就イテ	○	○
1376	581	1941年3月29日「カリンホール」ニ於テ「オット」大使立合ヒノ下ニ「ゲーリング」元帥ト松岡日本外務大臣トノ会談ノ報告	○	○

検 察 側 証 拠 書 類 第 1 6 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
1379	524	来栖大使及ビスターマー総領事立会ヒノ下ニ於ケル1940年7月8日ノ独逸外務大臣ト佐藤日本大使トノ会談ニ関スル覚書	○	○	
1381		電報 東京1939年8月25日8時40分 局長閣下宛 オット	○	○	
1382		ベルリン1939年5月15日暗号電報 大使宛	○	○	
1383B (1)	1007	外務省押収文書 1940.3.3 (対米外交ニ関連シトルベキ経済政策)	○	○	
1383B (2)	1008	外務省押収文書 1941.1.22 松岡外相→野村大使訓令	○	○	
1383B (3)	1009	外務省押収文書 電報1941.2.7 松岡外相→野村大使 (米国朝野啓発ニ関スル件)	○	○	
1383B (4)		松岡外務大臣発野村大使宛電信 昭和16年3月8日発	○	○	
1383B (5)		近衛外務大臣発野村大使宛電信 昭和16年4月15日発	○	○	

1383B (6)		外務大臣「オーラル ステートメント」亜米利加局長宛書簡	○	○
1383B (7)		昭和16年5月3日後8時発 松岡外務大臣発在米野村大使宛電信写	○	○
1383B (8)		日米国交調整案ニ関シ独伊政府ニ内報ノ件	○	○
1383B (9) ※	3814	独逸大使館附武官ヨリ次長宛電報 5月3日20:25発 5月4日7:21着	○	○
1383B (10)		昭和16年5月5日後8時0分発 松岡大臣発大島大使宛電信	○	○
1383B (12)		野村大使ヨリ松岡外務大臣宛電報 昭和16年5月12日後発	○	○
1383B (13)		電報 松岡大臣→野村大使 昭16.5.14	○	○
1383B (14)		野村大使宛松岡大臣発 外秘密館長符号 昭和16年5月15日後8時20分発	○	○
1383B (15)		昭和16年5月15日後発 野村大使発松岡外務大臣宛電報	○	○
1383B (16)		5月17日附独逸政府訓令(19日朝接到)	○	○
1383B (17)		重光大使ヨリ松岡外務大臣へノ電信写 昭和16年5月19日後発	○	○
1383B (18)	1075	5月20日大島大使発松岡大臣宛電報写 電報1941.5.20	○	○
1383B (19)		日米了解案交渉経過要領(5月20日迄)	○	○
1383B (20)	1076	伯林・大島大使発外務大臣宛電報 昭和16年5月21日	○	○

1383B
(21)

外務大臣談話(昭和16年5月31日朝刊掲載)

○ ○

1383B
(22)

昭和16年6月6日後発 野村大使発松岡外務大臣宛電報

○ ○

1383B
(23)

6月8日附野村大使発松岡大臣宛電報写

○ ○

1383B
(24)

在華府野村大使発松岡外務大臣宛電信写

○ ○

1383B
(25)

野村大使ヨリ松岡外務大臣宛電信

○ ○

1383B
(26)

野村大使ヨリ松岡外務大臣宛電信写 1941年(昭和16)米政府側ノ附属書及追加

○ ○

1383B
(27)

野村大使ヨリ松岡外務大臣宛電信写 米政府側ノ附属書及追加

○ ○

1383B
(28)

野村大使ヨリ松岡外務大臣宛電信写 米政府側ノ附属書及追加

○ ○

1383B
(29)

昭和16年6月17日華府発来電(18日着)

○ ○

1383B
(31)

日本案ニ対スル米側ノ主ナル修正

○ ○

1383B
(35)

国務長官ヨリ日本国大使宛電信写

○ ○

1383B
(36)

日本国大使ヨリ国務長官宛電報

○ ○

1383B
(38)

野村大使ヨリ松岡外務大臣宛 往電第384号ニ関シ

○ ○

1383B
(39)

野村大使ヨリ松岡外務大臣宛 往電第424号ニ関シ

○ ○

1383B (41)		6月29日野村大使発松岡大臣宛電報写 往電第424号(最近ノ交渉経済ノ件) ニ関シ	○	○
1383B (42)	1006	W.D.C.1383B(1)ヨリ(42)マデ 典拠及ビ公正ニ関スル証明 外務省ヨリ入手セル34通ノ文書ニ対スル証明書	○	○
1383E	1120	書簡 昭和16年7月24日 野村大使→豊田外務大臣	○	○
1383F (1) ※	3518	Telegram No.480 From Ambassador OSHIMA To Foreign Minister MATSUOKA	○	
1383C (t).D1 ~D4		第273号在仏加藤大使宛 昭和16年7月12日発電 日仏印関係	○	○
1392	528	日独伊提携強化ニ関スル陸海外三省係官會議議事録(其2)昭和15年7月16日 於外務省	○	○
1395A	3822 A	1942年7月30日「リップントロップ」大島会談ニ関スル覚書ヨリノ抜萃	○	○
1411	618A	昭和15年度執務報告ヨリノ抜萃 昭17.2.1 南洋局第二課	○	○
1412A	876A	帝国ノ参戦ニ当リ執ルベキ措置ニ関スル件(追加ノ1)(占領地ニ於ケル軍政施行 ニ関スル先例)	○	○
1415B (1)		第二滿蒙新国家成立ニ伴フ対外関係処理要綱		○
1415C		滿蒙新国家ニ対スル帝国ノ具体的援助及指導ニ関スル件(昭和7年4月11日閣議 決定)		○
1415D (1)		附・滿鉄總裁宛拓務省通牒及指令 昭和7年5月9日附滿鉄總裁宛拓務次官通牒		○
1415E		吉敦延長線建設ニ関スル方針要綱(昭7.5.3閣議決定)並ニ天図鉄道処理方針		○
1415-F		昭和7年8月12日閣議決定 満州航空ニ関スル件	○	○
1418A	784	チャーノ伯日誌1940年9月19(日独軍事同盟ニ関スルモノ)	○	○

1418B	449A	チャーノ伯日誌1939年1月7日付		○
1418D	501	深沢理三郎の伊太利語翻訳証「チャーノ」伯日誌訳	○	○
1418E	607	「チャーノ」伯日誌	○	○

検 察 側 証 拠 書 類 第 1 7 卷

P. D. No	EX. No	内 容	英 文	和 文	備 考
1420	1227	英国人フレデリック・チャールズ・バーハ氏の宣誓口供書 1946(昭21) 3・27	○	○	
1421	1228	エドワード・オースチン・クラウダー少佐宣誓口述書 ベテレル号撃沈による死亡者の件	○	○	
1424	1233	アメリカ合衆国國務省國務長官ゼエムス・エフ・バーンズ宣誓口述書 開戦前の日米外交関係について		○	
1426		満州事変輿論並新聞論調 在京外国通信員打電写	○	○	
1432A	2017	居普通第249号 瑞西国特命全權公使宛書簡 昭和18年7月24日外務大臣重光葵	○	○	
1432B	2018	居普通第35号 口上書 昭和18年7月7日	○	○	
1432C	2019	居普通第34号 口上書 昭和18年7月7日 帝国外務省	○	○	
1432D	2020	居普通第459号 昭和18年6月19日 俘虜情報局長官宛 俘虜取扱ニ関スル米国政府申出ノ件	○	○	
1432E	2021	俘情第9号ノ39 俘虜ニ対スル質問ニ関スル米国政府ノ申出ニ関スル件回答 昭和18年6月23日	○	○	
1441	878	11月5日御前會議決定「帝国内策遂行要領」ニ關聯スル對外措置		○	
1442	335	「帝国内策遂行要領」ニ關聯する對外措置 昭和16年11月11日	○	○	
1443	1176	対米英蘭蔣戦争終末促進要領 昭和16年11月12日	○	○	証明書付(英文のみ)

1444	919	対米英蘭蔣戦争終末促進要領 昭和16年11月11日	○	○
1446		「皇国日本の大使命」陸軍大將軍事参議官荒木貞夫閣下講演		○
1448	877	南方占領地行政実施要領 11月20日大本營政府	○	○
1449B		日米交渉ニ関聯スル与論指導要領 昭16年12月1日情報局	○	○
1449C		対米外交ニ対スル与論指導方針(情報局昭和16年10月3日閣議決定)		○
1449D	1167	情報局極秘文書「対米英問題ニ関する与論指導方針」	○	○
1451A		支那第61号 日本国・中華民国間同盟条約 於南京 昭和18年10月30日 調印	○	○
1451B		日華同盟条約締結ニ関スル帝国政府声明(1943年10月30日)	○	○
1451C		日本国中華民国間同盟条約 昭和18年10月30日南京ニ於テ署名		○
1451D		附屬議定書 昭和18年10月30日(中華民国32年)南京ニ於テ 谷正之・ 汪兆銘	○	○
1451E		汪ヨリ谷ニ宛テタル書翰 中華民国32年10月30日 南京ニテ		○
1452	494	議定書 大日本帝国政府・伊太利国政府・独逸国政府及西班牙国政府ノ全權委員ニ ヨリ協定セリ	○	○
1453A		中華民国日本国間基本關係ニ関スル条約署名ニ当リ成立シタ了解事項	○	○
1453A (1)		附屬秘密協定 昭和15年11月30日(中華民国29年)阿部信行・汪兆銘	○	○
1453A (2)		附屬秘密協約 昭和15年11月30日(中華民国29年)阿部信行・汪兆銘	○	○
1453B		証明書 1946年8月2日 小田部健一他	○	○
1453C		中華民国日本国間基本關係ニ関スル条約ニツイテノ覚書 1940年中華民国29 年11月30日 汪兆銘	○	○
1453D		大中華民国日本国間基本關係ニ関スル汪ノ覚書 1940.11.30	○	○

1454		「バナイ」号事件 断片			○
1457	1131	外務省文書綴(1941年8月5日-1941年11月5日)ヨリノ抜萃 野村大使ヨリ豊田外相宛電報	○	○	
1457B	1139	野村大使発豊田外務大臣宛電報 昭和16年9月11日			○
1458A		官報ヨリノ抜萃(軍令・大本營令)昭和12年11月18日	○	○	
1461	552	日本国・独逸国及伊太利国間三国条約締結ノ件 審査委員会 昭和15年9月26日	○	○	
1463		昭和16年12月 大東亞戦争ニ依ル南方占拠地域善後処理方策大綱			○
1465A	1958	ジュネーブ条約ヲ適用セズトノ1942年5月6日ノ陸軍省議記録提出ノ件	○	○	
1465B	1957	1942年1月29日東京日本外相ノアルゼンチン外相ニ対スル回答文書	○	○	
1465C	1496	昭和17年1月29日東郷→Argentine代理(公使)殿宛書簡	○	○	
1466	761A	外務省記録 満洲事変華北問題 板垣・有田会談	○	○	Pavt 2.3 Certificateのみ

検 察 側 証 拠 書 類 第 1 8 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
1468A (1) V	1152	公爵近衛文麿ヨリ天皇陛下ニ対スル内閣総理大臣辞職願 昭16・10・16	○	○	
1469A	1493	東郷茂徳よりカミュー・ゴルジェ宛書簡	○	○	書証A・1469A ~F添付
1469B	1491	昭和17年2月13日付外務大臣東郷茂徳より、スイス特命全権公使カミュー・ゴルジェ宛の書簡	○	○	書証A添付
1469C	1492	1942年2月20日スイス公使発東郷外相宛書簡	○	○	
1469D	1490	1942年1月20日東郷外相発ゴルジェ瑞公使宛書簡	○	○	

1477		日滿華共同宣言案			○
1483		外務省記録 日支外交関係雑纂と論並新聞論調			○ ○
1492	1332	昭和16年12月12日 南方経済対策要綱 政府統帥部連絡会議報告			○ ○
1500	1231	英国外務事務次官O.G.サージェント口述書 開戦前ノ日英外交関係 1946年3月25日			○ ○
1502A	2032	「ニュージーランド」人(軍人及平民間人)ニシテ在日本俘虜トシテ報告アリタル者ノ数・釈放セラレタル者ノ数・未タ行衛不明ナル者ノ数ヲ示ス表			○ ○
1503		「週報」1937年12月号(14頁~19頁)日独伊防共協定			○ ○
1504B		西支那開発株式会社法・中支那振興株式会社法 両法律説明書			○ ○
1504C		支那ノ経済開発要項一企画院一(東京ガゼット・1938年12月号P.16~P.20)・帝国政府重大声明・近衛首相ノ放送演説 1938年11月3日			○ ○
1504D	266	「日本精神の昂揚」文部省			○
1505	765	1939年7月「トウキョー・ガゼット」時事政策・公報・統計月報第3巻第1号「ノモンハン」附近を示す地図			○ ○
1505B		北支開発株式会社ノ関係事業			○ ○
1505C		"TOKYO GAZETTE" 第20号 昭和14年2月号「興亜院ノ新設」(近衛内閣総理大臣談)			○ ○
1505D		"TOKYO GAZETTE" 第12号 昭和14年6月号 1頁~6頁「満州経済建設ノ現況」ヨリノ抜萃			○ ○
1505E		第74帝国議会に於ける総理大臣男爵平沼騏一郎の演説よりの抜萃			○ ○
1508	1230	ウィリアム・ハリイ・フランクリン英国空軍飛行兵中佐宣誓書 日本ノ戦争犯罪関係並ニ1941年12月ニ於ケル日本軍ノ「馬來」攻撃関係証拠書類			○ ○
1509		泰・緬甸連接鉄道建設ニ伴フ俘虜使用状況調査			○

1509(A)	Report by Japanese Government. "Burma-lhailand Railway". Report on Employment of war Prisoners in Siom-Burama Railway Construction.			日本文証明書アリ
1509C	シャム・ビルマ聯絡鉄道建設ニ於ケル俘虏使用ニ関スル報告提出ニ付 1946年9月12日 ヨシモト・シゲアキ	○	○	
1509D (1)	1945年12月20日联合国軍最高司令官総司令部宛電報	○	○	

検 察 側 証 拠 書 類 第 19 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
1513	700	在哈爾濱大橋総領事→幣原外務大臣宛電信516号ノ1~3 昭和6年11月7日後発	○	○	
1514A		陸軍中將後宮淳ノ上奏文ヨリノ抜萃	○	○	
1517 A. B		昭和10年11月18日往電第367号 広田外務大臣・藤井代理大使	○	○	
1517C		1935年11月18日付「イーブニング・ポスト」日本新々に中国分裂を強行せんとす	○	○	
1517D		1935年11月19日ロスアンゼルス・エキザミナー 日本は一億の住民を有する広大なる新北支俛僞国家を造る。広汎なる掠奪地守備の爲めに国境に軍隊を動員す。米國関心を有す	○	○	
1517E		ワシントンポスト1935年11月27日水曜日 日本軍分裂強行のため中国に侵入す。南京抵抗を企つても分裂の制止不能の模様	○	○	
1519D		marginal Remarks / Amatter Pertaining to Wang Top Secret From Suzuki. Teiichi June 29 1939	○		
1519K	3742	新中央政權樹立方針(1939.6.6五相會議決定)	○	○	日本文証明書後半脱落
1522	842	昭和16.9.25 重要産業拡充計画策定経緯	○	○	
1529		重慶爆撃ニ関シテ1940.6.18外務省スポークスマン声明		○	
1529D		"TOKYO GAZETTE" 週報 9月11日号 工事建設への歩み 内閣情報部	○	○	
1529E	613. 613A	"TOKYO GAZETTE" 第3編第10号 昭和15年4月号第396頁ヨリノ抜萃	○	○	

1529F (1)	615. 615A	1940年8月「東京ガゼット」ヨリノ抜萃 仏領印支那ノ近情	○	○
1530	1238	英国陸軍少将クリスト・ハーマイケル・モルトビ宣誓口述書 1941年12月8日香港攻撃ニ関シテ・主ナル日本人戦争犯罪人ノ審問ニ於ケル国際法廷ニ関スル件 1946年7月	○	○
1532A	605	対米戦争即刻参加单独不講和宣言案ノ件(昭和16.12.2伯林大島大使発東郷外相宛)	○	○
1532B		昭和16年11月25日後河内発 芳沢大使ヨリ東郷外務大臣ヘノ極秘電報	○	○
1532D (1)-10	1161	野村大使ヨリ東郷外務大臣宛電報 昭和16年10月22日発 辞職の意志表明	○	○
1532D (3)-28	1164	東郷大臣発在米野村大使宛電報 昭和16年11月4日	○	○
1532D (5)-121	1179	野村大使→東郷外相(来栖大使の意見具申) 昭和16年11月18日		○
1532D (6)	1180	1941.11.20 東郷外相→野村大使(Z案提示ノ訓令)	○	○
1532D (7)-142	1184	野村大使→東郷外務大臣 電報 昭和16年11月23日ワシントン発	○	○
1532D (8)	1185	東郷大臣→野村大使 電報 1941.11.24	○	○
1532D (9)-152	1186	東郷大臣→野村大使 電報 1941.11.24	○	○
1532D (10)- 193	1195	東郷大臣→野村大使 電報 1941.11.30	○	○
1532D (11)- 207		東郷大臣→野村大使 電報 1941.12.3	○	○

1532D (12)		東郷大臣→野村大使 電報 1941.12.6	○	○	
1532-D (13)		東郷大臣発野村大使宛電報	○	○	
1532D (15)	1193	1941.11.28 東郷外相→野村大使 (米側対案に対する措置振りの件)	○	○	
1532E		昭和16年11月26日 後華府発 野村大使ヨリ東郷外務大臣へノ極秘電報	○	○	
1535		「近代戦と思想宣伝戦」昭和12年10月 内閣情報部監修		○	
1540		新聞紙中記事掲載差止原案		○	
1547A※	1960	昭和17年5月30日 東条陸軍大臣普通寺師団視察ノ際同師団長ニ与ヘラレタル訓示中 俘虜ニ関スル事項ノ抜萃 典拠及ビ公正ニ関スル証明	○	○	
1547B	1961	俘虜タル将校及准士官ノ勞務ニ関スル件 (昭和17年6月3日) 俘虜管理部長ヨリ関係部隊へ通牒	○	○	
1552- 28	3528	1942.3.25 Vice Ministers' Answers to the Foreign Vice Minister.	○		
1552- 30 ※	3843	俘虜情報局長官ヨリ第13軍「サチ」宛電報 赤十字代表ノ上海俘虜收容所視察ノ件 1942.4.10	○	○	
1552- 35	3843 B	1942.4.16 俘虜管理部長ヨリ第13軍「サチ」電報 上海俘虜收容所施設改善促進ノ件	○	○	
1552- 39		1942.4.4 在上海瑞西総領事・英国人及米国人俘虜收容所訪問ニ関スル件	○	○	英文のみ後半脱落
1552- 40 ※	3843 A	第13軍副官ヨリ俘虜情報局長官宛電報 赤十字代表ノ上海俘虜收容所視察ニ関スル返電	○	○	
1552- 56 ※		Director-Officials Transmit to Parliamentary Vice minister Secretaries.	○		
1555		平和ト戦争:(475頁)ノ抜萃		○	

1555I	879A	"TOKYO GAZETTE" 第5編第8号 昭和17年2月号・自379頁至387頁(週報・12月17日号自2頁至6頁)ヨリノ抜萃 大東亞戦争と国民の覚悟	○	○	
1555M	1337	"Tokyo Gazette" 第5編第8号・2月号415頁よりの抜萃 和蘭軍に対し戦闘開始に関し、昭和17年1月12日情報局に依って発せられたる帝国政府声明	○	○	
1559A	132 (8-9)	欧州戦局ノ見透如何(外務省)	○	○	
1561 A~G		附録第二 1936年11月25日ベルリンニ於テ 大日本帝国特命全權大使武者小路公共閣下宛書簡	○	○	

検 察 側 証 拠 書 類 第 2 0 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
1570	865	「基本国策要綱」昭和16年4月 企画院	○	○	正誤表付
1571A	1969	俘虜就労状況ニ関スル件報告 昭和17年10月21日 東部軍司令部発電報 陸軍省宛		○	
1573		有田外務大臣在任中ニ於ケル日米交渉概要	○	○	
1576	1966	「議事綜覧」第81編第8巻 衆議院委員会議録	○	○	
1577	1229	日本人主要戦争犯罪人ニ対スル国際法廷ニ関スル件	○	○	
1584A (i)		日華基本条約ノ締結ト日滿華共同宣言 昭和15年11月30日(中華民國29年) 南京ニ於テ作成	○	○	
1584D		「新国家ノ十年」情報局	○	○	
1585A	1328	「国策遂行要領ニ付再検討スベキ要目」	○	○	
1589A (i)	1015	電信 1940.2.13 重光大使→有田外相(英次官ガ日英同盟ニ言及セルコトノ報告)	○	○	英文のみ後半脱落
1589B	1016	電信 1940.3.23 重光大使→有田外相(バトラー次官トノ会見報告)		○	
1589C	1017	電信 1940.5.13 重光大使→有田外相(欧州戦ノ進展ヨリ日本ノ準備ヲ促シ且日支融和ヲ第一トスル旨ノ意見具申)		○	

1589D	1018	電信 1940.5.25 重光大使→有田外相 (対支和平ノ強調・対外的ニ日本ノ意図ヲ明カナラシムル要アリトノ進言)				○
1589E (1)	1019	重光大使ヨリ有田外務大臣宛書簡				○ ○
1589F (1)	1020	佐藤大使ヨリ有田外務大臣宛書簡 昭和15年7月10日				○ ○
1589G	1021	来栖大使ヨリ有田外務大臣宛書簡 昭和15年7月10日				○ ○
1590B	526	1940年7月15日佐藤大使ヨリ有田外相宛電報 (来栖大使)				○ ○
1590A C	545	1940年8月2日松岡外相「オート」大使会谈録				○ ○
1590D	525	1940.7.13 有田外相ヨリ佐藤大使宛電報 (来栖大使経由) (佐藤「リ」会谈中「リ」外相ノ言明ニ関スル質問)				○ ○
1592A	1048	発 在倫敦 重光大使・宛 松岡外務大臣 重光・チャーチル会谈報告 昭和16年2月24日				○
1592B	1050	電信写 昭和16年2月25日午前発 在伯林大島大使・宛 外務大臣松岡				○
1592C	1051	電信写 昭和16年2月25日松岡外務大臣宛 在倫敦重光大使発				○ ○
1593A (1)	1054	昭和16年3月4日在野村大使 松岡外務大臣 野村大使ノ対米戦否定ノ件				○ ○
1598		「第二の開闢」橋本欣五郎 大日本赤城会発行				○ ○

検 察 側 証 拠 書 類 第 2 1 卷

P. D. No	EX. No	内 容	英 文	和 文	備 考
1603A	1030	日独伊三国条約に関する枢密院審査委議事概要 (松本条約局長手記) 昭和15年9月26日	○	○	
1606	102	政府職員録		○	
1611A (1-9)		昭和15.10.3閣議決定 日満支経済建設要綱	○	○	
1615		早坂義雄著「南方共栄圏とその性格」霞ヶ関書房	○	○	

1616 | 2234 | 「日独伊枢軸論」外務省外交顧問白鳥敏夫著 | ○ | ○

検察側証拠書類 第22巻

P. D. No.	EX. No.	内 容	英文	和文	備 考
1618A	912A	昭和10年海軍軍縮会議予備交渉ニ対スル輿論啓発要項及方法 附・対国外宣伝要項 対国内普及要項	○	○	
1621		東亜建設第一期総力戦方略(案)ノ抜萃 総力戦研究所調製	○	○	
1621B	810	「東亜建設第一期総力戦方略」抜萃	○	○	
1621C		東亜建設第一期方策案(総力戦研究所)	○	○	
1627	265	真珠湾作戦 1945年12月1日附(聯合軍最高司令部調査報告書)	○	○	
1626		林大使赴奉ニ関スル件(昭和3年8月17日調)		○	
1625(1)		昭和3年5月18日 覚書 帝国政府ハ在支芳沢公使ヲ在上海矢田総領事ニ対シ5月18日ヲ期シ夫々張作霖氏ヲ南京政府外交部長黄郛氏ニ左記覚書ヲ交付シテ帝国政府ノ態度ニ付詳細説明ヲ為スベキ旨訓令シタリ		○	
1622B	686A	第1回総力戦机上演習関係書類 昭和16年8月 総力戦研究所	○	○	

検察側証拠書類 第23巻

P. D. No.	EX. No.	内 容	英文	和文	備 考
1628	809	聯合軍翻訳及通訳部 聯合軍總司令官調査報告書・第131号 1945年(昭和20年)12月1日 日本ノ戦争決意 附録 A日本ノ戦争準備ニ関スル日誌 B真珠湾攻撃ニ関スル質問書ニ対スル回答 挿図第8葉付正誤表付	○	○	
1628B	809	連合軍最高指揮官連合翻訳及通訳課調査報告(日本ノ開戦決定、対「ソビエツ」連邦政策)1945年(昭和20年)12月1日	○	○	
1630A	1963	新任俘虜收容所長ニ与フル陸軍大臣訓示(昭和17年7月7日於陸軍省)証明書 典拠及ビ公正ニ関スル証明 公式入手ニ関スル証明	○	○	
1630B		新任俘虜收容所長ニ與フ陸軍大臣訓示(昭和17年6月25日於陸軍省)証明書 典拠及ビ公正ニ関スル証明	○	○	

1630C	1964 A	俘虜情報局第5号俘虜月報抜萃 第一 一般的事項 俘虜情報局7月号俘虜月報抜萃 第一 俘虜取扱ニ関スル集合教育	○	○
-------	-----------	--------------------------------------------------------	---	---

検察側証拠書類 第24巻

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
1632		1931.9.29 木戸幸一日記(昭和6年)より抜萃		○	
1632BB (1)	775	木戸幸一日記よりの抜萃1939年8月23日(火)	○	○	
1632 CC-1	619	木戸幸一日記 昭和15年6月19日分	○	○	
1632D		1931.9.9 木戸幸一日記(昭和6年)より抜萃		○	
1632dd	643	木戸日記抜萃(1940.9.26)(陸軍ノ「サイゴン」爆撃ニ関スル木戸侯ノ憤慨)	○	○	
1632E		1931.9.12 木戸幸一日記(昭和6年)より抜萃		○	
1632EE	1108	木戸幸一日記ヨリ抜萃1941.7.2	○	○	
1632F		1931.9.10 木戸幸一日記(昭和6年)より抜萃		○	
1632FF	1294	木戸幸一日記ヨリノ抜萃1940年(昭和15年)6月27日(木曜)	○	○	
1632G		1931.8.7 木戸幸一日記(昭和6年)より抜萃		○	
1632GG	1295	木戸幸一日記ヨリノ抜萃 1940年(昭和15年)7月1日(月)	○	○	
1632H		1931.8.12 木戸幸一日記(昭和6年)より抜萃		○	
1632HH	1298	木戸幸一日記ヨリノ抜萃1940年(昭和15年)8月10日	○	○	
1632I		1931.9.19 木戸幸一日記(昭和6年)より抜萃		○	
1632J		1931.9.22 木戸幸一日記(昭和6年)より抜萃		○	
1632L		木戸幸一日記(昭和6年)より抜萃9月29日		○	
1632M		木戸幸一日記(昭和6年)ヨリ抜萃		○	
1632N		Oct. 5 1931 木戸幸一日記(昭和6年)ヨリノ抜萃		○	

1632P	Oot. 7 1931 木戸日記(昭和6年)ヨリノ拔萃	○
1632PP	木戸幸一日記ヨリノ拔萃 1938年(昭和13年)12月12日(月)	○
1632O	Oot. 4 1931 木戸日記(昭和6年)ヨリ拔萃	○
1632R	木戸幸一日記(昭和6年)ヨリ拔萃 Oot. 15 1931	○
1632V	木戸幸一日記(昭和6年)ヨリ拔萃	○
1632VV	木戸幸一日記 1938年8月16日ヨリの拔萃	○
1632W (1)	木戸幸一日記 昭和7年1月11日分	○
1632W (3)	木戸幸一日記 昭和7年1月28日分	○
1632W (5)	木戸幸一日記 昭和7年5月17日分	○
1632W (6)	木戸幸一日記 昭和8年4月18日分	○
1632W (8)	木戸幸一日記(昭和10年5月30日分)	○
1632W (9)	木戸幸一日記 昭和12年7月14日分	○
1632W (10)	木戸幸一日記 昭和12年10月27日分	○
1632W (11)	木戸幸一日記 昭和12年11月3日分	○
1632W (13)	木戸幸一日記 昭和12年11月16日分	○
1632W (14)	木戸幸一日記 昭和12年11月19日分	○
1632W (15)	木戸幸一日記 昭和12年12月21日分	○
1632W (16)	木戸幸一日記 昭和15年1月14日	○

1632W
(18a)

木戸幸一日記 昭和13年5月19日分

○ ○

1632W
(19)

木戸幸一日記 昭和13年8月9日分

○ ○

1632W
(21)

木戸幸一日記 昭和13年9月7日分

○ ○

1632W
(22)

木戸幸一日記 昭和13年11月2日分

○ ○

1632W
(24)

木戸幸一日記 昭和13年12月26日分

○ ○

1632W
(25)

木戸幸一日記 昭和13年12月29日分

○ ○

1632W
(26)

木戸幸一日記 昭和14年1月5日分

○ ○

1632W
(27)

木戸幸一日記 昭和14年3月31日分

○ ○

1632W
(28)

木戸幸一日記 昭和14年4月19日分

○ ○

1632W
(29)

木戸幸一日記 昭和14年5月2日分

○ ○

1632W
(30)

木戸幸一日記 昭和14年8月4日分

○ ○

1632W
(31)

木戸幸一日記 昭和15年6月1日分

○ ○

1632W
(32)

木戸幸一日記 昭和14年8月28日分

○ ○

1632W
(33)

木戸幸一日記 昭和14年11月10日分

○ ○

1632W (34)		木戸幸一日記 昭和15年5月10日分	○	○
1632W (35)		木戸幸一日記 昭和15年5月26日分	○	○
1632W (37)		木戸幸一日記 昭和15年7月17日分	○	○
1632W (39)		木戸幸一日記ヨリノ拔萃 昭和15年9月9日		○
1632W (40)		木戸幸一日記 昭和15年9月12日分	○	○
1632W (42)		木戸幸一日記ヨリノ拔萃 昭和15年9月14日	○	○
1632W (43)		木戸幸一日記 昭和15年9月21日分	○	○
1632W (45)		木戸幸一日記 昭和15年11月29日分	○	○ (英部一部欠)
1632W (47)	1303	木戸幸一日記 昭和16年2月1日分 伏見総長官・近衛首相・杉山総長参内に関するもの	○	○
1632W (48)	1058	木戸日記 1941.4.3 (豊田次官ヲ商相ニ新任ノ件近衛首相ハ賛成ナリ)		○
1632W (49)	1065	木戸日記 1941.4.19 (近衛首相ト共ニ野村大使ヨリノ精訓ヲ協議ス)		○
1632W (50)	1066	木戸日記 1941.4.28 (陛下ヨリ日米交渉ニ関シ御下問アリ)		○
1632W (51)	1084	木戸日記 昭和16年6月6日分		○
1632W (52)	1089	木戸幸一日記 6月18日(水)	○	○

1632W (53)		木戸幸一日記 6月20日(金)	○	○
1632W (54)	781	木戸幸一日記 昭和16年6月21日分	○	○
1632W (55)	1093	木戸幸一日記 昭和16年6月22日分		○
1632W (56)	1094	木戸幸一日記 昭和16年6月23日分		○
1632W (57)	1095	木戸日記 昭和16年6月25日	○	○
1632W (58)	1098	木戸幸一日記 昭和16年6月28日分	○	○
1632W (59)	1112	木戸幸一日記 昭和16年7月5日	○	○
1632W (60)	1115	木戸幸一日記 昭和16年7月15日	○	○
1632W (61)	1116	木戸幸一日記 昭和16年7月16日	○	○
1632W (62)	1117	木戸幸一日記 昭和16年7月17日分	○	○
1632W (63)	1125	木戸幸一日記 昭和16年7月31日分		○
1632W (64)	1129	木戸幸一日記 昭和16年8月2日分	○	○
1632W (66)	1130	木戸幸一日記 昭和16年8月7日	○	○
1632W (67)	1134	木戸幸一日記 昭和16年9月5日分	○	○

1632W (68)	1135	木戸幸一日記 昭和16年9月6日分	○	○	
1632W (69)	1138	木戸幸一日記 昭和16年9月11日分		○	
1632W (70)		木戸幸一日記 昭和16年9月25日分	○	○	
1632W (71)	1141	木戸幸一日記 昭和16年9月26日分		○	
1632W (72)	1142	木戸幸一日記 昭和16年9月29日分		○	
1632W (73)		木戸幸一日記 昭和16年10月1日分	○	○	
1632W (74)		木戸幸一日記 昭和16年10月2日分	○	○	
1632W (75)	1143	木戸幸一日記 昭和16年10月7日分 富田書記官長との対米交渉に関する談話 に関して	○	○	
1632W (76)	1146	木戸幸一日記 昭和16年10月9日分	○	○	
1632W (77)	1147	木戸幸一日記 昭和16年10月12日分		○	
1632W (78)	1149	木戸幸一日記 昭和16年10月13日分	○	○	英文一部欠
1632W (79)	1150	木戸幸一日記 昭和16年10月15日分	○	○	
1632W (80)	1151	木戸幸一日記 昭和11年10月16日分	○	○	
1632W (81)	1154	木戸幸一日記 昭和16年10月17日分	○	○	

1632W (82)	1156	木戸日記 昭和16年10月20日	○	○
1632W (83)	1168	木戸日記 昭和16年11月5日	○	○
1632W (84)	1181	木戸幸一日記 昭和16年11月19日	○	○
1632W (85)	1190	木戸日記 昭和16年11月26日	○	○
1632W (86)	1196	1941.11.29 木戸日記抜萃(陛下重臣の意見を御聴取)	○	○
1632W (87)	1198	木戸幸一日記抜萃 昭和16年11月30日 日米開戦ニ関スル海軍大臣総長ノ所 信奉答ノ件	○	○
1632W (88)		木戸幸一日記 昭和16年12月1日	○	○
1632W (89)		木戸日記 昭和16年12月7日		○
1632W (90)	1239	木戸幸一日記(昭和16年12月8日分)	○	○
1632W (91)		木戸幸一日記 昭和16年12月16日分	○	○
1632W (92)		木戸日記 昭和16年12月18日分	○	○
1632W (95)	1985	木戸幸一日記 昭和17年3月13日(金)		○
1632W (96)	1986	木戸幸一日記 昭和17年5月21日分	○	○
1632W (98)	1987	木戸幸一日記 昭和17年10月3日(土)	○	○
1632W (101)		木戸幸一日記 昭和18年5月13日分	○	○

1632W (105)		木戸幸一日記 昭和19年1月6日	○	○
1632W (106)		木戸日記よりの抜萃 昭和19年7月17日	○	○
1632W (107)		木戸日記よりの抜萃 昭和20年8月9日分	○	○
1632W (110)	1155	木戸幸一日記ヨリノ抜萃 10月18日	○	○
1632W (112)	1162	木戸日記 昭和16年10月29日		○
1632W (113)		木戸日記よりの抜萃 昭和19年7月18日	○	○
1632W (114)		木戸日記よりの抜萃 昭和19年7月19日	○	○
1632W (115)		木戸幸一日記 昭和19年7月20日	○	○
1632W (116)		木戸日記よりの抜萃 1942年9月1日	○	○
1632W (117)		木戸幸一日記 昭和20年4月4日分	○	○
1632W (118)		木戸日記よりの抜萃 昭和20年4月5日	○	○
1632X	532	木戸日記よりの抜萃 昭和15年7月5日・7日・8日・16日・17日	○	○
1632Y	534	木戸日記よりの抜萃 昭和15年7月14日		○
1632Z	539	木戸日記よりの抜萃 昭和15年7月18日(広瀬氏との会談の件)	○	○
				○

検 察 側 証 拠 書 類 第 2 5 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
1633A	1235	昭和16年12月8日放送録音盤 大本營陸海軍部発表の放送に関して		○	
1634		典拠及び公正ニ関スル証明書		○	
1634A		外務省公文書綴ヨリ抜萃		○	
1634B		北支処理要綱		○	
1634-1 (a)		対支政策ニ関スル件		○	
1634-5		日滿支三国ノ緊密ナル提携ヲ具現シテ我ガ經濟		○	No.1 欠
1634-1 (d)		第二次北支処理要綱昭和11年8月11日關係諸省間決定		○	
1634-5 -1 (c)		国策ノ基準(2.8.7)海軍五大臣決定		○	
1634-8 -1 (e)		対支実行策(昭和11年8月11日關係諸省間決定)		○	
1634-96 -2 (f)		第三次北支処理要綱(12.2.20)方針		○	
1634 -14		北支指導方策(昭和12年4月16日外務・大蔵・陸軍・海軍・四大臣決定)		○	
1634b		昭和11年1月21日陸軍側「北支処理要綱」送附ノ件		○	
1634I	977	国策大綱(11-30陸軍省・海軍省)	○	○	
1634J	978	外務省押収文書 1936.6.30「国策大綱ニ関スル件」(五相會議記録)	○	○	
1634K	979	外務省押収文書 1936.8.11「国策ノ基準」(五相會談記録)	○	○	
1634M	3735	1937.8.6 四相會議決定「事變対処要綱」(停戦協定案を含む)	○	○	

1634N	3262	1937.10.1決定「支那事変対処要綱」	○	
1641		満州事変 陸海軍出兵撤兵関係		○
1644-1	1291	1938年11月3日 東亞ノ将来ニ関スル帝国政府声明	○	○
1652	779	日米交渉関係ニテ御前会議ヲ経テ決定シタル諸決定	○	○
1654	702	神田中佐伝言(7月15日)	○	○
1657A	1235	昭和16年12月8日(日本時間)放送ノラジオ報道記録 大日本放送協会報道部 C ニュース係ヨリノ抜萃		○
1658		大日本興同盟役職員名簿		○
1659	165	不穏事件関係者ニ関スル日本政府調査記録		○
1675 (1-14)		「臣民の道」教学局(昭和16年3月31日)		○
1676		「国体の本義」(抜萃)		○
1680-1	435	華北政務委員会法規彙編目録	○	○
1681	1992	1942.7.28付 日本内外各参謀長へ木村陸軍次官ヨリ発せられた通信	○	○
1682	732	在欧武官会議提出露国関係事項	○	○
1685		陸軍省新聞班長佐藤賢了大佐談要旨		○
1685C		支那事変処理関係ヨリノ抜萃 五相會議決定事項(昭和13.8.16閣議決定)	○	○
1685D	3745	中央政治會議指導要項(1939.11.1興亜院會議決定)		○
1691	617A	1937年7月7日蘆溝橋事件以降ノ中日紛争ニ関スル国際連盟決議及報告	○	○
1699	1103	政府統帥部連絡會議(昭和16年)(朝日記事抄)	○	○
1700		戦争犯罪項目		○
1701-1		「表題・民国26年南京大屠殺死難者埋葬処ノ撮影」		○

1702 (1~19)	324	南京慈善団体及び人民魯甦の報告に依る敵人大虐殺概況統計表	○
1703		崇字埋葬隊第一隊埋葬記録 自昭和12年12月26日至昭和12年12月28日	○
1704		世界紅十字会南京分会救援隊埋葬班埋葬死体数 統計表	○
1705		人類ニ対スル罪—中国—確認書 中国政府ヨリノ原本信書	○

検察側証拠書類 第26巻

P. D. No.	EX. No.	内 容	英文	和文	備 考
1706	327	南京地方法院検察処敵入罪行調査報告		○	
1707	402	麻薬証人郭余三ノ署名陳述書		○	
1708	345	姜震瀛大佐の陳述 中国第11戦区総司令部軍事裁判所判事(支那における日本の侵略・麻酔政策暴行の件)		○	
1711 (1.2)		ドクトル・レオ・カンデル医師・歯科医の証言(中華民国北京哈門通り9番地) 1946年3月22日		○	
1712	404	北京政府阿片禁止状況簡明表		○	
1713-1		ビーター・J・ローレンスの口供書 1946.6.21		○	
1714		森岡暉陳述 1946年3月24日		○	
1718	310	遜永成ノ陳述 昭和21年4月7日		○	
1718B	310	1946年4月7日孫達震ノ陳述		○	
1719	314	朱帝翁及張徒祥共同供述書		○	
1722	319	1946年3月7日殷王則ノ陳述		○	
1724	316	フー・ツー・シンノ陳述 昭和21年4月7日		○	
1725		中国ニ於ケル日本軍ノ毒瓦斯戦ノ一般的説明(昭和12年ヨリ昭和20年ニ至ル)		○	
1726		1901年(明治33年)「義和団事件」解決ノ際、列強国全權ノ間ニ審議セラレタル最後ノ議定書		○	断片
1727	346	「アメリカ」合衆国在外勤務機関 邦恵錫供述書	○	○	

1728		日本軍ニ依ル地方民及ビ武装解除サレタ軍人ノ南京ニ於ケル虐殺並ニ南京紅 ニ依ル屍体埋葬ノ実況	字会
1729	311	1946年4月7日 李濬生ノ陳述	
1730		金沙井41号・呉張氏夫人の供述	
1731	320	1946年4月7日調 王潘氏陳述	
1732	313	呉経才陳述 1946年4月7日調	
1733		証人供述書 黄俊郷 昭和21年4月7日	
1734	205	供述書 哲学博士スーチュアンイン	
1735		事実始末 尚徳義口供書 1946年4月7日	
1736	308	証言書 陳瑞芳	
1737	317	王陳氏ノ陳述 1937年12月26日	
1738	318	呉着清ノ申立	
1739	312	LOH SUNG SZE 夫人ノ陳述書 1946年4月6日	
1740-1	322	1946年4月6日陳賈氏夫人ノ申立	
1741	315	1946年4月6日WANG KIANG SZE夫人口供書	
1742	208	1946年4月7日 南京白下路東井巷22号 陳福宝ノ陳述	
1743		梁廷芳大尉ノ陳述 1946.4.7	
1744	323	政治經濟研究叢書第七. 南京安全地区文書 発行1939 編纂徐淑希	
1749		「アメリカ」合衆国其他対荒木貞夫其他訴訟事件 供述書 岡田啓介	
1750		「77」事変紀実 前言 甲 抗戦前ノ冀 察軍政情况 事変紀実	
1752		軍令部第2庁長王丕承將軍ヨリ支那側陪席檢察官向哲濬氏秘書 ヘンリー氏ニ宛テタ ル書翰	

1753	694	日露漁業問題に就て 昭和6年2月9日付参謀本部	○	○	
1754	764. 764A	1934年・1935年関東庁発行の満洲国地図	○	○	certificate 英文のみ付
1756		書類ノ典拠並ニ權威ニ関スル調書		○	
1756B		1941~1942年「日本年鑑」941頁ヨリ抜萃 日本ノ満洲国ニ対スル投資		○	
1756C	447	「日本年鑑1941~1942年」ヨリ抜萃「産業振興計画」		○	
1756D		日本軍の支那作戦の総成果 自1937年至1941年 大本營陸軍報導部の報告		○	
1756G	864	「1941.2年日本年鑑」抜萃 233頁「兵役法ノ改正」	○	○	
1756H (1.2)	881	英文日本年鑑(1941~42年)909頁 第43章日本委任統治下ニ於ケル南洋諸島抜萃 地形	○	○	証明書(日本文)
1763B A	3177	The Present Political Situation in China Mukden Special Service 1934.8.28	○		
1767		From:Foreign Minister SHIDEHARA To: Consul General KUWASHIMA at TIENTSIN	○		
1767. 4-1- 222		幣原外務大臣ヨリ在天津桑島総領事宛 東省昭和6年11月1日後発 宣統帝ノ擁立運動関係 電報		○	
1767. 4-1- 223		在天津桑島総領事ヨリ幣原外相宛電信 昭6.11.1後発昭6.11.2前着		○	
1767. 4-1- 229		在上海村井総領事ヨリ幣原外務大臣宛 上海.昭和6年11月2日後発 同6年11月2日後着 電報		○	
1767. 4-1- 230		在天津桑島総領事ヨリ幣原外相宛電信 昭6.11.3後発 昭6.11.3後着		○	

1767.
4-1-
231

在天津桑島總領事ヨリ幣原外相宛電文 昭6.11.3後発 昭6.11.3後着

1767.
4-1-
232

在天津桑島總領事ヨリ幣原外相宛電信 昭6.11.3後発 昭6.11.3後着

1767.
4-1-
239

在天津桑島總領事ヨリ幣原外相宛電信 昭6.11.4後発 昭6.11.4後着

1767.
4-1-
280

在天津桑島總領事ヨリ幣原外相宛電信 昭6.11.12前発 昭6.11.12後着

1767.
4-1-
287

在牛莊荒川領事ヨリ幣原外務大臣宛 牛莊昭和6年11月13日後発 同6年11月13日後着 第96号

1767.
4-1-
289

在天津桑島總領事ヨリ幣原外相宛電信 昭6.11.13前発 昭6.11.13後着

1767.
4-1-
290

在天津桑島總領事ヨリ幣原外相宛電信 昭6.11.13後発 昭6.11.13後着

1767.
4-1-
291

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛 昭和6年11月13日後発 11月13日後着

1767.
4-1-
292

在遼陽山崎領事代理ヨリ幣原外務大臣宛 昭和6年11月13日後発 11月13日後着

1767.
4-1-
302

昭6.11.15陸軍大臣発関東軍司令官宛電信

1767. 4-1- 306		在天津桑島總領事ヨリ幣原外相宛電信 昭6.11.17後発 昭6.11.17後着		○
1767. 4-1- 320		塚本閣東長官ヨリ幣原外務大臣宛 昭和6年11月22日後発 11月22日後着		○
1767. 4-1- 322		在牛莊荒川領事ヨリ幣原外相宛電信 昭6.11.22後発 昭6.11.22後着		○
1767. 4-1- 331		在北平矢野參事官ヨリ幣原外務大臣宛電報 昭和6年11月26日後発 11月27日前着		○
1767. 4-1- 332		在天津桑島總領事ヨリ幣原外相宛電信 昭6.11.27前発 昭6.11.27後着		○
1767. 4-1- 345		在奉天森島總領事代理ヨリ幣原外務大臣宛電報 昭和6年12月6日後発 12月6日後着		○
1767A -1	3740	1931.9.19前発 9.19前着 奉天林總領事→幣原外相		○ ○
1767A -6	3479 C	在奉天林總領事ヨリ幣原外相宛電信 昭6.9.28後発 9.28後着		○ ○
1767A -7	3479 D	在奉天林總領事ヨリ幣原外相宛電信 昭6.10.3後発 10.4後着		○ ○
1767A -8	3479 E	在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛 奉天昭和6年10月6日後発 同6年10月6日後着 電信第874号(暗・極秘)		○ ○
1767A -9	3479 F	在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛 奉天昭和6年10月16日後発 同着 電信第995号(暗)		○ ○
1767A -10	3479 G	在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛 奉天昭和6年10月19日後発 同着 電信第1034号(暗)		○ ○

1767A -11	3479 I	在奉天林総領事ヨリ幣原外務大臣宛 奉天昭和6年10月28日後発 同着 電信 第1126号ノ2(暗)	○	○	
1767A -12	3479 J	在奉天林総領事ヨリ幣原外務大臣宛 奉天昭和6年11月7日前発 同後着 電信 第1221号(暗)	○	○	
1767A -14	2406	1931.10.13林奉天総領事→幣原外相(張海鵬が日本軍より武器・資金の 供給をうけあり)	○	○	
1767A -15	2407	1931.10.17林奉天総領事→幣原外相(張海鵬が日本軍より武器・資金の 供給をうけあり)	○	○	Doc.1767-B
1767A -16		在奉天森島総領事代理ヨリ幣原外務大臣宛 奉天昭和6年12月2日発 12月2 日着	○	○	
1767A -17	3479 H	在奉天林総領事ヨリ幣原外務大臣宛 奉天昭和6年10月27日後発 同着 電信 第1122号(暗・部外極秘)	○	○	
1767A -18		在奉天林総領事ヨリ犬養外務大臣宛 奉天昭和6年12月23日着	○	○	
1767A -19		在奉天森島総領事代理ヨリ芳沢外務大臣宛 奉天昭和7年1月28日発	○	○	
1767A -20		在奉天森島総領事ヨリ芳沢外務大臣宛 奉天昭和7年2月21日発 2月22日着	○	○	
1767A -22		在奉天林総領事ヨリ幣原外務大臣宛 奉天昭和6年10月13日発	○	○	

検察側証拠書類 第27巻

P.D. No.	EX. No.	内 容	英文	和文	備 考
1769		対満事務局官制(昭和9年12月26日勅令)		○	
1777	211	両政権ノ設立		○	
1790-1	248	蘆溝橋事件実録 王冷齋記述		○	
1791	214	議定書 ソビエツト社会共和国聯邦ト蒙古人民共和国トノ相互扶助ニツイテ ウラン・バートル・コート市ニ於テ 1936年3月12日調印		○	
1792		1946.3.31.チルマン・ダーティンの陳述書		○	

1793A		空襲ノ敵航空機搭乗員ニ関スル件 昭和17年7月28日 木村兵太郎発電報	○	○	
1793B	1993	空襲ノ敵航空機搭乗員取扱ニ関スル件通牒 昭和17.7.28		○	
1793C	1994	東海軍管区内に於ける聯合軍捕獲飛行機搭乗員に対する軍律会議に関する調書	○	○	
1793D	1995	中部軍管区 敵ト士軍律会議調書	○	○	
1793E	1996	陸密第1437号 昭和20年8月15日 軍律被告事件ニ関スル件	○	○	
1793F	1997	俘虜ノ釈放ニ関スル件 昭和20年8月23日 次官発各軍管区参謀長宛電報	○	○	
1795B	868A	昭和15年官報 勅令第648第4122号(昭15.9.30)(総力戦研究所ノ設置ニ関スルモノ)	○	○	
1799B	441A	満州に於ける1934年迄の発達に関する第四次報告		○	
1801		1939年ニ至ル満州進展ニ関スル第六報告書ヨリノ抜萃 5.日本ノ管轄権ノ改編	○	○	証明書付
1804A	2031	1945年12月31日迄ニ報告セラレタル極東ニ於ケル英軍合王国及植民地軍俘虜拘禁中殺害又ハ死亡ノ報告	○	○	
1810A -1	473	ビルマ・シヤムに於ける捕虜待遇に関する件 昭和19年7月11日 俘虜情報局長官宛 鈴木公使発書簡	○	○	証明書付
1811		大東亜戦争関係国際法問題論叢抜萃 戦争開始ノ際ノ敵対行為ニ関スル研究報告	○	○	証明書付
1828-1		宇垣一成宛大川周明 昭和6年3月6日		○	
1835A	2437	昭和13年9月23日 外務大臣宇垣一成閣下宛 朝鮮総督南次郎	○	○	
1840		陸軍省佐藤新聞班長談事務官の事変処理方針等に就て	○	○	
1841	672	電報 昭和12.6.9東条閣東軍参謀長ヨリ中央宛(「ソ」連ノ後方ヨリノ脅威除去ノ為ニハ中国ニ一撃ヲ加ヘザルベカラズ)	○	○	
1841 -8B7 ※	3271 A	1938.2.8外務省情報部長→在各使臣(中国に於ける宣伝の件)に対する証明書	○	○	
1854		供述書 笠原良明		○	

1855	1107	日本帝国政府終戦連絡中央事務局 首題 御前会議出席人員ノ件COLOO 2781号 1946.6.10	○	○
1857B	704	昭和11年8月7日 総理・外務・陸軍・海軍四大臣決定 帝国外交方針	○	○
1858	763	支那郵便蒐集帳ヨリノ蒙古地図ニ関スル証明書	○	○
1862		「松井軍司令官声明」昭和12年12月19日附東京朝日新聞朝刊より複写		○
1870		塘活協定ノ内容		○
1871A		北察哈爾ニ於ケル六郡事件ニ就テ		○
1871B (1~2)		河北省東部ニ於ケル傀儡団体樹立ニ於ケル日本ノ教唆		○
1871C (1~2)		遼寧・吉林・黒竜江及熱河省ニ対スル日本ノ占領		○
1871D -1		河北事件(1935年5月中旬天津日租界ニ於テ・胡思博・白逾恒兩人ノ暗殺事件)		○
1871E (1~4)		1931年9月18日以降1937年8月13日ニ至ル期間中ノ中國ニ於テ日本人ノ犯セル戦争犯罪ノ大要 中華民国外交部43~5頁		○
1875		1946.1.17ヨリ1946.2.18ニ亙リ行ハレタ橋本欣五郎ノ陳述ヨリノ抜萃 橋本欣五郎ニ関スル公判事実要領書ニ対スル資料	○	○
1877	715	1931年ヨリ1945年ニ至ル期間ノ満州ニ於ケル軍用倉庫建設ニ関スル調査報告及地図	○	○
1879	711	1931年ヨリ1945年に至る期間に於ける松花江上艦艇の増強状態一覧表	○	○

検 察 側 証 拠 書 類 第 28 卷

P.D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
1881	716	1931~1945 満州内兵管用予備施設増加ノ報告及地図	○	○	
1883	718	報告 1931年ヨリ1945年に至る期間に於ける朝鮮及び満州の海港の発展に就いて地図付き	○	○	
1885	724	朝鮮ニ於ケル日本軍兵力増加表 自1931年(昭和6年)至1945年	○	○	

1886		日本駐割ノ連大使「カー・アー・スメターニン」ノ1941年6月25日付日記抜萃	○	○
1887	813	東京国際軍事裁判法ニ於ケルソ連邦側検事エス・ア・ゴルンスキー殿 ノ連邦海軍人民委員部海軍軍令部長官 1946年2月20日		○
1889-1	823	1941.12.14発動機船「マイコープ」号爆撃に関する同船々長の抗議書写	○	○
1892		供述書 藤田勇		○
1898		組織法 康徳元年3月1日 鄭孝 以下8人の大臣	○	○
1903		満鉄首脳部と満蒙諸問題懇談 1931年(昭和6年)7月1日(大阪朝日)	○	○
1906		国際検察部公文書第1906号ノ抜萃		○
1907		五・一五事件と大川周明等全65冊 第25冊 著名記録聴取書		○
1908		五・一五事件と大川周明等全65冊 第63冊著明記録		○
1908B		第3回公判調書 昭和9年9月12日東京控訴院第三刑事部ニ於テ	○	○
1909 (10~17)		輝ク日本		○

検 察 側 証 拠 書 類 第 2 9 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
1915		宣誓口供書 星野直樹 1946年1月28日	○	○	
1915B		星野直樹訊問カラン抜萃	○	○	
1918A		満州事変ニ対スル東亜経済調査局前理事長大川周明博士ノ特殊功績調	○	○	
1918B		満州事変ニ対スル東亜経済調査局前理事長大川周明博士ノ特殊功績調	○	○	
1918C		極東国際軍事裁判所・米国会衆国其他対荒木貞夫其他 ティ・アール・トミンゲノ供述書	○	○	
1920		新聞きりぬき 百人斬り"超記録"		○	
1920 -1.2.4		南京ノ「殺人競争」		○	

1921		南京大学・南京・支那 ルイス・エス・シィ・スミス博士口述書 1946.6.4			
1923A		大阪朝日新聞第二号外 昭和14年2月10日付抜萃			
1924		A.A.ドールランスノ供述書 1946年6月			
1928	260	第八節支那事変関係 事変発生ニ因ル人事応急措置			
1946	245	アメリカ合衆国陸軍参謀本部附ダヴィド・ディー・バレット大佐ノ供述書			
1947	307	供述書 ジョージ・エー・フィチ			
1948		日本軍ニ依ル中華民國軍事侵略年表			
1949		INTERROGATION OF COLONAL HASHIMOTO, KINGORO, Serial 6-343, Page 4.			
1950	699	三宅光治訊問書			
1952		裁判記録抜萃 1935年8月31日及9月1日ノ聯邦最高裁判所軍事委員会 イルクーツク市派出会議「コール」倶楽部ニテ公開セリ			
1953	750	1932年ヨリ1945年ニ至ル間ノ日本人ニ依ルソ連国境侵害調査ノ表			
1955	676	大阪時事新報昭和17年1月31日 亜細亜の大同 田中直吉			
1956	738	昭和18年度第2回情報部会議配布書類第6号 白系指導ニ関スル指示 昭和 18年6月 関東軍情			
1957	740	対外蒙宣伝指針(昭和18年6月16日付) 関東軍情報部			
1962	737	昭和18年度威力謀略教育ニ関スル指示			
1968	736A	昭和15年2月16日付 対ソ謀略ノ刷新ト之ニ伴フ白系指導方策			
1970	703	証人訊問調書 哈府1946.3.29 証人後宮淳			
1971	739	特殊移民地白系露人青年訓練実施計画			
1972		証人訊問調書(1946年5月27日) 人見与一			

1973

832 関東軍陸軍通訳補備教育ノ件達 隷下関係部隊

〇〇

検 察 側 証 拠 書 類 第 30 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
1981		証人訊問調書 哈府 1946年3月28日 姓名 大坪一馬	○	○	
1982	838	証人訊問調書 草場辰巳	○	○	
1983-1	743	訊問調書 秋草俊	○	○	
1984	705	訊問調書 富永恭次	○	○	
1987 (1-4)	679	大東亞戦争ニ依ル南方占拠諸地域善後処理方策大綱 昭和16年12月	○	○	
1987B		大東亞戦争ニ依ル南方占拠諸地域善後処理方策大綱	○	○	
1989	734A	昭和4年11月15日橋本被告ノ岡本参謀次長ヘノ報告	○	○	
1990A		1931年広田大使及原田陸軍少将間ノ会谈記録ノ写真謄本	○	○	証明書付
1990B	496	原田閣下ニ対スル講話概要 笠原中佐	○	○	
1991	701	タラネンコ陸軍中佐 1946年5月17日東京ニテ	○	○	証明書付
1992	755	調書 証人訊問 モスクワ 1946年2月26日	○	○	
1993	2160	宣誓口供書「ボヂンスキー」(「ソ」聯関係残虐事件書証)	○	○	
1995	2163	宣誓口供書「トミリン」(「ソ」聯関係残虐事件書証)	○	○	
1996	2161	宣誓口供書「オメルチェンコ」(「ソ」聯関係残虐事件書証)	○	○	
1997	2162	宣誓口供書 コプザエフ・ペー・デー(「ソ」聯関係残虐事件書証)	○	○	
1998	2165	宣誓口供書 ロマノフ・エヌ・アー(ニコライ・アレク・ヘヴィチ)(「ソ」聯関係残虐事件書証)	○	○	
1999	2164	1945年10月12日附被告天野勇訊問調書抜萃(「ソ」聯関係残虐事件書証)	○	○	

検察側証拠書類 第 31 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
2007		国務長官「コーデル・ハル」ノ証言中ヨリノ抜萃		○	
2007		真珠湾攻撃調査ニ関スル両院共同委員会ニ於テ開催セラレタル審理ニ於テ・前国務長官「コーデル・ハル」ノ為シタル証言中ヨリ法廷ノ命ニヨリ被告ノタメニ要請サレテ提供サレタル抜萃		○	
2007-1		日本ノ侵略記録 日本ノ表裏的言動ノ記録 日本ノ政策ト米国ノ政策トノ相違		○	
2007B	1106	真珠湾攻撃審査ニ対スル議会共同委員会ノ前ニ行ハレタル「ハル」国務長官ノ証言	○	○	
2071	748	1943.10.23在「ハルビン」ソ聯総領事ヨリ日本側宛公式声明文	○	○	
2072	824	油槽船「マリウポリ」号遭難調査ノ結果ニ関スル調書	○	○	
2073	707	関東軍師団編成ニ関スル調査	○	○	
2074-1	811	1946年2月15日付 証人野原駒吉審問調書	○	○	
2075A	347	王仲夫供述書		○	
2075B		敵人罪行調査表		○	
2075C		連合国戦争犯罪委員会 日本戦争犯罪人ニ対スル罪科 罪科番号第195号		○	
2076-1		連合国戦争犯罪委員会 日本戦争犯罪人ニ対スル罪科 (被告・松井石根)		○	
2076A		供述書 陳重清 1944年12月20日		○	
2076A		宣誓書 陳述劉得山 1944年12月9日		○	
2077-1-2	360	割釣儒供述書		○	
2078-1-2	361	王根丑供述書		○	
2079-1		供述書 張家訓 1945年4月21日		○	
2080-1	348	木下政市供述書 1945.4.5		○	
2081	349	供述書 王仲夫 1944年11月10日		○	
2084		李永光ノ供述書 1945.4.6		○	

2085		供述書 牛五小 1945年4月30日	○
2086-1	363	張永祥供述書	○
-2			
2087-1	364	王長貴供述書	○
-2			
2088-1	365	楊三供述書	○
-2			
2089-1	366	張光萬供述書	○
-2			
2090-1	367	張成萬供述書	○
-2			
2091-1	368	馮氏供述書	○
-2			
2092-F		供述書 王福 袂 1945年4月30日	○
2093-1	369	王二且供述書	○
-2			
2094		供述書 陝西省郵便局 1945年3月16日	○
2095		供述書 陝西省郵便局 1940年7月27日	○
2096	370	胡自疑供述書	○
2097		王福德供述書	○
2098		徐嘉勳供述書	○
2099	354	黃天新供述書	○
UNWCC			
-551			

2100
UNWCC
(2)551

2101

2102
UNWCC
-551

2103

2105

2106

2107

2108

2109

2110

2111

2112

2113

2114

2115

2117C
1-2

2117D

355 張来生供述書 1945.7.7

356 吳永蕃供述書

357 韋廖氏供述書 1945.7.5

358 韋李氏供述書

359 周如桃供述書 1945.7.5

陳恭景ノ供述書 1945.4.2

332 供述書 饒振武 1945.4.2

333 供述書 賀会卿 1945.5.1

334 供述書 魏晋芳 1943.9.15

335 供述書 盧鶴山

336 供述書 劉煥章

212 供述書 賀明海 1945年5月2日

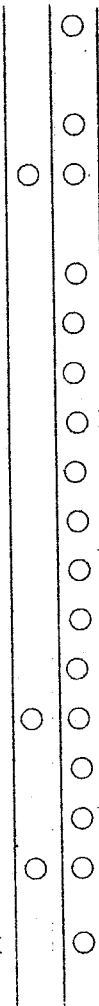
338 供述書 揚兆雄 1945.5.2

339 供述書 賀正坤 1943.9.15

340 魏晋芳ノ供述書 1945.5.1

星野直樹ノ訊問書

1945年(昭和20年)11月19.22.28日ノ星野直樹ノ訊問書ヨリノ抜
萃 21頁



2118-1 ~3		陳述書 ジー・ジェー・徐 1946年6月18日		○
2119		証言書 伍長徳 昭和21年6月18日		○
2120	376	昭和21年8月15日 株式会社日本興業銀行総裁伊藤謙二より・インターナショナル・プロセキューション・セクション宛書簡		○
2124		The Edict of the Present Emperor on the occasion of his accession to the throne on Nonomber 10. 1929	○	

検 察 側 証 拠 書 類 第 3 2 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英文	和文	備 考
2127	67	報告 1931年ヨリ1945年=至ル期間中ノ朝鮮=於ケル軍需品倉庫建設=関スル件	○	○	地図付
2129	725	1931年ヨリ1945年ノ間=於ケル朝鮮ノ鉄道及自動車荷馬車道路網構築進展状況報告		○	地図付
2130	710	日本人ニヨリテ満州及内蒙古=於テ創立セラルタル傀儡軍隊=関スル報告(書類三枚地図一枚)	○	○	
2131		報告書 1931年ヨリ1945年=至ル間ノ朝鮮=於ケル要塞地帯ノ建設=就イテ		○	地図付
2132	65	証明 ソ聯陸軍中佐タラネンコ・ヂー・アイ・ム 東朝鮮飛行場網ノ増加=関スル報告ニツキ	○	○	地図付
2133	717	満州=於ケル日本軍事移民所=関スル調書 1946年1月30日 ツイギチコ大佐	○	○	
2134	713	1931年(昭和6年)ヨリ1945年(昭和20年)=至ル迄ノ満州=於ケル飛行場網増強=関スル報告	○	○	地図付
2135		南ノ演説=対シ猛烈ナル非難浴ビセラル陸相ノ発言・政治的臭味ノ故=痛撃サル南ノ演説内容		○	
2136		陸軍大臣南次郎ノ演説=関スル件 1946年6月15日		○	
2137		別冊第14回 昭和15年10月25日閣議決定 対蘭印経済発展ノ為ノ施策		○	
2137D	541	1940年7月26日閣議決定抜萃 基本国策要綱	○	○	

2137E -2	1310	昭和15年7月27日連絡会議決定 世界情勢ノ推移ニ伴フ時局処理要綱骨子	○	○	
2137F -8	1305	別冊第13 昭和16年4月上旬大本営陸海軍部決定 南方施策ニ関スル大本営陸海軍部方針骨子 対南方施策ニ関スル大本営陸海軍部方針ノ骨子 昭和16年4月上旬大本営決定	○	○	
2137G -9	1317	昭和15年10月25日閣議決定 対蘭印經濟發展ノ為ノ施策	○	○	
2137H -11	1306	別冊第16 昭和16年6月25日連絡会議決定 南方施策促進ニ関スル件	○	○	
2146	749	1943.12.13東支鉄道副総督ヨリ管理局長宛報告	○	○	
2147-1	767	「ハルビン」河地域ニ於ケル蒙古人民共和国ト内蒙古間ノ国境線ニ関スル1940年6月9日付ノソヴィエト連邦・日本兩政府間ノ協定	○	○	地図付
2148	714	1934年ヨリ1945年ニ至ル期間ノ滿洲ニ於ケル設堡地区ノ建設ニ関スル調査報告	○	○	地図付
2149	756	1946年2月26日バタルシン・チリファン・アブビケロヴィチ訊問調書(張鼓峰事件)	○	○	
2150		報告 1931年乃至1945年ノ朝鮮ニ於ケル兵營施設ノ増加ニ就イテ	○	○	地図付
2151	712	1931年ヨリ1945年ニ至ル滿洲ニ於ケル鉄道及自動車道路網ノ發達調査	○	○	地図付
2152	722	証人訊問調書 1946年3月28日 証人 中將村上啓作 訊問者 ボグラニッキー	○	○	
2152A	3372	供述書	○	○	
2153	833	松浦九州男ノ証人訊問調書 1946年5月18日於哈府	○	○	
2155B		國民精神作興詔書彙發15年ニ際シテ 文部大臣男爵荒木貞夫	○	○	
2155C		事變一周年ヲ迎ヘテ(昭和13年7月1日「文部時報」登載)文部大臣男爵荒木貞夫	○	○	

検 察 側 証 拠 書 類 第 3 3 卷

P . D . No	EX . No	内 容	英 文	和 文	備 考
2156-1		大島浩訊問書 1946年3月5日	○	○	
2156B		1946年(昭和21年)2月1日大島浩ノ訊問カラノ抜萃(16・17・18頁 21・22頁)	○	○	
2156C		昭和21年2月2日 大島浩ノ訊問調書抜萃	○	○	
2156D	497	1946年2月4日大島浩ニ対スル訊問(43・44・及ビ45頁)	○	○	
2157		大島浩大使ノ訊問抜萃31・32頁 1946年2月4日		○	
2157B		大島浩ノ訊問 昭和21年2月4日 32頁		○	
2157C		大島浩訊問 1946年2月11日 63~64頁	○	○	
2157D	604	1946年2月26日 大島浩ノ訊問抜萃	○	○	
2160A		1930年(昭和5年)ヨリ戦争勃発迄ノ日英交渉	○	○	
2166		満州国政府公報日訳 康德2年1月~3月ヨリ抜萃	○	○	
2167		日本経済共同委員会設置ニ関スル協定	○	○	
2168		政府公報 勅令第66号 重要産業統制法(1937年5月1日)	○	○	
2169	350	供述書 黄顕祥 1946年5月5日		○	
2170	351	劉自然口述書		○	
2171		岡崎勝男ノ供述書		○	
2173	375	昭和21年8月15日 株式会社日本勧業銀行總裁伊藤謙二ヨリインターナシヨナル・プロセキューション・セクション宛書簡		○	

2175	1236	日本駐在英國大使ロバート・レスリー・クレギー口述書 1941年(昭和16年)12月8日覚書受領時の情況について 1946年5月21日	○	○
2177		日本帝国政府への覚書 輸出及輸入ノ年報 联合国最高司令官総司令部	○	○
2178		証明書 国際検察部第2178号		○
2178A	3741 A	「新中央政府」(識別証拠)の抜萃 「漢口方面政務処理要綱」(1938.10.28陸海外三相決定)	○	○
2178B	3741 B	「新中央政府」(識別証拠)の抜萃 「南支作戦に伴う政務処理要綱」(1938.10.28陸海外三相決定)	○	○
2178C		日支新関係調整方針 昭和13年11月30日御前会議決定	○	○
2178D		連絡部長官に対する内閣総理大臣の訓示		○
2178G※	3743	呉工作所要経費に関する件(1939.6.23興亜院会議決定)	○	○
2194		昭和6 12663暗 奉天19日前発 本省9月19日前着 林総領事より幣原外務大臣宛書簡		○
2194B		幣原外務大臣 第624号 往電623号に関し 林総領事		○
2194C		昭和6 12660暗 奉天19日前発 本省9月19日前着 林総領事より幣原外務大臣宛書簡		○
2196A	851	日満経済共同委員会設置ニ関スル協定(昭和10年7月17日条約第7号)	○	○
2203		北京ニ於ケル臨時政府及南京ニ於ケル維新政府樹立ニ関スル書類(1149頁ヨリ1178頁マデ)	○	○
2210		1946.6.24 トマス・エイチ・モロウ大佐ノ供述書		○
2213		多田駿宣誓書		○
2214		調査報告書 联合国軍最高司令官総司令部国際検察部 高級副官宛 1946年5月2日		○

検 察 側 証 拠 書 類 第 3 4 卷

P . D . No	EX . No	内 容	英 文	和 文	備 考
2 2 1 5 A ~ N		宣誓供述書 J . W . バランタイン 同証拠書類 A ~ N	○	○	
2 2 1 6	1 1 0 4	宣誓口供書 ヘンリー . エル . スチムソン	○	○	
2 2 1 7		日軍罪行証明書 田村信忠		○	
2 2 1 8	3 4 2	口供書 (甲) 被害者陳王様式謝金華陳述		○	
2 2 1 9	3 5 2	桂林参議会控訴		○	
2 2 2 0	3 5 3	桂林市民控訴 其ノ一		○	
2 2 2 1	3 4 3	劉耀華口供書		○	
2 2 2 2 - 1 ~ 2	3 4 4	樹栄口供書		○	
2 2 2 7 - 1		ジョン . G . マックジーの供述		○	

検 察 側 証 拠 書 類 第 3 5 卷

P . D . No	EX . No	内 容	英 文	和 文	備 考
2 2 2 8		第 1 回総力戦机上演習経過記録	○	○	
2 2 2 9	6 8 2	「大東亜共栄圏の範囲及び此の構成に関する試案 (昭 1 7 . 2 . 1 8) 国策研究会事務局」	○	○	
2 2 3 0	7 5 9	1 9 3 8 年 8 月 3 1 日 重光大使トノ会談記録ノ抜萃 (リトヴィノフ日記ヨリ)	○	○	
2 2 3 1 - 1	7 6 6	1 9 3 9 年 ハルビン . ゴル河地方ニ於ケル日本人ノ挑戦的攻撃ニ就テ覚書	○	○	地図付
2 2 3 2	8 1 5	1 9 4 2 年 4 月 1 7 日 ヨリ 2 2 日迄極東国立海運会社ノ「セルゲイ . キイロフ号」ガ伊東灣ニ於テ日本軍当弓ニヨッテ抑留サレシ件ニ就キ報告	○	○	

2233-1	678	荒木貞夫其他ニ対スル供述書	○	○	
2235	757	極東戦線「ハーサン」湖地区事件ニ関スル赤軍参謀本部第一部戦闘日誌ヨリノ抜萃	○	○	
2236	708	1932~1945ノ時期ヲ通シ関東軍及日本軍ニ於ケル技術装備ノ発達全般ニ関スル一覽表	○	○	

検 察 側 証 拠 書 類 第 3 6 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
2237	706	自1931~1945年ノ期日ニ於ケル関東軍及ビ全日本軍兵力増強一覽表	○	○	露訳表付
2238	723	訊問書 柳田元三 昭和21年2月27日	○	○	
2239	2239	証人訊問調書 1946年3月26日 武部六蔵	○	○	
2239A	3371	Cross Examination of Prosecution Witnesses, Russian Phase	○		
2241-1	754	同志M. M. リトヴィノフ ノ日記ヨリ1938年7月20日モスコウ駐在日本大使重光氏トノ談話ノ記録ヨリノ抜萃	○	○	
2242	753	哈桑湖地区ニ於ケル日本軍挑戦ニ関スル調書	○	○	地図付
2243	758	M. M. リトビノフ日記ヨリ1938年8月7日重光トノ会談 覚書抜萃		○	
2244		判決 ソヴェット社会主義共和国聯邦最高法院軍事委員会ハ1934年7月15. 16. 17及19日モスクワニテ裁判長ヴェ. ヴェ. ウリリヒ其ノ他ノ下ニ審理判定ス	○	○	
2245A		昭和18年度(1月~6月)政府公表集一対外関係情報局ヨリノ抜萃 第82回帝国議会衆議院予算委員会ニ於ケル重光外務大臣答弁(6月17日)	○	○	
2246	204	口述書 医学博士ロバート. オー. ウィルソン 1946年6月22日		○	
2247		マイナーシール. ベィテスの陳述書		○	
2248B		荒木貞夫訊問調書抜萃(1946年3月12日)	○	○	

2253B		荒木貞夫訊問調書抜萃(1946年2月19日)	○	○	
2253C		1946年2月19日 荒木貞夫ニ対スル訊問ヨリノ抜萃	○	○	
2254B		荒木貞夫訊問調書抜萃(1946年2月11日)	○	○	
2263		口供書 森島守人		○	
2273		1946年4月22日武藤章訊問ノ抜萃	○	○	
2278	2463	供述書 灘波経一	○	○	
2297A		日本ニ依リ抑留ヤラレタ「カナダ」ノ俘虜ニ関スル公式記録ヨリノ抜萃	○	○	
2298		閉鎖機関保管人委員会 証明書 拠所及確実性アル陳述書		○	
2299		満鉄ニ対スル政府ノ株式投資 1946年6月22日 田中三男	○	○	ccertificate
2302A	681	昭和17年10月現在 会員名簿並要覧 国策研究会	○	○	英文ノミ
2305-1		ブダリン・ボリス・アレキサンドロヴィッチ証人ノ審問調書	○	○	
2306		1934年4月中ニ於ケル鉄道線路ニ対シテ行ハレタル陰謀的攻撃ノ概要事件ノ時刻・場所及ビ其ノ概略	○	○	
2307-1	735	満洲ニ於ケル日本ノ行動ニ対スル「ソ」聯ノ抗議	○	○	
2308	821	ソ連邦検事局 太平洋地区軍事検察官 1946年3月20日 九竜ニ於ケル日本軍ニ依ル汽船「シムフェロポリ」砲撃及ビ日本将兵ノ掠奪ニ関スル調査	○	○	
2309		汽船「スヴィリストロイ」号ニ対シテなされたる射撃及掠奪事件に関する報告	○	○	
2310		報告 香港港内ニ於ケル汽船「セルゲイ・ラソ」号ニ対スル日本機ノ投弾及日本軍ノ「ソビエト」国有財産掠奪ニ関スル件	○	○	

検 察 側 証 拠 書 類 第 3 7 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
2311-1	817	1943年国営極東汽船会社所属船「イングル」号抑留ニ関スル件	○	○	
2312	812	1943年3月6日ドイツ外務大臣ト大島大使トノ間ニ行ハレタ会談ノ件	○	○	
2312B		43年14独逸外務大臣議事録		○	
2315-1 -4	818	報告 香港港内ニ於ケル極東国営海運会社所有船「クレチュト」号沈没ニ関スル件	○	○	
2324	751	1936年国境警備司令官ヨリノ報告書(日本軍ノ「ソ」満国境越境)	○	○	
2325A	816	1943年7月20日極東海運汽船会社所属船「ドヴィナ」号ノ日本官憲ニ依ル抑留ニ関スル件ノ報告	○	○	
2329		大満洲帝国十周年記念 国家機関協和会・満洲帝国白系露人 事務総局刊行 ハルビン 1942年(昭和17年)	○	○	
2329B	3853	「大満洲帝国」十周年記念ニ際シテ ハルビン1942年 第51頁 東亜人ノ人種の相合及民族ノ精神的団結ノ問題	○	○	
2330	680	昭和18年4月研究報告其の一 大東亜共栄圏建設対策案 第一編基本構想総論 国策研究会大東亜問題調査会		○	
2332	445	満洲国公報866号 康德4年2月17日(水曜)第一次五箇年施政ノ実績ト第二期建設計画概要 建国五周年記念講演参考資料	○	○	
2336	436	満洲国政府公報日訳		○	
2338		日本国満洲国間議定書 昭和7年9月15日新京ニ於テ署名	○	○	
2339B		日本年鑑1943年-1944年 自200頁至202頁 6月16日軍事行動遂行ノ強化ヲナス為ノ多数ノ政府方策採択ノ為ノ臨時議會ニオイテノ首相東条英機ノ演説要旨	○	○	
2339C		日本年鑑1943年-1944年 自1,049頁至1,051頁 大東亜会議 1943年11月6日採択ノ共同宣言	○	○	

2339D	1324	日本年鑑1943-1944年205頁 28日和蘭政府ハ日蘭經濟協定ノ破棄並ニ全蘭領東印度ニ於ケル日本資産ノ凍結ヲ発表シタ	○	○
2340		日本華北侵略ノ事實 1. 察北事件 1935年6月		○
2341	187K	INTERROGATION OF Sadao Araki 5 February 1946, 10.30-12.00 hours	○	
2342	187L	INTERROGATION OF General Baron Sadao Araki 18 January 1946, 14.00-16.45 hours	○	
2342B		1946年1月18日 荒木貞夫ニ対スル訊問ヨリノ抜萃	○	○
2343	187M	INTERROGATION OF Generaj (Baron) Sadao Araki 19 January 1946, 14.15-17.00 hours	○	
2344	187N	INTERROGATION OF General (Baron) Sadao Araki 22 January 1946, 10.15-12.00 hours	○	
2344B		荒木貞夫訊問調書抜萃 (1946年2月22日)	○	○
2345	187O	INTERROGATION OF General (Baron) Sadao Araki 22 January 1946, 01.45-16.20 hours	○	
2346	187P	INTERROGATION OF GENERAL SADAO ARAKI 6 February 1946, 10.00-11.45 hours	○	
2347	187Q	INTERROGATION OF Sadao Araki 12 February 1946, 10.00-12.15 hours	○	
2347B		荒木貞夫訊問調書抜萃 (1946年2月12日)	○	○
2348	187R	INTERROGATION OF ARAKI SADA0 14 February 1946, 10.00-12.10 hours	○	
2349	187S	INTERROGATION OF Sadao Araki 15 February 1946, 13.45-16.30 hours	○	
2350	187T	INTERROGATION OF Sadao Araki 18 February 1946, 09.30-12.10, 13.45-16.30 hours	○	

2351	187U	INTERROGATION OF Sadao Araki 20 February 1946, 13.30~16.30 hours	○	
2352	187V	INTERROGATION OF ARAKI Sadao 23 February 1946, 09.20-12.15 hours	○	
2361	557A	1940年(昭和15年)12月号 現代ノ日本ヨリノ抜萃 1514-1520 頁 三国同盟及ビ明日ノ世界	○	○

検 察 側 証 拠 書 類 第 3 8 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
2362A	1240	開戦詔書 昭和16年12月8日		○	封印の図有
2363	668	「セミヨノワ・グリゴリー・ミハイロヴィチ」 訊問調書 1946年4月11日	○	○	
2364	72	1946年4月11日 ロザエフスキー・コンスタンチン・ウラヂミロヴィチの 訊問調書	○	○	
2366	666	「ソ」 聯極東及北満地図	○	○	
2367	667	昭和16年8月14日 荒木大将と石渡事務総長対談	○	○	
2368	673A	今藤茂樹著 日英支那戦争 支那問題研究所	○	○	
2369	744	エム・エム・リトヴィノフノ日記 第1冊	○	○	
2371	745	口述覚書 1932年12月13日 内田外相ヨリトロヤノフスキーへ	○	○	
2372-1	746	1933.2.2日本政府ヨリ「ソ」 連政府宛外交文書	○	○	
2373	747	口頭通牒 ソヴィエト社会主義共和国連邦国立中央歴史記録文書保管局長 マクサコフ 1946年5月21日	○	○	
2377A	3517 A	The Tripartite Alliance and the United States of America.	○		

2378A	908	写「全書類ハ日本郵船株式会社ニ書レタルモノ」					
2379		仏領印度支那ニ対スル緊急処置案 昭和15年6月26日 国策研究会					
2383A	1003	「クレーギー」大使→有田外相(天津事件ニ関スル抗議)(添書三通共) 「日米外交関係文書」58号抜萃					
2394-1		仏印進駐の史的意義 大亜細亞主義10月号より					証明書付
2397		An Excerpt from the Magazine "Llai asia Shugi" Published by the Greater Asia Association July 1941, at page 10 By:matsni Iwane					
2400-A	1029	1940.9.20 東亞各民族対策「緬甸対策」					
2402	1336	大東亞共栄圏建設原案(草稿)総力戦研究所調製					
2402B		大東亞共栄圏建設原案(草稿)					
2405		ジョゼフ・クラーク・グルーハ陳述書					
2406		全日本国民に告ぐ(荒木貞夫)よりの抜萃					
2407A		宣誓供述書 荒木貞夫 土肥原賢二 橋本欣五郎その他					
2411		「満州ニ於ケル電信及ビ電話」に関する下田外務省文書課長の保証書					
2412	235	国際検察部書類1014Eに関する下田外務省記録保存所長の証明書					
2414		宣誓口供書 ジョン・ビー・ポウエル					

検 察 側 証 拠 書 類 第 3 9 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
2415		満州国経済建設要綱(大同2年3月1日)	○	○	
2419A	774A	1935年11月4日及び11月12日 白鳥公使より有田ベルギー大使宛書翰	○	○	

2427		人類最終戦のために一世界戦争の前途一白鳥敏夫	○	○	
2448		1939~1945ニ至ル英連合王国軍並ビニ補助部隊ノ兵力及ビ死傷者数 1946年6月皇帝陛下ノ命ニ依リ首相及ビ国防相ヨリ国会へ提出	○	○	
2457	669	「大正11年軍備縮少会議」ナル書籍中抜萃(「ソ」聯領土不可侵内政不干涉)	○	○	
2459A		南進叢書4 タイ国(裏表紙ヨリ抜萃)新東亞連邦想定図	○	○	
2460	731	1942年満洲国協和会白系露人事務総局発行「大満洲帝国」	○	○	証明書付
2460A		新旅順関東軍司令部付河本大佐殿		○	
2461A		朝日新聞(東京版)昭和19年4月16日附ヨリノ抜萃	○	○	
2462A		朝日新聞昭和16年12月12日付よりの抜萃"断じて勝つ" 東条首相談話	○	○	
2466	309	デー・エイチ・マックカラム氏手記ノ日記録 日本軍ノ占領 1937年12月 ~1938年1月		○	
2467		自筆証言 俘虜前関東軍第一方面軍司令官大将喜多誠一 自4月20日至4月 23日 1946年	○	○	
2470A		「満洲国対外貿易」	○	○	
2471A		1946年7月8日付 終戦連絡中央事務局経済部長宛 外務省管理局長発書簡 (満洲及ビ支那本土ニ於ケル日本側投資ノ件)	○	○	
2478A		証明書 出所及典拠確実性ニ関スル陳述		○	
2483	1998	陸軍々法会議処刑俘虜一覧表(昭16.12.8~昭20.8.15)	○	○	
2495A	1126	1946年(昭和21年)3月21日永野修身訊問書抜萃	○	○	
2496A	1197	1946年3月26日永野修身ニ対スル訊問ヨリノ抜萃	○	○	
2497A	1127 A	永野修身訊問ヨリノ抜萃 1946年(昭和21年)3月27日真珠湾攻撃の訓練・ 演習・海軍大学に於ける計画について		○	証明書付
2498		1946年(昭和21年)2月5日通訳者ノ証明	○	○	

2498B	1128 A	昭和21年1月23日嶋田繁太郎訊問ヨリ抜萃			○
2499A	1243 A	東条英機ニ対スル訊問抜萃文 1946年2月7日		○	○

検 察 側 証 拠 書 類 第 4 0 卷

P. D. No	EX. No	内 容	英 文	和 文	備 考
2500A		1946年2月8日東条英機ニ対スル訊問ヨリノ抜萃 2頁	○	○	
2501A	1153	1946年2月11日東条英機ニ対スル訊問ヨリノ抜萃 2~5頁	○	○	
2502A	1110	訊問書(抜萃)東条英機 昭和21年2月13日	○	○	
2502B	1110 A	東条英機ニ対スル訊問 昭和21年2月13日 御前会議(1941.7.2)	○	○	
2503		1946年2月18日東条英機ニ対スル訊問ヨリノ抜萃 1-2.3-4頁	○	○	
2504A		東条英機ニ対スル訊問ヨリノ抜萃 1946年2月19日 1-2.4-5.6-7.8.11頁	○	○	
2505A		東条英機ニ対スル訊問ヨリノ抜萃 1946年2月20日	○	○	
2506A		東条英機ニ対スル訊問ヨリノ抜萃 1946年2月21日(2.3.4頁)	○	○	
2507	1136 A	1946年2月23日東条英機ニ対スル訊問ヨリノ抜萃		○	
2508A	1244	東条英機ニ対スル訊問ヨリノ抜萃 1946年3月1日 真珠湾攻撃及びその他の諸攻撃について	○	○	
2509A	1137 A	東条英機ニ対スル訊問 昭和21年3月11日		○	
2510A	1158 A	東条被告訊問調書 御前会議(1941.9.6)後における戦争準備	○	○	
2511B	1979 A	1946.3.14東条英機訊問ヨリノ抜萃		○	

2512B	1119	東条英機ニ対スル訊問 昭和21年3月15日 政府・大本營連絡會議について	○	○
	A			
2513A		東条英機ニ対スル訊問ヨリノ抜萃 昭和21年3月18日	○	○
2514B	1980	東条英機ノ訊問抜萃 1946.3.25 捕虜取扱	○	○
2514C	1980	東条英機ノ訊問抜萃 1946.3.25	○	○
	B			
2514D	1980	東条英機ノ訊問抜萃 1946.3.25	○	○
	C			
2514E	1980	東条英機ノ訊問抜萃 1946.3.25	○	○
	D			
2514F	1980	東条被告訊問調書 1946.3.25	○	○
	E			
2515B	1981	東条英機ノ訊問抜萃 1946.3.26	○	○
	A			
2515C	1981	東条被告訊問調書 1946.3.26	○	○
	B			
2515E	1981	東条英機ノ訊問抜萃 1946.3.26	○	○
	C			
2521	880	陸軍兵力概見表(第一復員局調)	○	○
2524A	674A	1941.11「改造」独ソ戦の新展開と日本 田中庚	○	○
2527	671A	"JAPAN ADVERTISER" 抜萃 昭和13年7月11日附荒木被告ノ对中国対「ソ」継戦ニ関スル演説	○	○
2528	828	NIPPON TIMES より抜萃 重光外相(枢軸側ノ協力ヲ賞讃)昭和19年12月12日	○	○
2529A	1067	1941.1.23「ジャパントイムズ・アンド・アドヴァタイザー」ヨリノ抜萃 人口増加運動(一億目標)	○	○
2530A	1055	「東京日々新聞」1941年(昭和16)3月8日附ヨリノ抜萃 国家総動員法改正規定ハ3月20日施行	○	○
2531A	1038	「東京日々新聞」1941年(昭和16年)5月3日附カラ抜萃 国防保安法	○	○
2534A		1941年7月1日火曜日附東京日々新聞の抜萃 軍事参議の陸軍側参議官により會議開催さる	○	○

英文 certificate
付

2534C		「東京日々」からの抜萃 思想問題会議1941.8.8			○
2534		証明書 典拠及び公正ニ関スル証明			○
2534D	1132	東京日々新聞からの抜萃 1941年8月23日附			○
2534E※		1941年8月30日東京日々新聞より抜萃 野村大使ルーズベルトと会見し近衛首相の信書を手交す			○
2535A	1133	1941年(昭和16年)9月7日附「東京日々新聞」ヨリノ抜萃 政府船舶及び貨車建造ヲ促進ス			○
2536A	1140	東京日々新聞 昭和16年9月13日労務動員実施計画			○
2537A	1173	東京日々新聞記事抜萃(「チャーチル」演説)			○
2539A		1941年(昭和16年)11月29日附「東京日々新聞」ヨリノ抜萃「内閣新聞新制度ノ承認」			○
2542	446	東京終戦連絡事務局発联合国最高指揮官総司令部宛(1946年7月30日)満洲国政府産業5ヶ年計画及び修正案			○
2543	1234	館野守男氏宣誓口述書(東京放送局放送員)1941年12月8日午前6時大本營陸海軍部隊発表の放送に關して 1946年7月24日			○
2548		堀場一雄 宣誓口述書(総力戦研究所)			○

英文ノミ後半脱落

検 察 側 証 拠 書 類 第 4 1 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
2549	691A	満鮮地方旅行報告抜萃 鈴木重康 昭和6年5月	○	○	
2550	721A	北洋方面上陸作戦ノ為兵要地誌資料第2巻ヨリノ抜萃 昭和16年3月	○	○	
2551A	3215	日満支經濟懇談会報告書ヨリ抜萃		○	
2551B	A	日満支經濟懇談会ヨリノ抜萃 賀屋興宣	○	○	

2551C	3339 A	Excerpt from "Reports on the JAPAN-MANCHUKUO-CHINA Economic Round Table Conference" (p.288-289) 29 November 1938 at HIROSHIMA KAYA.OKINORI	○	
2568A		光輝アル日本陸軍 大阪毎日・東京日々新聞発行(1942.5)「大東亜新秩序」 所載	○	○
2569	2000	証明書 機密書類の焼却について・陸相命令 1945.8.14	○	○
2570A※		情報部長 時局宣伝処理に関する件 昭和13年8月26日 五相会議決定	○	○
2570B		五相会議決定事項集(昭和13.10.31現在)東亜局第一課 極秘	○	○
2577	612	日支新関係調整要綱ノ典拠及ビ公正ニ関スル証明	○	○
2577		国外及国内政策ニ関スル重要決議 1938年8月及11月ヨリノ抜萃		○
2580	1237	米・合衆国海軍水夫長フィリップ・エリイ・ソンドース宣誓口述書 日本のグアム 島攻撃に関して(1941年12月8日) 1946年8月9日	○	○
2581	1223	1941.12.7, 8各地比較時間表	○	○
2593	603	伯林発東京宛1941年11月29日第1393号電報 リッペントロップのメッ セージ	○	○
2593B		1941年12月3日 ローマより東京宛電報	○	○
2593C	641	1941年7月14日広東発電第255号 仏印占領に関して	○	○
2593D (2)		東京発(外務大臣)ワシントン宛 1941(昭和16)7.31 第433号 (4,1)ベルリン宛発信第708号	○	○
2593D (4)	1144	ワシントンヨリ東京 電報 昭和16年10月8日		○
2593D (5)		東京発ワシントン宛電報 1941年10月16日	○	○
2593D (7)	1164	東京ヨリワシントン宛電報 1941年11月4日	○	○
2593D (8)	1165	東京発ワシントン宛電報 1941年(昭和16年)11月4日	○	○

2593D (9)	1170	東京発ワシントン宛電報 1941年11月5日	○	○
2593D (10)		東京宛ワシントン 1941.11.5	○	○
2593D (11)	1174	東京発→華府宛 1941.11.11	○	○
2593D (13)	1177	華盛頓(野村)ヨリ東京宛 1941.11.14	○	○
2593D (14)	1178	極秘 東京ヨリ華府へ(東郷外相→野村大使)1941.11.16	○	○
2593D (16)	1171	東京発→ワシントン宛 1941.11.22	○	○
2593D (18)		河内ヨリ東京宛電報 1941年11月25日	○	○
2593D (19)	1189	ワシントン発 東京宛 1941.11.26	○	○
2593D (20)		⑧ 華府(野村)発 東京宛 1941.11.26	○	○
2593D (21)	802	発信東京 受信伯林 1941年11月30日 往信第2387号ニ関シ	○	○
2593D (22)	1199	発 東京 東郷外相, 宛 伯林 大島大使 1941年11月30日電報	○	○
2593D (23)	1200	太平洋横断無線電話 発 ワシントン, 宛 東京 来栖大使↔山本局長間の電話会談(傍受電)1941年11月30日(東部標準時間22時30分ヨリ22時38分)	○	○
2593D (26)		東京発「ワシントン」宛 1941.12.1	○	○
2593D (30)		東京(東郷)発ハバナ宛 1941.12.2	○	○
2593D (34)		ワシントン(野村)ヨリ東京へ 1941.12.3	○	○
2593D (37)	805	東京発伯林宛 1941年(昭和16)12月6日 第1418号ノ第2ニ関スル件	○	○
2593D (38)	1219	電報 1941.12.7東京発 回電	○	○
2593D (39)		東京発「ワシントン」宛 1941.12.7	○	○
2593D (40)	1242	発 伯林(ベルリン)宛 東京 秘密電報 開戦決定の件 独の対米参戦の件 1941年12月8日	○	○

2593D (41)	1188	バンコク発東京宛電報 1941年11月25日		○
2594A	2001	「発来翰綴」ヨリノ抜萃 書類処理ニ関スル件通牒・焼却準備 鹿児島地区憲兵隊 昭和20年8月	○	○
2595A	831	証明書 昭和21年8月7日 美山要蔵	○	○
2597	1225	白尾千成氏ノ宣誓口述書(「ル」親電遅配ノ事情)1946(昭21)7.30	○	○
2599	448	1937~1942年迄ニ発行サレシ東京「ガゼット」ガ政府ノ監督下ニ作成サレシモノナルコトノ証明書	○	○

検 察 側 証 拠 書 類 第 4 2 卷

P. D. No	EX. No	内 容	英 文	和 文	備 考
2600A	554	昭和15年9月27日官報(三国条約に関するもの)	○	○	
2603B	3338	賀屋興宣述 戦時下の経済生活 今日の問題社発行より抜萃(15-26頁)日本の経済力の問題	○	○	
2603C	3338	賀屋興宣述 戦時下の経済生活 今日の問題社発行ヨリ抜萃 銃後の女性	○	○	
2603D	3338	「賀屋興宣述 戦時下の経済生活 今日の問題社発行」よりの抜萃(229-258頁)貯蓄報国の途		○	
2604A	862A	1938年5月19日「ジャパン・アドバイザー」所載 軍ハ戦時法案ヲ説明スル	○	○	
2605A	863A	陸軍の戦時法案の説明「ジャパン・アドバイザー」所載 1938年5月20日	○	○	
2608		米国主席検察官事務局 昭和21年3月28日 ジェラード・シェーフアー	○	○	証明書つき
2611	1309	蘭領印度ト日本 1940年乃至1941年ノ紙上戦著者「ヒューベルタス・	○	○	
	1309A	ヂェーフアン・モーク」和蘭政府植民大臣 発行所 紐育法人組織「タブリュエー・タベリュエー・ノルトン」会社			

2612A	1326A	蘭印に於ける日本の破壊工作 1938.5.30 (金子光郎宛の手紙及レンダー ルト・カムペール (Leendert Kamper) の供述書	○	○	
2612B	1326B	蘭印に於ける日本の破壊工作 1938.12.24 (金子啓蔵より久保辰次宛手 紙)	○	○	
2612C	1326D	井上ヨシヲ発掘江係長宛書簡	○	○	
2612D	1326C	昭和10年3月15日南洋興発社長発小杉方也宛書簡 (蘭領ニューギニア石油会社 設立ニ関スル件)	○	○	
2612E	1326E	昭和29年5月30日莊孔明発林久次郎宛書簡	○	○	
2612F	1330	昭和16年11月29日石沢総領事発野々村領事宛電報	○	○	
2613		蘭領東印度ニ対スル日本情報部ノ機構	○	○	地図付
2618	1340	コルネリス・ファン・デン・ホーヘンバントについての調書	○	○	
2620A	1341	ヨセフ・テオドール・ファン・アムステルの訊問調書	○	○	
2622A		宣誓供述書 アンソニー・フランシス・ポールス・ヘルセリー	○	○	
2623	1308	蘭領東印度「バタビヤ」市米国総領事館「バタビヤ」ニ居住ノ蘭印副総督「ヒュー ベルタス・バン・ムック」博士ノ陳述	○	○	
2624A		ヘラルド・レオナルド・ラインデルホフの調書	○	○	
2627A	760A	「昭和日本ノ使命」抜萃 荒木貞夫著 (28頁~29頁) (26頁~30頁)	○	○	
2628A		独逸文書ノ押収処理・保管ニ関スル宣誓供述書 GERARD SCHAEFER	○	○	

検 察 側 証 拠 書 類 第 4 3 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文
2631 (1. 2. 3)	1319	昭和16年バタヴィア2月6日前発 松岡外務大臣宛電報・芳沢代表	○	○

2632	610	満洲平頂山・千金堡・李家溝ニ於ケル住民2,700殺害ノ件・シカゴ・デーリー・トリビュン記事(1932.11.25付)	○	○
2633	611	シカゴ領事撫順事件ヲ語ルノ件 1932.11.25付シカゴ・デーリー・トリビュン記事	○	○
2634	664	仏印進駐日本軍司令官布告(1945年3月)	○	○
2647		日記抜萃(新嘉坡市警備司令官) 2月18日~4月16日 新嘉坡ニ於ケル華僑処断状況調書 昭和20年10月23日 第4班		○
2647 Ⅲ		俘虜関係 馬來作戦間ニ於ケル非人道的行為ニ関スル調査概要 昭20.11.22 第4班		○
2654		「アメリカ」合衆国コロンビア区 宣誓書 ガードナー・シー・カーペンター 1946年(昭和21年)9月6日		○
2655	665	1945年(昭和20年)4月11日 日本政府ヘノ警告	○	○
2657	695	供述書 笠原幸雄 1946.10.10	○	○
2658	697	宣誓供述書 笠原幸雄 1946年9月6日	○	○
2659	693	宣誓供述書 笠原幸雄	○	○
2660	742	宣誓供述書 河辺虎四郎	○	○
2661	741	宣誓供述書 河辺虎四郎	○	○
2662	1892	支那(含満州)に於けるB級犯罪書証 自1945年12月1日 俘虜調査部作成による俘虜中央調査委員会調査報告目録	○	○
2662 (12)	1891	漢口ニ於ケル米軍俘虜3名殺害事件ニ関スル件 昭和20年11月4日	○	○
2662 (23)	1921	東部地区に於ける聯合軍飛行機塔乗員の取扱に関する調書 其の一 俘虜関係中央調査委員会 昭和21年1月9日	○	○
2662 (24)	1922	中部地区ニ於ケル聯合軍飛行機塔乗員取扱ニ関スル調書 其の一 昭和20年12月26日	○	○

2662 (25)	1924	昭和21年1月23日 西部地区ニ於ケル聯合軍飛行機塔乗員取扱ニ関スル調書 俘虜関係中央調査委員会報告	○	○
2662 (27)	1923	中部地区ニ於ケル聯合軍飛行機塔乗員取扱ニ関スル調書 其二 昭和21年3月 27日	○	○
2663A		電報 西貢 昭和20年3月3日19.30 本省 昭和20年3月3日21.00 重光大東亞大臣宛 松本大使より 貴電第24号ニ関シ	○	○
2664A	661	最高戦争指導会議決定第16号 情勢ノ変化ニ応スル仏印処理ニ関スル件 昭和20.2.1	○	○
2665		1941年(昭和16年)12月6日・7・8日3日間中ノ「重要事件発生」時間 表	○	○
2667	663	仏国印度支那高等弁理処 秘密情報第22号 印度支那ニ於ケル降伏前ノ日本軍活 動	○	○
2669A	1226	白尾千成日記 1941.11.29、1941.12.4、1941.12.6、 1941.12.7、1941.12.8以上5日分	○	○
2670	599	独逸国総統 アドルフ・ヒットラ発 日本国皇帝陛下宛書簡	○	○
2671	600	東京1941年3月5日外務次官閣下宛 フントブルック	○	○
2672		宣誓口供書 松村知勝	○	○
2673	834	供述書 瀬島竜三	○	○
2674A		蘭領印度作戦ニ就行 1942年2月~3月 某陸軍中佐ノ蘭印作戦ニ関スル報告 ノ綴込未了手記	○	○
2685	1331	第6委員会規程 昭和16年12月2日 内閣総理大臣決裁 昭和17年1月23 日改正	○	○

検 察 側 証 拠 書 類 第 4 4 卷

P.D. No.	EX. No.	内 要	英 文	和 文	備 考
2687	2002	俘虜取扱に関する文書2688~2701の資料証明	○	○	
2688	2003	暗号電報翻訳文 俘虜管理局長ヨリ台湾軍参謀長アテ 昭和17年6月5日	○	○	2687のAにあたる
2689	2004	暗号電報翻訳文 俘虜情報局長ヨリ台湾軍参謀長アテ 昭和17年4月2日	○	○	2687のBにあたる
2690	2005	暗号電報翻訳文 参謀長ヨリ俘虜情報局長アテ 昭和17年4月2日	○	○	2687のCにあたる
2691	2006	暗号電報翻訳文 参謀長ヨリ香港総督部参謀長アテ 昭和17年4月2日	○	○	2687のDにあたる
2692	2007	暗号電報翻訳文 香港総督部参謀長ヨリ台湾軍参謀長アテ 昭和17年4月3日	○	○	2687のEにあたる
2693	2008	暗号電報翻訳文 参謀長ヨリ俘虜情報局長官アテ 昭和17年4月7日	○	○	2687のFにあたる
2694	2009	暗号電報翻訳文 俘虜管理部長ヨリ台湾軍参謀課長アテ 昭和17年4月29日	○	○	2687のGにあたる
2695	2010	俘虜処理ニ関スル件通牒 昭和17年5月6日 川原直一	○	○	2687のHにあたる
2696		台湾俘虜収容所長宛参謀長訓示(1942年7月上旬ノ記録中ニ在リ)		○	2687のIにあたる
2697	2011	東京俘虜収容所長→台湾軍参謀長 1945.8.20	○	○	2687のJにあたる
2698	2012	台湾俘虜収容所長宛台湾軍管区参謀長ノ書簡 1945.3.17	○	○	2687のKにあたる
2699	2013	情勢ノ推移ニ応スル俘虜処理要領	○	○	2687のMにあたる
2700	2014	俘虜ノ労務ニ関スル通牒 昭和20年3月16日 台湾軍管区参謀長宛陸軍省副官ノ書簡	○	○	2687のNにあたる
2701	2015	第11部隊参謀長宛俘虜ニ対スル非常手段ノ件ノ回答 1942~1945 台湾俘虜収容所本部日誌抜萃	○	○	2687のOにあたる
2702A	2028	極東ニ於ケル「オーストラリア」(海軍・陸軍・空軍)俘虜	○	○	

2704A		緬甸国憲法 緬甸国統治組織法	○	○
2705A		元ビルマ法院々長弁護士「ユートン・マウング」M. A. L I Bの陳述書	○	○
2707D	1438	連合軍翻訳通訳部報告 マニラ(1944.11.23)	○	○
2707F	A 1463	222歩兵連隊付工兵隊其ノ命令写真 陸軍工化学校発行「地雷発見及処理ニ関スル件」	○	○
2707H	1446	一部隊命令(人肉を食せる者は死刑とす)1944.11	○	○
2707K	1438	連合軍翻訳通訳部報告 山口准尉日記	○	○
2707R	B 1464	第16隊本部隊の写真 第16師団長ノ訓示	○	○
2707S	1465	第16通信隊部隊の写真 俘虜取扱ニ関スル訓令 タクロバン憲兵隊ニテ押収	○	○
2709	1422	エスサー・ガルシャ・モラスノ宣誓書	○	○
2713	1448	エドワード・P・キング少将質問書(バターン降服ニ関シ)	○	○
2718	1446	鳥居部隊其ノ手記「ムンティンルバ」監獄訪問の記	○	○
2719	1400	宣誓口供書 ジョセ・G・ツバツ	○	○
2720		アポリナリア・ナヴァロノ宣誓書 日本人の残虐行為	○	○
2721	1403	宣誓口供書 ロレンゾ・ポリト	○	○
2723	1417	宣誓口供書 レオノラ・バラシヲ・ヴィラス 日本人の残虐行為	○	○
2724		宣誓口供書 アルバ・C・カーベスター	○	○
2725	1388	宣誓口供書 インドロ・カブサス	○	○
2726	1418	宣誓口供書 タヤムボン・チャグサ	○	○
2727	1401	宣誓口供書 ノント・ツブングバンワ	○	○
2728	1407	宣誓口供書 ミグエル・エステイマダ	○	○

2729	1404	宣誓口供書 ラディアモダ	○	○
2730	1357	在比米軍ノ損害見積		○
2731	1109	宣誓口供書 イエール・マクソン 昭和21年10月25日	○	○
2732	1988	泰俘虜収容所長より俘虜情報局長宛の軍事秘密電報訳 9月3日午後 12時10分発9月4日午後 9時00分着10:00受	○	○
2733	1977	検閲注意事項整理改訂ノ件 昭和18年12月20日 陸軍省報道部長	○	○
2734	1999	処罪セラレタル俘虜ノ銘々票補修ニ関スル件 俘虜情報局長官ヨリ各俘虜収容所長ニアテタ処理ノ通牒 昭和18年7月27日	○	○
2735		宣誓口供書 ヘンリ・キーズ	○	○
2740		供述書 ハヤト・クドー	○	○

検 察 側 証 拠 書 類 第 4 5 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
2741		宣誓供述書 シラオ・タテキ	○	○	
2742	1456	チャールス・トーマス・ブラウンの証明書(日本軍ノ医療、食糧供給状態)	○	○	
2744	1989	宣誓口供書 若松只一(1) 泰国「ビルマ」間ニ陸上連絡ヲ作ル事(2) 「ビルマ」ニ作戦中ノ日本軍ニ必要ナ補給線ヲ与ヘル為(3) 沿線ニアル軍需品生産ニ必要ナ「タングステン」ノ鉱床ノ発掘ヲナス	○	○	
2745	1160	外務省より入手せる文書に対する証明書		○	
2747	1355	在「マニラ」联合国軍最高指揮官総司令部法律部 1946年5月13日	○	○	
2748A (2)	1311	対蘭印要求	○	○	
2748A (6)	1312	松岡外務大臣へ往電会第9号総督との会見の印象を小林代表より電信	○	○	

2748A (8)	1313	1940.10.18 小林経済使節団長→松岡外相(経済勢力を植えよ)			○
2748A (10)	1318	昭16年1月27日在バタヴィア芳沢代表発松岡外相宛電報		○	○
2748A (11)		発電第2524号昭和16年1月28日後7時 松岡外務大臣発任「バタヴィア」 芳沢代表宛電報写 芳沢代表「ステートメント」ニ関スル件		○	○
2748A (12)	1320	昭和16年3月28日在ヴァタビア芳沢代表宛近衛外務大臣			○
2748A (13)	1312	昭和16年5月23日松岡外相発芳沢代表重光大使野村大使宛電報(蘭印交渉促進)		○	○
2748A (14)	1322	昭16年6月7日芳沢代表発松岡外相宛電報		○	○
2748A (15)	1323	昭16年6月14日松岡外相発芳沢代表宛電報(蘭印交渉打切ニ関スル件)		○	○
2748A (18)	1314	昭15年9月3日松岡外相発在バタヴィア齊藤総領事宛電報(石油)		○	○
2748A (19)	1315	昭15年9月18日小林代表発松岡外相宛電報(石油問題)		○	○
2748A (20)		昭15年10月25日齊藤代表発松岡外相宛電報(石油問題)		○	○
2748A	1301	証明書 国際検察部第2748A号(1)ヨリ(20)全部 出所及典拠確實性ニ 関スル林馨ノ陳述		○	○
2749	1443	警察事務B第2番(公安ニ関スル受領報告)抜萃 虐殺ニ関スルモノ		○	○
2750		和蘭王国蘭印軍少佐K.A.デ.ヴェールト既準備陳述書 題「日本軍の蘭領印度 占領」		○	○

検 察 側 証 拠 書 類 第 4 6 卷

P.D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
2751A (1)		1942年12月23日・東京ニテ 外務大臣谷正之閣下宛書簡	○	○	
2751A (2)	2024	1944年2月5日東京ニテ 外務大臣重光葵閣下宛書簡	○	○	

2751A (3)	2024	外務省スイス公使間往復文書 1944.4.24	○	○
2751A (4)	2024	居秘第97号 昭和19年4月28日瑞西国特命全権公使カミーユ・ゴルジェ閣下宛書簡 外務大臣重光葵	○	○
2751A (5)	2024	昭和19年8月16日外務大臣重光葵より、瑞西国特命全権公使「カミーユ・ゴルジェ」閣下	○	○
2751A (6)		1946年3月1日東京 外務大臣重光葵閣下宛書簡 瑞西公使	○	○
2751A (1-6)		証明書 典拠及ビ公正ニ関スル証明 1946年12月6日東京ニ於テ署名 ウォルター・ボシー	○	○
2753	1589	アンドリュウウルピング夫人陳述書 香港B級犯罪関係口供書	○	○
2754	1344	第二次世界大戦中ニ於ケル東印度ノ統治及帰属決定ニ関スル経緯	○	○
2755	1348	東印度独立施策ニ関スル件(関係省主務者案)昭和19年9月2日	○	○
2756		東印度独立許容宣明ニ伴フ処置ノ件通牒 昭和19年9月7日	○	○
2757		東印度独立認容宣明ニ伴フ宣伝教化基本要領 昭和19年9月7日	○	○
2758	1349	「東印度独立措置ニ関スル件」外務大臣説明資料 昭和20年7月17日	○	○
2759	1350	東印度独立措置ニ関スル件 昭和20年7月17日	○	○

検 察 側 証 拠 書 類 第 4 7 卷

P.D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
2760		国際検察部文書番号第2760号 映画「フィルム」6巻ノ解説及ビ説明文	○	○	
2765A -1	2022	東京1942年7月8日~1945年7月5日 外務大臣東郷茂徳閣下宛 瑞西公使の書簡 外務省スイス公使官往復文書	○	○	
2765A -2		東京1942年8月1日 外務大臣東郷茂徳閣下宛 瑞西公使の書簡	○	○	

2765A -2		東京1942年8月1日 外務大臣東郷茂徳閣下宛 瑞西公使の書簡	○	○
2765A -3		東京1942年9月15日 東条英機閣下宛 瑞西公使の書簡	○	○
2765A -4		東京1942年12月9日 外務大臣谷正之閣下宛 瑞西公使の書簡	○	○
2765A -5		昭和18年2月9日 瑞西国特命全権公使「カール・ゴルジェ」閣下宛 外務大臣谷正之の返書	○	○
2765A -6		東京1943年2月12日 外務大臣谷正之閣下宛 瑞西公使の書簡	○	○
2765A -7		1944年2月28日東京 東京帝国外務省宛 瑞西公使館の書簡	○	○
2765A -8		東京1944年4月25日 東京帝国外務省宛 瑞西公使館の書簡	○	○
2765A -9		東京1944年6月10日 東京帝国外務省宛 瑞西公使館の書簡	○	○
2765A 10~18		外交政策ニ関スル日本政府及スイス政府ノ通信叢書	○	○
2765A -19		1945年4月23日 東京外務省宛	○	○
2765A -20		居普通第116号口上書 昭和20年5月15日	○	○
2765A -21		1945年7月2日軽井沢 東京帝国外務省宛	○	○
2765A -22		1945年7月5日・軽井沢 東京外務省御中	○	○
2765A (1-22)		証明書 典拠及ビ公正ニ関スル証明 1946年12月10日東京ニ於テ署名 エリック・W・フライシヤー	○	○
2766A	2025	スイス公使より日本外務省宛の書簡及び口上書 往復文書 1942.12.15 ~1945.8.1	○	○
2766A (1-10)	2025	証明書	○	○
2766B	A	スイス公使館より外務大臣宛書簡についての文書概要 2766A1-10の要約	○	○
2767A 1-8	2023	1943.7.5~1944.7.20 外務省スイス公使間往復文書要約	○	○
2767B	2023 A	検事側書証番号2767A1-8の大略	○	○

2、6、7については
和文のみ

2768		A.V.H.ハーテンドープの陳述書	○	○	
2772	2113	仏領印度支那B級及C級犯行 国際検察部仏蘭西課 1947年1月	○	○	certificat 英文ノミ

検 察 側 証 拠 書 類 第 4 8 巻

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
2772A -1	2150	河江ノ虐殺ニ関スル。スリアウン准尉ノ供述書	○	○	
2772A -2	2151	河江ニ於ケル虐殺ノ件ニ関スル「ボタン」看護准尉ノ供述書	○	○	
2772A -3	2124	□供述書 抜萃 ムウレ・アルベール・ルイ	○	○	
2772A -4	2121	□供述書 カゾーラ・フェルナン	○	○	
2772A -5	2122	ルミデュロー(ポーレット)夫人ノ供述(抜萃)	○	○	
2772A -6	2123	□供述書 抜萃 カザジュール・セシル・アギエ・ヴァレンチヌ	○	○	
2772A -7	2152	宣誓□供述書 古川信一	○	○	
2772B -1	2148	□供述書 ボルト・ローラン(植民軍付医師)	○	○	
2772B -2	2149	□供述書 アンリ・ローラン	○	○	
2772C -1	2147	□供述書 黎定吉	○	○	
2772C -2	2153	□供述書 抜萃 徐垂福	○	○	
2772C -3	2154	□供述書 抜萃 黄丁	○	○	
2772D -1	2145	□供述書 抜萃 ルウアン・ジョルジュ・ジェルマン	○	○	
2772D -2	2146	□供述書 クナルデル・アンドレ	○	○	第3 cert 日本文無シ
2772D -3	2125	チャー・ニョック・モン28才ノ殺害 ニュイエン・ヴァン・ニョン及チン・ヴァン・ニエニ対スル殴打及傷害	○	○	
2772D -4	2126	虚構的間諜嫌疑ニヨル拷問「シュレナ」氏ノ逮捕及拷問	○	○	
2772D -5	2127	事件・河内・カザビアジカ氏(不法逮捕及重大ナ暴行)	○	○	
2772D -7	2128	□供述書 バベン・ビエール	○	○	

2772D -8	2129	□供書	デュケネー・フィリップ	○	○
2772D -9	2130	□供書	ヌーリ・ギイ	○	○
2772D -10	2131	□供書 抜萃	タルバ・アンリ・ゴントラン	○	○
2772D -11	2132	□供書	タンギイ・ジョゼフ・ジャン・マリー	○	○
2772D -12	2133	□供書	ベルゴデール・アントアンヌ・マリー	○	○
2772E -1	2116	□供書 抜萃	モンネ・ジャンヌ	○	○
2772E -2	2117		ランソン・セン・ミッシェル農園ニ於ケル印度支那人殺害事件	○	○
2772E -3	2118	□供書 抜萃	アヴィス・ドウニズ・アレクサンドリーヌ	○	○
2772E -4	2119	□供書 抜萃	タビュチュアライ・ツタニ	○	○
2772E -5	2120	□供書 抜萃	ニエン・ティトン	○	○
2772E -6	2156	□供書	ショーメツ・ルイ・ジャンマリー	○	○
2772E -7	2155	証人ノ 供述調書 抜萃	第18軍区一ロッシュフォール衛戍地第3植民兵聯隊	○	○
2772F -1	2134	□供書 抜萃	ロベール・マルセル	○	○
2772G -1	2135	□供書	ポリ・ドミニック	○	○
2772G -2	2136	□供書	リムーヂ・フランソア	○	○
2772G -3	2137	□供書	クラヴ・ジャンヌ夫人	○	○
2772G -4	2139	□供書	ジュヴェン・ルイ	○	○
2772G -5	2138	□供書	1942.4.5 メルラン大尉	○	○
2772I -1	2113	□供書	西貢戦犯局デュリアン・レミー	○	○
2772I -2	2114	□供書	クードウー・ジャン・フランソア	○	○

2772J -1	2115	口供書 ベルトラン夫人	○	○	
2772J -2	2143 A	戦争犯罪前俘虜ヨリ提供サレタル情報 アンツアール・レオン	○	○	
2772J -3		ポーヴァン大尉ノ報告書抜萃 西貢ニ於ケル1945年3月ヨリ8月ニ至ル日本憲兵隊ノ監禁ニ関スル件	○	○	
2772J -4	2140	連邦戦犯局付マソー・マルシャル監督官ヨリ連邦戦犯局長宛書簡	○	○	
2772J -5	2142	抜萃 駐日仏蘭西使節団 東京第935/AM 1946年12月12日 書類送付案内書 仏国検事オネト宛 934/AM付	○	○	
2772K -1	2141	タケックノ死体発掘ニ関スル軍医中尉カルチャーノ報告	○	○	
2773		土肥原賢二訊問抜萃 1946年1月11日 1・2・3頁		○	
2773		土肥原賢二訊問抜萃 1946年2月2日		○	
2774		1942年(昭和17年)12月10日第79帝国議会衆議院決算委員会において軍務局長兼政府委員佐藤賢了少将の口供書よりの抜萃「議事総覧一衆議院委員会議録一第79編第8巻の137頁よりの抜萃」	○	○	証明書付
2774B		議事総覧第79編第8巻衆議院委員会議録よりの抜萃(129頁~130頁) 1942年(昭和17年)12月10日 第79帝国議会衆議院決算委員会における島田国務大臣の演説	○	○	
2775		1943年(昭和18年)2月19日第81帝国議会衆議院決算委員会に於ける佐藤賢了少将の口供書よりの抜萃「議事総覧一衆議院委員会議録一第81編第8巻の82頁よりの抜萃」	○	○	証明書付
2776	1441	暁第16709部隊第9船舶工兵隊一員ノ日記抜萃	○	○	
2777	1444	第3330部隊藤田ノ日記抜萃	○	○	
2779 ※		1938.8.31岡影佐会談記録(広東攻略作戦に関するもの)	○	○	
2781A	2026 A	スイス公使ヨリ帝国外務省宛書簡 1943年6月16日付	○	○	

検察側証拠書類 第49巻

P.D. No.	EX. No.	内 容	英文	和文	備 考
2782	1489	宣誓口供書 鈴木タダカツ	○	○	
2783		AFFIDAVIT ISHIKAWA TATSUZO	○		
2784		ホダ・ハルオノ陳述書 1946.11.7	○	○	
2788		在奉天林総領事ヨリ幣原外務大臣宛電信1258号 昭和6年11月12日	○	○	
2789		電報 在奉天林総領事ヨリ犬養外務大臣宛 昭和6年12月14日	○	○	
2790		1945年10月9日 検察部宛覚書「バタンガス」「ポーアン」ニ於ケル非戦闘員虐殺事件	○	○	
2791	1391	1943年7月フィリッピン・サマール・カルバヨグニ於ケル死刑執行	○	○	
2793	1379	1945年12月14日検察部宛覚書 1945年7月1日フィリッピン・ルソン島「カガヤン・ゴンサガ・タベル」ニ於ケルフィリッピン人非戦闘員ノ虐殺ニ係ル件	○	○	
2794		1945年12月6日検察部宛覚書 比律賓群島「ルソン」島「バタンガス」州「リバ」ニ於ケル非戦闘員千人以上虐殺	○	○	
2795	1459	キャバナッアンニ於ケル犯罪	○	○	
2796		ルソン島バタンガス州タアル附近ニ於ケル日本帝国陸軍ニ依ルフィリッピン人320名殺害及他ニ4名傷害ノ件	○	○	
2797		フィリッピン諸島バタンガス・クエンカの300人の市民虐殺について 1945年2月～3月	○	○	
2798		残虐行為ニ関スル戦犯支部報告	○	○	
2799		1942年夏フィリッピン コレヒドル島ニテ不適當ナル状態ノ下ニ米兵俘虏達ニ対シ加ヘラレタル虐待及其監禁ニツイテ	○	○	

2800	1380	1946年2月9日検察部宛覚書 1945年2月・比律賓呂宋・ラグナ県カラウマン町ノ殺人ノ掠奪及焼毀	○	○
2801	1359	残虐行為ニ関スル戦犯支部報告 1945.6.8	○	○
2802	1363	法務省報告 残虐行為 1945.7.4	○	○
2803	1406	1945年5月14日フィリッピン群島ニ於ケルフィリッピン人市民約89名殺害ニ関スル件	○	○
2804	1416	1945年2月・3月ニ於ケルフィリッピン ネグロス島西部州バコロド駐屯憲兵隊ニヨル附加的拷問及殺害ニ関スル件	○	○
2806	1382	合衆国陸軍総司令部太平洋方面法務局戦争犯罪支部 1945年10月17日「フィリッピン」諸島「マウンテン」州「ナニビル」村焼打及ビ「ティティグ」山上ノ市民殺害ノ件	○	○
2807	1386	フィリッピン群島「セブ」州「カモテス」諸島「ボンソン」島「ダブダブ」ニ於ケル1944年12月29日ノ日本軍ニ依ルフィリッピン人非戦闘員ノ確実ト看做サレタル殺害事件ノ調査ニ関スル戦争犯罪支部ノ報告	○	○
2808	1458	1942年5月～1945年2月ニ至ルフィリッピン諸島ルゾン島マニラノビリビッド監禁所ノ連合軍俘虜ニ対スル犯罪 1945.10.18	○	○
2809	1450	「オードネル」俘虜収容所ニ於テ日本人ニ依リ侵サレタル犯罪 検察部宛 1945.10.17	○	○
2810	1378	太平洋方面米国防軍総司令部同方面法務局戦争犯罪支部覚書 1945.10.16	○	○
2811	1431	「マニラ」爆撃 検察部報告 1945.10.11	○	○
2812	1361	法務省報告 於「マニラ」1945.2.9	○	○
2813	1360	法務省報告 於「マニラ」(1945.2.17)	○	○
2814	1370	合衆国太平洋方面陸軍総司令部現地法務部戦争犯罪課 1945年10月24日覚書 リバ虐殺ノ件	○	○
2815	1437	「フィリッピン」市民ノ殺害及殺害未遂 竝ニ1945年1月・2月及3月中ニ於ケル「フィリッピン」「ルゾン」「マルバー」「バタンガス」州ノ諸部落ニ於テ行ハレタ私有財産ノ乱暴ナル破壊ニツイテ	○	○

2816	1393	1943年12月20日「中央フィリッピン大学」職員タル上名ノアメリカ侵礼教会教師ノ殺害及ビフィリッピン「パナイ」島「カビツ」州「タバツ」附近「ホベヴァレー」収容所ニ於ケル米人6名ノ殺害ニツイテ	○	○
2817	1413	フィリッピン群島ノサンチャゴ要塞ニ於テ行ハレタ残虐行為	○	○
2818		1944年8月ニ於ケルドマンジャグ一般民ノ拷問及殺害	○	○
2820	1415	1944年6月ヨリ1945年3月ニ至ル間ニ比律賓群島「ネグロス・オリエンタル」「ドماغエテ」ニ於ケル日本憲兵隊ノ非戦闘員俘虜ニ対スル虐待並ニ拷問ニツイテ	○	○
2821	1597	1945年3月1日頃比島「バラワン」島ノ「タグブロス」河浜ニ於ケル約90人ノ比島一般民ノ殺害及1945年3月4日比島「バラワン」島「イラワン」ニ於ケル比島一般民3名ノ殺害	○	○
2822	1409	1944年10月1日フィリッピン諸島ニ於けるフィリッピン人殺害、他1名の殺人未遂及「ウマゴス」部落及同所所在病院の焼毀について	○	○
2823	1383	1944年11月16日比島・アブラ・バングエド・アンガド部落ニ於ケル21名ノフィリッピン人ノ機関銃殺竝ニ焼殺ニヨル処刑ニ係ル件	○	○
2824	1410	1945年3月上旬フィリッピン群島「ミンダナオ」島「アグサン」「カルート」ニ於ケルフィリッピン非戦闘員3名殺害	○	○
2825	1411	1944年6月7日フィリッピン「ミンダナオ・コタバト・ラナオービラヤン」ニ於ケル地方人29名ノ殺害ニ係ル件	○	○
2826	1454	1942年7月4日ノ「ケイスレイ」収容所カラフィリッピン・ミンダナオ島「ラナオ」「イリガン」ヘノ俘虜ノ死ノ行進	○	○
2827	1385	1944年3月19日フィリッピン諸島ニ於ケルフィリッピン人処刑ニ係ル件 1946.5.21	○	○
2828	1396	1944年2月12日フィリッピン諸島ニ於ケルフィリッピン人ノ35名殺害及ビ4名殺害未遂ノ件	○	○
2829	1395	1943年8月29日及ビ1944年2月10日・12日フィリッピン諸島ニ於ケルフィリッピン人30名殺害並ニ6名殺害未遂	○	○
2830	1460	1942年5月6日フィリッピン諸島ニ於ケル米国俘虜死亡ノ件	○	○

2831		「バターン」第一・第二 一般病院ニ於ケル犯罪1946.2.19	○	○
2832	1398	1945年4月~10月迄ニ於テ「フィリッピン」群島ニ於ケル殺害ト暴行 1946.4.24	○	○
2833	1389	1944年8月~11月フィリッピン群島ニ於ケル残虐行為ノ件	○	○
2834	1377	合衆国陸軍総司令部 1945年11月14日検察部宛覚書	○	○
2835	1387	1945年8月中ニ於ケルフィリッピン島ルソン島ニ於ケル5人ノ市民殺害ト其後 ノ人肉嗜食	○	○
2836	1394	1943年9月及10月ノ日本軍ノパネィ島討伐	○	○
2837	1461	1945年10月16日セブ市ニ於ケル米人俘虜ノ殺害	○	○
2838	1365	1945年2月9日独逸人倶楽部ノ虐殺	○	○
2839	1373	1945年2月初フィリッピン島に於ける虐殺及び町の一部無用焼却	○	○
2841	1405	ダバオ流刑地並ニダバオ市民拘留所 1946年3月7日	○	○
2843	1399	1942年6月~9月及ビ1944年7月フィリッピン島「ボホール」「タグビラ ラン」郊外ニ於ケル殺人強姦及ビ拷問	○	○
2844		残虐行為ニ関スル戦犯部報告 1945年9月12日付	○	○
2845		元捕虜「バシリョ・ウマギャップ」18才宣誓口述書	○	○
2846		山崎シゲルノ陳述書 1946.11.7	○	○
2847		直接訊問 アポリナリヤ・ドウェ・トウアゾン	○	○
2848		アマデオ・カーベ直接訊問	○	○
2849	1364	直接訊問 検察側ノ証人として	○	○

検察側証拠書類 第50巻

P. D. No.	EX. No.	内 容	英文	和文	備 考
2850	1447	捕虜柳沢一等兵手記(食人肉ニ関シ)	○	○	
2853A (1)		外務省↔スイス公使間往復文書 1942年2月12日		○	
2853A 1-73		証明書 典拠及公正ニ関スル証明		○	
2853A (2)		外務省↔スイス公使間往復文書 1942年2月17日		○	
2853A (3)		外務省↔スイス公使間往復文書 1942年3月3日		○	
2853A (4)		外務省↔スイス公使間往復文書 1942年6月3日		○	
2853A (5)		外務省↔スイス公使間往復文書 1942年6月5日		○	
2853A (6)		外務省↔スイス公使間往復文書 1942年6月11日		○	
2853A (7)		「スイス」公使より外務大臣東郷茂徳に送られた書		○	
2853A (8)		公使↔外務省間往復文書 1942年7月29日		○	
2853A (9)		外務大臣宛書簡 1942年7月30日	○	○	
2853A (10)		瑞西公使宛東郷茂徳外務大臣宛書簡 1942年9月1日	○	○	
2853A (11)		瑞西公使宛東郷茂徳外務大臣宛書簡 1942年9月2日	○	○	
2853A (12)		瑞西公使宛↔東条英機宛書簡 1942年9月3日	○	○	
2853A (13)		瑞西公使宛東条英機宛書簡 1942年9月10日		○	
2853A (14)		「スイス」公使宛谷正之宛書簡 1942年10月7日		○	
2853A (15)		瑞西公使宛谷正之宛書簡 1942年10月24日	○	○	

2853A (35)	帝国外務省宛書簡 1943年8月23日	○ ○
2853A (36)	帝国外務省宛書簡 1943年9月4日	○ ○
2853A (37)	帝国外務省宛書簡 1942年10月22日	○ ○
2853A (38)	東京・帝国外務省宛書簡 1943年12月10日	○ ○
2853A (39)	外務大臣重光葵閣下アテ瑞西公使ヨリノ書簡 1944年2月12日	○ ○
2853A (40)	帝国外務省宛書簡 1944年3月13日	○ ○
2853A (41)	帝国外務省宛書簡 1944年3月23日	○ ○
2853A (42)	帝国外務省鈴木忠政公使アテ書簡 1944年3月30日	○ ○
2853A (43)	外務大臣重光葵アテ スイス公使ヨリノ書簡 1944年5月10日	○ ○
2853A (44)	覚書(占領地域ニ於ケル俘虜収容所訪問)鈴木公使アテ書簡 1944年6月30日	○ ○
2853A (45)	外務大臣重光葵アテ瑞西国公使ヨリノ書簡 1944年7月1日	○ ○
2853A (46)	覚書 1944年7月21日	○ ○
2853A (47)	瑞西国特命全權公使カミーユ・ゴルジュ アテ外務大臣重光葵ヨリノ書簡 昭和19年8月12日	○ ○
2853A (48)	口上書 外務省 昭和19年8月15日	○ ○
2853A (49)	外務大臣重光葵アテ瑞西国公使ヨリノ書簡 1944年8月17日	○ ○
2853A (50)	外務大臣重光葵アテ瑞西国公使ヨリノ書簡 1944年9月12日	○ ○
2853A (51)	覚書 1944年10月28日	○ ○
2853A (52)	東京帝国外務省鈴木九萬公使アテ書簡 1944年11月10日	○ ○
2853A (53)	東京外務省公使アテ テー・スズキ ヨリノ書簡 1944年11月13日	○ ○

2853A
(54)
2853A
(55)
2853A
(56)

東京帝国外務省アテ書簡 1944年11月16日

帝国外務省鈴木大臣アテ書簡 1944年11月17日

瑞西国特命全權公使カミーユ・ゴルジュ アテ外務大臣重光葵ヨリノ書簡 昭和
19年12月8日

2353A
(57)
2353A
(57)

外務大臣重光葵アテ瑞西公使ヨリノ書簡 1944年12月12日

帝国外務省アテ書簡 1945年1月3日

2853A
(59)

帝国外務省アテ書簡 1945年3月16日

2853A
(60)

外務大臣重光葵アテノ書簡 1945年4月7日

2353A
(61)

帝国外務省アテ書簡 1945年4月17日

2853A
(62)

東京外務大臣東郷茂徳アテ瑞西公使ヨリノ書簡

2853A
(63)

1945年4月28日午後 瑞西公使ヨリ鈴木大臣宛發送 備忘録

2353A
(64)

瑞西公使ヨリ外務大臣東郷茂徳閣下ヘノ書簡 1945年5月10日 東京ニテ

2853A
(65)

瑞西公使ヨリ東京・外務大臣東郷茂徳閣下ヘノ書簡 1945年5月26日軽井沢
ニテ

2853A
(66)

瑞西公使ヨリ東京外務大臣東郷茂徳閣下ヘノ書簡 1945年5月30日軽井沢
ニテ

2853A
(67)

瑞西公使ヨリ東京外務大臣東郷茂徳閣下ヘノ書簡 1945年5月30日軽井沢
ニテ

2353A
(68)

外務大臣東郷茂徳ヨリ カミーユ・ゴルジュ閣下ヘノ書簡 昭和20年6月5日

2853A
(69)

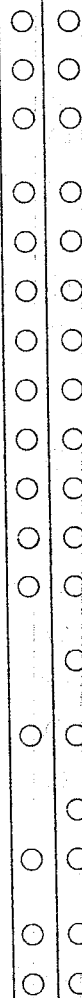
瑞西公使ヨリ東京・外務大臣東郷茂徳閣下ヘノ書簡 1945年6月13日軽井沢
ニテ

2853A
(70)

鈴木九萬公使ヘノ書簡 1945年6月14日

2353A
(71)

東京帝国外務省鈴木九萬閣下ヘノ書簡 1945年7月13日軽井沢ニテ



2853A (72)	軽井沢 1945.7.13	○
2853A (73)	軽井沢 1945.7.31	○
2853B	1942年2月12日(A-1)「スイス」発外務大臣(東郷)宛から1945年7月12日(A-72)「スイス」ヨリ外務省鈴木宛まで	○
2853B (又はA)	「スイス」発外務大臣宛(1942~1944年)外務大臣ヨリ「スイス」宛(1943.4.22、6.24、7.23、1944.8.12、8.15)	○
2854	総力戦研究所刊行物目録	○ ○

検 察 側 証 拠 書 類 第 5 1 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
2855	1457	1944年6月3日ヨリ6月26日迄ノ間ニ於テフィリッピン群島「ミンダナオ」州「ダバオ」流刑地ヨリ同群島「マニラ」間ニ於テ不適當ナル状態ニ行ハレタ俘虜ノ輸送	○	○	
2856	1408	1945年3月フィリッピン諸島・ミンダナオ島「ザンボアング」市「バリオ・サン・ロケイ」及「シチオ・ピッター」ニ於ケル残虐行為	○	○	
2857	1412	1941年12月10日ヨリ1945年4月3日迄ノフィリッピン群島「イロコスル」「ヴィガン」及ソノ附近ニ於ケル残虐行為	○	○	
2858	1428	部外秘 連合軍最高司令部馬尼刺法務部陸軍郵便局500 1946年4月18日 覚書宛先 検察部(報告第287号)題目 1945年9月2日以後ノ比律賓「ボホール」「バリリバン」及「シカツナ」ニ於ケル放火・強姦及強盗	○	○	
2859	1392	1944年12月フィリッピン群島セブ・カモテス諸島ニ於ケル虐殺	○	○	
2861		証明書 馬尼刺ノ軍事委員会ニ於テ日本帝国陸軍大将山下奉文ニ対スル事件ノ審理ノ際「ローサ・カラロンゲ」ガ申立テタル証言ノ記録ノ写本ノ間違ナキコトニ関スル証明	○	○	
2862	1492	「フランシスカ・ベルナルド・デ・ルナ」ハ検察部証人トシテ呼出シラ受ケ。正式宣誓ノ上。訊問セラレ且通訳「ロマス」ヲ介シテ以下ノ通り証言セリ	○	○	

2864	1369	太平洋方面米陸軍総司令部同方面法務局戦争犯罪部 陸軍郵便局500 1945年9月21日 AG000.5(1945年9月21日)JA 件名 戦犯部ヨリノ暴行ニ関スル報告ノ件 報告先「ワシントン」行政区25法務局長	○	○
2865	1419	在太平洋米陸軍総司令部同地区法務局戦争犯罪部 AG000.5(1945年 9月3日)JA 陸軍郵便局500 1945年9月3日 題目 暴虐行為ニ関スル 戦犯部報告 宛先「ワシントン」25番法務局長	○	○
2866	1432	「ドミナドル・サントス」ハ検察部ノ為ニ証人トシテ召喚サレ・先ヅ正式ニ宣誓 ヲシテ訊問ヲ受ケ・左ノ如ク証言シタ	○	○
2867	1433	証明書 本官・即チ連合国最高司令官総司令部法務部主任将校歩兵(T.D)少佐 「T.R.C キング」ハ茲ニ左ノ証明ヲスル	○	○
2868	1430	検察部側ノ証人トシテ招致セラレ通訳者「ゴジュンコ」ヲ通ジ先ヅ正式ニ宣誓シタ ル「ヴィセンテ・アリアス」ハ通訳者ヲ通ジ訊問ヲ受ケ下記ノ如ク証言ヲナセリ	○	○
2869	1455	1945年(昭和20年)8月18日残虐行為ニ関スル戦争犯罪部ノ報告 コロン ビア地区ワシントン25 法務局長宛	○	○
2870	1453	宣誓口供書 ジェームス・エドワード・ストロホーン	○	○
2871	1356	ヘンリー・下島による証明書	○	○
2872	1425	宣誓口供書 セレスティーナ・デ・ラ・ローザ	○	○
2873	1367	「ロザリンダ・アンドイ」ハ検察側ノ証人トシテ喚問サレ正式ニ宣誓シタル上通訳 者「ゴジュンゲ」ヲ通ジ次ノ通り陳述シタ	○	○
2874	1366	「マリアノ・デル・ロザリオ」ハ検察側ノタメノ証人トシテ召喚セラレ・先ヅ正当 ニ宣誓シタル後訊問セラレ・証言セリ	○	○
2876	1427	検察部ニヨリ証人トシテ召喚セラレ・先ヅ「ロダス」通訳ヲ通ジ正式ニ宣誓シテ 「ゴウンコ」通訳立合ノ下ニ「ロダス」通訳ヲ通ジテ訊問ヲ受ケ証言ス	○	○ 直接訊問
2877	1414	ジャスティナ・マンリシック 検察部ノ為ニ証人トシテ出席ヲ求めラレ最初正当ニ 宣誓シタ後通訳「ディーシー」ト通訳査照官ヲ勤ムル通訳「レーダスト」ヲ通ジテ 調査サレ証言シタ	○	○
2879	1449	本間裁判ノ一証言(バタンニ於ケル比島人の死傷)	○	○

2880	1436	フィリッピンノ蔡リタル戦争ニ依ル損失ノ概要 (マニラ国勢調査統計局)	○	○
2881	1435	ジュアン証言 (山下裁判) マニラ 1945.2.14	○	○
2882	1488	B.B.C (英国放送会社) の放送 1944年1月24日	○	○
2883	1384	宣誓口供書 バスコ残虐行為 (1945.9) マリアノ・バヤラス	○	○
2884	1381	宣誓口供書 カラノバ残虐行為 (1945.2.12) ホセ・ハバナ	○	○
2885	1358	戦争犯罪ニ依リ死亡セル犠牲者 (米国軍及フィリッピン軍並ニ市民)	○	○
2886	1423	宣誓口供書 マニラ残虐行為 (1942.1.3) ネナ・アルバン	○	○
2887		綴込番号176連番号50 佐藤賢了ノ訊問書ヨリノ抜萃 1946.4.27 2頁	○	○
2890		1946年3月30日岡敬純ニ対する訊問の抜萃	○	○
2891		東郷茂徳訊問抜萃 1946年3月13日	○	○
2892		1946年3月11日附東郷茂徳訊問の抜萃	○	○

検 察 側 証 拠 書 類 第 5 2 卷

F.D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
2893		東郷茂徳訊問抜萃 1946年3月26日	○	○	
2894		1946年2月22日及28日附東郷茂徳陳述書抜萃	○	○	
2895		1946年2月14日荒木貞夫ノ訊問ヨリノ抜萃	○	○	
2896		1938年3月8日附満洲事変機密費出支の文書	○	○	
2898		松岡洋右訊問よりの抜萃 1946年3月15日	○	○	

2899		1945年5月31日米国國務長官代理より在「ワシントン」「ニュージーランド」公使館の臨時代理公使宛覚書の抜萃	○	○
2900		1932年7月5日付陸滿支払伝票第1355号「満州事変機密費交付」の文書（経理局主計課長宛達案）	○	○
2901	2159	太平洋連合軍最高司令部法務部戦争犯罪支局報告第33号	○	○
2902		1939年7月21日付大川岡明差出東条英機宛の書簡	○	○
2904		平沼騏一郎訊問調書ヨリノ抜萃 1946年1月12日 13頁	○	○
2905		1946年2月4日土肥原賢二ノ訊問書カラノ抜萃	○	○
2906		1946年3月19日白鳥敏夫ノ訊問ヨリノ抜萃	○	○
2907		経理局主計課長宛達案（親展）満洲事件費機密費	○	○
2908		昭和17年10月2日附朝日新聞ヨリノ抜萃「ヒットラー総統から杉山大将らに勲章 今日大使館で伝達式」	○	○
2909		土肥原賢二大将訊問抜萃 1946年2月12日	○	○
2910		木戸侯爵ノ日記カラノ抜萃 1932年	○	○
2911		1946年2月7日木戸幸一ノ訊問ヨリノ抜萃	○	○
2912		1946年2月15日木戸幸一訊問調書抜萃	○	○
2913		1938年6月26日日曜日附 東京「ザ・ジャパン・アドヴァタイザー」紙第3頁抜萃「板垣・持久戦ノ覚悟ヲカ説」軍ハ更ニ今後10年戦遂行ノ準備ヲ要スト陸相述ブ。民衆ノ支持ヲ要望 動員法施行ハ未ダ正式決定ニハ到達セズト語ル	○	○
2922		1934年12月27日付手書及ビ印書セル陸滿秘電第1725号「満州事変機密費支出」の文書	○	○
2925		アメリカ合衆国その他 対 荒木貞夫その他供述書	○	○
2926	3633	His Imperial Majesty's Sign Manual on this 19th day of September, 1914	○	

2927		日本軍編成場所ニ関スル第一復員局ノ報告	○	○	
2942	2033	1946年6月1日付俘虜ノ総索引ノ要覧	○	○	
2943A		林総領事カラ幣原外務大臣宛電信 昭和6年9月19日	○	○	
1					
2943A		在奉天林総領事ヨリ幣原外務大臣宛電報(暗)昭和6年9月21日	○	○	
3					
2944		冒頭陳述 チー・エス・ウールワース大佐 裁判長閣下竝ニ裁判官宛	○	○	
2946		証明書 ワシントン文書局国際検察部第2946号 典拠及び公正に関する証明	○	○	
2947		1940年3月21日木曜日附「ジャパントイムズ&メール」第1頁2頁よりの抜萃	○	○	
2948		北米合衆国及連合国対荒木貞夫及外口供書	○	○	
2949		木戸幸一ノ訊問書ヨリ抜萃 1940年2月7日 251頁	○	○	
2950		石田栄熊供述書	○	○	
2954		第75回帝国議会 衆議院決算委員第1・第2・第3及第4分科連合会会議録(速記)第2回ヨリノ抜萃 1940年(昭和15年)3月17日	○	○	
2955		1931年9月1日付宣統帝ヨリ南大將宛書翰の鑑定書	○	○	
2955A		AFFIDAVIT CHANG Feng-Chu	○	○	
2956		証明書 典拠及公正ニ関スル証明 林馨	○	○	
2957		1938年10月2日・日曜日発行ノ「ジャパン・アドバタイザー」第1頁カラノ抜萃「近衛ハ『光輝アル成功』ヲ祝スル祝電ヲ「ヒットラー」ニ送ッタ」	○	○	
2958		1939年3月17日ノ「ジャパン・アドバタイザー」紙第6頁所載「日本新聞評論」ト題スル新聞記事ヨリノ抜萃「列強排除スベン」	○	○	和文一部のみ
2959		1939年7月7日発行「ジャパン・タイムズアンドメール」第2版第1頁カラノ抜萃「板垣・米内列強ノ妨害ヲ非難 国民ニ支那事変目的ニ対スル決意ヲ弛緩セシメル勿レト警告」	○	○	

2963	2157	ガブリラグ・フェルナン供述書(仏印残虐事件)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
2977		日本現行勲章概略説明	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
2979		謀略計画ニ関スル指示	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
2981	3739	1931.9.5 幣原外相→林奉天総領事(中村事件に付三良人等策動取締の件)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
2992		ソビエト聯邦駐在員取締小松原道太郎殿 外務省託送	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
2993A		Certificate, 1947.4.25 Kawai Hirooki	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	地図付
2993B		証明書 村尾成允 中華民国大地図及満洲国図付	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
2993C	3856	中華民国大地図 発行年昭和7年4月	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
2993D	A	CERTIFICATE 1947.4.25 Annexed Mop to Manchurian History Drawn up by Tokyo-Asahi Hiroshi Kawai	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	地図付
2999D		「東京朝日新聞縮刷版」昭和15年7月号、7月17日の記事よりの抜萃 米内・有田外交の清算	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
3000		正誤表(検事局文書番号3000号(10Bノ1、10Bノ2、10Bノ3)に関するもの)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
3008	3832	第75回帝国議会衆議院予算委員会議録 昭和15年3月22日	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
3022A		1944.9.28 付毎日ヨリノ抜萃重光外相祝電	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	証明書付
3022B		1944.9.28 付毎日新聞ヨリノ抜萃重光外相祝電 伊外相宛	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
3022C		1944.9.28 付毎日新聞ヨリノ抜萃三国外相ノ交歓放送	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	証明書付
3024A		ハルハ・ノモンハン国境監視所附近	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
3024B		吉林省総督「ジェンレイ」ニヨッテ作製サレタ地図ニ対スル説明書	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
3024D		宣誓口供書 北田宏彦	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
3024E		宣誓口供書 服部四郎	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	

検察側証拠書類 第53巻

P. D. No	EX. No	内 容	英文	和文	備 考
3028		重光葵ノ演説 帝国政府ノ外交方針ニツイテ	○	○	
3029		昭和6.3.29 対「ソヴェト」聯邦帝国国防ニ関スル雜感		○	
3030B	3833	予算委員会議録第4回 昭和15年2月7日	○	○	
3030N	3382	予算委員第一分科会議録第2回 昭和15年2月17日	○	○	
3030Q※		第一類第一号予算委員会議録第25回 1940年3月22日	○	○	
3036		日本海及オホツク海航路略図	○	○	
3048		日露戦争本紀 1.開戦の準備	○	○	
3087	3852	宣誓口供書 神田正種	○	○	
3090A※	3264	1938.1.11御前会議記録	○	○	
3090C※		内大臣湯浅倉平閣下 昭和13年11月30日御前会議次第	○	○	
3090D※		第4回御前会議に関する記録 侍従洩記録写	○	○	
3091		最後マデ戦フ者ト共ニ「シベリヤ」ニテ 第5章 日本ノヤリ方ト聯合國ノ極東政策	○	○	
3098		「米国ノシベリアニ於ケル冒險」61頁~62頁	○	○	証明書付
3099		昭和15年6月9日申合附属書	○	○	地図・証明書付
3104 ※ (2)	3458	1941.8.9日米交渉第1巻(識別証拠)1941.7.11陸軍省軍務局→外務省(北方問題に対する応酬資料として野村大使宛訓電案)	○	○	
3106 ※ (30)	3456	No 16 out of 20 Copies Basic Conditions for Settlement of Sino-Japanese Peace	○		

3116C	3836	昭和16年11月12日東郷大臣発 北大・南大・満大・上海・香港・河内特派大使・パタビア・泰大・桑港宛電報 日米交渉現段階ニ関スル件	○	○
3116G※	3837	昭和16年11月25日東郷大臣発 英米・河内大使・泰・蘇・独・伊・「パタビア」豪洲・北大・満大・南京・上海・香港宛電報 日米交渉現段階ニ関スル件 (其ノ二)	○	○
3121※ (2)A	3835	東郷大臣「オット」独大使会談録 10月27日於外務省		○
3122	3647	「ルーズベルト」大統領の親電に関する経緯	○	○
3134A		今後における対米交渉措置要領	○	○
3134B※		OUTLINE OF FUTDRE DIPLOMATIC MEASURES VIS A VIS THE UNITED STATES (YAMAMOTO Private Draft)	○	○
3145	3858	訊問調書 フォン・ペテルスドルフ・フリッツ 1947年5月12日	○	○
3146A	3841	第八潜水戦隊大東亜戦争定期功績概見表抜萃		○
3147C※		Matters decided upon as the opinion of the Army in the beginning of July 1933	○	
3150		西園寺、原田日記(257回)よりの抜萃 1937年12月3日	○	○

検 察 側 証 拠 書 類 第 5 4 巻

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
3151	3857	訊問調書 1948年1月7日 ブイコフ・アフイナゲン・エラストウィチ	○	○	
3152		電報「イルクーツク」「ゴンチャロフ」宛 尼港赤軍管区司令部ヨリ 1920年3月9日	○	○	
3153		黒竜戦線参加部隊軍事行動誌抜萃(1947年6月16日第390号)1920年8月6日尼港事件	○	○	
3155		電報第98号 1920年3月4日「ニコラエフスク」発	○	○	

3157	3862	宣誓口述書 サムブニマ	○	○	
	A				
3164	3859	1935年ヨリ1945年8月ニ至ル「トウルン・ウルヂ・オボ」ヨリ「シル・オボ」ニ至ル国境地区ニ於ケル事件及ビ日本武装兵力並ニ日本間諜ノ蒙古人民共和国領土内ヘノ侵入ニ関スル蒙古人民共和国内務省国境警備隊管理局覚書抜萃	○	○	
	A				
3165		「ベイセ」並ニ事務官ノ「ケレルン・ワラスチュルガン」議長「ワン・トクトホッロ」其ノ他ニ宛テタ書簡	○	○	証明書
3167	※	Plan Regarding Future Steps in Negotiations between Japan and the United States Peneil Note 18 Nou.1941 From Muto, Chief of Militany Affairs Buseau YAMAMOTO	○	○	
3171A	※	Excerpt from the 5 Jan.1939 issue of the CHUGAI SHIYOGYO SHIMPO (T.N.a Tokyo.daily.newspaper)	○	○	
B					
3176		セシル・レイマンド・ファレイ供述書	○	○	
3198A	3342	The Japan Times & Mail Friday, February 18, 1938	○	○	
	A				
3193B	※	EXCERPT FROM THE JAPAN TIMES AND MAIL Friday, February 18, 1938	○	○	
3200		昭和16年12月兵団長会同席上 軍参謀長 演要旨	○	○	
3201		昭和16年4月兵団長会同席上軍参謀長 演要旨	○	○	
3203	3376	国東憲兵隊編制改正ニ関スル意見ノ件上申 昭和6年7月25日	○	○	
3204	3377	対滿蒙策現行過度的制度案ニ関スル書類送付ノ件	○	○	
3211	※	3748 「メリル」少佐覚書(1941.10.8武藤との会見記事)	○	○	
3217A	※	読売新聞昭和15年7月17日よりの抜萃 陸相首相に重大意思表示 政府愈々全面的協力行動へ、新政治体制運動具体化、今日或いは再度閣議か	○	○	
3217B	※	夕刊、読売新聞昭和15年7月28日よりの抜萃 国防外交国策確立 連絡会議完全一致、渾然ノ統帥政治の調和、近衛内閣牢固たる発足	○	○	
3218	3365	附表第一 陸軍次官ニ委任事項	○	○	

3 2 2 9 ※	3 3 9 2	証明書 联合国対日理事会 東京			
3 2 3 0 ※	3 7 3 7 A	1938.2.16 貴族院速記録(識別証拠)の抜萃(南京事件に関する大蔵男の質問と木戸文相の答弁、対支外交方針に関する大蔵男の質問と広田外相の答弁)	○	○	
3 2 3 9 A	3 5 9 9	"Age of War" by Toshio SHIRATORI	○		
3 2 3 9 B	3 5 9 6	AGE OF WAR by Tosio SHIRATORI	○		
3 2 3 9 C	3 5 9 6	"AGE OF WAR" by Tosio	○		
3 2 3 9 F	3 5 9 8	「世界戦争と新世界」世界新分野の確定	○	○	
3 2 4 9 ※		朝日新聞昭和16年3月26日号 陸海軍共同の改組案 両軍務局長一両日中に提出せん 翼賛会弱体化絶対反対	○	○	
3 2 5 0 ※		朝日新聞昭和16年3月28日 陸海軍共同の改組案 政府案と趣旨合致 両軍務局長から提出	○	○	
3 2 5 7	3 4 6 0 A	「昭和16年7月・8月 式大日記 陸軍省」よりの抜萃	○	○	
3 2 5 8		陸軍省受領老才691号 昭17政発第44号 陸軍次官宛 興亜院総務長官	○	○	
3 2 6 2 ※		軍務一機密第784号 昭和17年10月19日 海軍省軍務局長から陸軍省軍務局長殿 陸軍省俘虜に関する件 照会	○	○	
3 2 6 7 ※		陸軍俘虜管理部長 軍務一機密第932号 昭和18年11月30日 海軍省軍務局長 陸軍省軍務局長殿 陸軍俘虜管理部長殿 俘虜引渡に関する件 照会	○	○	
3 2 6 8 A	3 5 1 6 A	「文芸春秋」1940年1月号よりの抜萃 独逸外交の理念 大島浩	○	○	
3 2 7 1	3 5 1 5	Explanations concerning War Ministry telegram No. 236	○		
3 2 8 8 ※	3 5 6 0	朝日新聞記事(嶋田大将支那ヨリ帰還参内ニ関スルモノ)及ビ同証明書 昭和16年(1941年)9月16日附記事	○	○	
3 2 9 1 A ※		嶋田海相、東条陸相報告 貴衆両院の本会議 4月以後の陸海両軍の作戦の経過について	○	○	
3 2 9 4 ※	3 8 5 5	ソ聯軍参謀本部軍事地形測量局長ノ調査書及附属地図(ノモハン地区ノ国境線)	○	○	各写真2部

3300	※		毎日新聞記事昭和16年9月16日 国家総力戦の実を發揮せよ	○	○	
3327	※		島田海相談 目前の戦勝に酔うな 1942年7月7日	○	○	
3331	※	3397	ラジオ講演・講座よりの抜萃 内外時局を語る 白鳥敏夫	○	○	
3332	※		アメリカ合衆国・フランス共和国・大英及北部アイルランド聯合王国及ソヴェット 社会主義共和国聯邦対ハーマン・ウィルヘルム・ゲーリング其ノ他被告ニ関シ 1946年・ローレンス判事ヲ裁判長トシ 独逸ニュールンベルグニ開廷セル国際 軍事裁判所ノ公式写本	○	○	
3333	※	3831	米内光政ニ対スル訊問抜萃 1946年5月15日	○	○	P・1欠落
		A				
3334	※	3651	満洲国ニ依ル東支鉄道買収ノ基本的原則ニ関スル覚書		○	
3334	A		1934年8月7日附東支鉄道本社ニ対スル管理局長ノ報告	○	○	
3334	B	3648	Statement made by Karakhan to the Japanese Ambassador Ota on 16 April, 1933	○		
3334	C		在「ハルビン」ソ聯総領事館事務代理発駐北滿外交部特派交渉員宛1934年8月 21日附書信 8月13日乃至21日警察官憲拘禁ソ聯人38人名表	○	○	
3334	D		在「ハルビン」ソ連総領事館事務代理発・駐北滿外交部特派交渉員宛 1934年 9月5日・9月4日迄ニ拘禁サレタルソ連人16名追加入名表	○	○	
3334	E		在東京ソ連邦全権代表発広田外務大臣宛 1934年8月22日附書信	○	○	
3334	F		「在ハルビン」ソ聯総領事発駐北滿外交部特派員臨時代理宛 1934年4月19 日附書信・4月14日現在拘禁中ノソ聯人民50人名表	○	○	
3334	G		「在ハルビン」ソヴェット社会主義共和国聯邦総領事館ノ1943年11月26日 附在滿「ソ」聯国人ニ対スル不法逮捕及ビ暴力行為ニ対スル抗議ノ書類	○	○	
3334	H		在「ハルビン」ソ聯邦総領事館事務代理発駐北滿外交部特派交渉員宛 1934年 8月28日附書信・8月22日乃至27日 警察官憲拘禁ノソ聯人22人名表	○	○	
3334	I		覚書 1934年9月29日附被拘禁ソ聯邦人民ニ関スル件 1934年9月29 日現在総領事館算定ニ係ル被拘禁ソ聯邦人民170人名表	○	○	

3334 J	3649	The Gist of the Statement of M.M. Litvinov, People's Commissar for Foreign Affairs, madeto Mr. Ota, Japanese Ambassador, on May 2, 1933	○	
3334 K		在「ハルビン」ノ連総領事館事務代理発駐北滿外交部特派交渉員代理下村氏宛 1934年9月4日附書信	○	○

検 察 側 証 拠 書 類 第 5 5 卷

P. D. No	EX. No	内 容	英 文	和 文	備 考
3335		「フョードル・グリゴリエヴィチ・ペレグード・パガレーリスキー」ノ日本政府ニ 關スル証拠保証ニ關スル申請	○	○	
3336		証明書 吉田英三 1948年1月7日	○	○	
3337 ※	3845	1942.11.14 決裁「在敵国邦人及我方在住敵国人關係事務部設置ニ關ス ル件」	○	○	
3339	3838	宣誓口供書 アルバート・B・レイ	○	○	
3340 ※	3838	日米保有艦艇一覧表(米側作成)	○	○	
3341 ※	3838	日米建造中艦艇一覧表(米側作成)	○	○	
3342 ※	3838	太平洋ニ於ケル日米艦艇比較(米側作成)	○	○	
3344	3839	日本空母作戦史	○	○	
3345 ※	3840	宣誓口供書 エドウィン・T・レイトン 南洋委任統治諸島ニ關スル(弁)ノ立証ノ反駁	○	○	
3346 ※		大東亜大使會議ヨリノ抜萃 東郷外務大臣挨拶要旨	○	○	
3347 ※	3842	宣誓口供書 中原次郎 印度洋ニ於ケル「イ」八潜ノ残虐行為	○	○	
3349 A	3834	アメリカ合衆国対沢田茂其ノ他ノ裁判記録ノ抜萃	○	○	
3349 B	3834	亜米利加合衆国対沢田茂其他裁判記録ヨリノ抜萃	○	○	

3351	※	3838	宣誓口供書 ハーバート・M・ハート	○	○
3352	A※		朝日新聞 1940年8月29日より	○	○
3353		2854	訊問調書 1948年1月5日東京 ズミルノフ	○	○
3354	※	3824	近衛/KONOE/公ノ手記抜萃(真珠湾調査ノ査問ニ関スル共同委員会書証第20部第3991頁 即チ法廷証第2850号ハ単ニ識別番号標記ノ為)	○	○
3355	A※	3825	大島浩將軍訊問抜萃 日時 1946年2月1日 10時-12時5分, 13時30分-16時10分	○	○
3355	B※	3825	大島浩將軍訊問抜萃 日時 1946年午後2時-4時10分	○	○
3355	C※	3825	大島浩將軍訊問調書抜萃 日時 1946年2月15日午後2時-4時15分	○	○
3355	D※	3825	大島浩將軍訊問抜萃 日時1946年3月7日13時30分-15時	○	○
3357	A※	3750	近衛泰子口述書(原田日記の真実性の証明)	○	○
3357	B※	3950	近衛泰子口述書(原田日記に対する東条・木戸証言の反駁)	○	○
3358	※	3749	村山富治口述書(原田氏の健康状態)	○	○
3359			被告 セミヨノフ・グリゴリー・ミハイロウイチ ロドザエフスキー・コンスタンチン ウラヂーミロウイチ バクシェーエフ・アレクセイ・プロクローウイチ その他5名の判決	○	○
3360	※	3847	電報 1940年8月8日17時30分発 ヘンケ ヨリ ドイツ外務省宛	○	○
3361	※	3850	電報 1941年3月2日19時15分フシュル発 リンテレノ ヨリ ベルリン大臣官房宛	○	○
3362	※		電報 1941年7月16日12時45分ウエストファーレン発 リッペントロップ ヨリ 東京ディプロマゲルマ宛	○	○
3363	※	3849	電報 1941年3月1日パリ発 シュライエル発独逸外務大臣宛	○	○
3364	※	3848	電報 1941年2月23日ハインリヒ発 リンテレノ ヨリ ドイツ外務大臣へ	○	○
3365		3863	口供書 熊谷トシオ 1948年1月21日	○	○

3367	3865	拓務発「グーガル」宛「イアンソン」ニ於ケル事件ノ回顧 1940年10月11日	○	○
3510A -15 4002		別紙企画院総裁上申 对南方発展施策ニ関スル件 右閣議ニ供ス	○	○
4003	609	1941年(昭和16年)12月14日13時-14時 独逸外務大臣同席ニテ行ハレタル日本大使大島將軍ニ対スル總統ノ歓迎会	○	○
4005	573	日本トノ協力ニ関スル第24号訓令(1941.3.5)	○	○
4005B	578	1941年3月27日ベルリンニ於テドイツ外務大臣ト日本外務大臣松岡トノ間ニ行ハレタル会談ニ関スル記録	○	○
4011	783	オット大使及大島大使列席ノ下ニ「ベルリン」ニ於テ1941年3月27日ドイツ外務大臣ト日本外務大臣松岡トノ間ニ行ハレタル会談ニ関スル記録	○	○
4012	785	1940年9月22日「パラチオヴニ・ネチア」ニ於テチアノ伯及フォンマツケンゼン大使立会ニテナサレタ「ドイツ」外務大臣ト「ドゥッチェ」トノ対談ノ記録(抜萃)	○	○
4013	630	宣誓供述書 W.P.カミング	○	○
	574	日本ノ「シンガポール」攻撃ヲ速カナラシムル件(1941.3.18海軍最高司令ヨリ総領宛)	○	○

検 察 側 証 拠 書 類 第 5 6 卷

P.D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
4017A		反国際共産主義協定ノ効力期間延長ニ関スル議定書 1941年11月25日伯林ニ於テ作成		○	
4017C		伯林 日本大使館 武者小路子爵 有田外務大臣閣下宛書簡 1936年10月23日	○	○	
4018		国家の最高機密		○	
4022	579	1941年3月28日独逸外務大臣及日本外務大臣松岡ノ会談ニ関スル覚書	○	○	

4024A	598	伯林ニ於ケル三国協定経済分科委員会事業計画	ベルリン	1941年4月28日	○	○			
4025	3815	伯林		1941年7月12日		○			
4025A	520	1940年6月19日	オット発	独逸国書記局宛	日本の印度に於ける自由行動	○	○		
4025B	521	印度支那ニ関スル6月19日附	第594	東京電報覚書		○	○		
4025C	523	1940年6月24日	オット発	武藤章の大使館附武官に対する談話等		○	○		
4025D	800	1941年8月1日付	オットからの電報			○	○		
4025E (1)		1940年8月2日付	内閣書記官長宛	オットの電報		○	○		
4025E (2)	625	独逸休戦委員会「ヴェースバーデン」	電話ニ依ル報告	1940年9月20日 23時		○	○		
4025E (3)		印度支那に関して1941年1月18日	ヴァイツサッカーの覚書			○	○		
4025E (5)	629	ベルリン1941年1月23日	オット大使ト日本外務次官トノ会談ニツイテ。 ヴァイツ・セッカー	供述書(W.P.カミング)		○	○		
4025E (7)	646	電報(秘密暗号手)パリ1941年7月21日16時20分	着	1941年7月 21日17時20分	41年7月19日附貴電第3712号電報ニ関連シテW.P. カミングの供述書	○	○		
4025E (8)		電報	バンコック	1941年(昭和16年)9月1日12時	着	同9月1日18 時30分	ノイマン(W.P.カミング供述書)	○	○
4025E (10)	653	1941.10.12「ノイマン」(在「サイゴン」)発	独本国宛電報(仏印ニ 於ケル汎「アジア」	聯盟ノ活動ヲ示ス文書)	W.P.カミング	ノ供述書付	○	○	
4026A	515	1940年5月10日	スタマー・オット発	独逸国外務大臣宛	電	○	○		
4026B	517	1940年リップントロップ発	オット宛	有田声明に就いて		○	○		
4026C	518	電報	東京	1940(昭15)5.22	47.4号(5月20日ノ412号電報 (RAM)返電)	オット	○	○	

4026D	519	1940年5月23日 オット発 独逸ガ蘭印問題ニ就イテ無関心デアル宣言	○	○
4027A	516	1940年6月12日 オット発 日米関係	○	○
4027B	522	覚書 エル・アール・クノル 1940年6月20日 独日会談に就いて	○	○
4028A	530	1940年7月1日 オット発 有田ノラジオ演説ニ関シ	○	○
4028B	531	1940年7月3日 オット発 日本の枢軸国接近	○	○
4028C	533	1940年7月17日 オット発 参謀本部内陸軍武官部宛	○	○
4028D	535	1940年7月18日 オット発 松岡洋右の外相就任	○	○
4028E	536	東京1940年7月20日5時発 オットからの電報	○	○
4028F	537	1940年7月22日 ヴェルマン発 荻窪会談に就いて	○	○
4028G	546	電報(オットより)東京1940年(昭和15年)7月31日11時50分 着1940年(昭和15年)7月31日23時 7月30日付第746号電報補遺	○	○
4029	544	1940年8月7日 独逸国外務大臣宛 第二次近衛内閣の外交方針	○	○
4029A	542	1940年8月1日 ヴァイツゼッカーよりリップントロップへ 第二次近衛内閣 の外交方針	○	○
4029B	543	1940年8月2日 ヴァイツゼッカー発 リップントロップ宛 昨日ノ私ト日本 大使トノ会談ノ覚書ニ更ニ追加	○	○
4029C	538	1940年8月2日 オット発 大橋八郎の外務次官就任	○	○
4029E	547	1940年8月15日 オット発 日本の印度支那に対する要求	○	○
4029F	548	電報 東京1940(昭15)8.23発 1940(昭15)8.23着 第853号(外交人事刷新ノ件)	○	○
4030	514	1940年3月23日 オット発 日本ト英米間ノ関係ノ或程度ノ硬化	○	○
4030B	590	ホテル・カイザーホフニ於ケル日独文化委員会開会及ビ茶ノ接待会ノプログラム 1940(昭15)4.3	○	○

4031A	592	ベルリン 1938年6月29日私ノ許ニ通告シタ上デ日本大使東郷ハ本日午後1時30分私ヲ訪問シタ。リッベントロップ	○	○
4031B	591	ベルリン 1938年6月29日 Pro Memoria覚書	○	○
4031C	593	ウィールの覚書 1938年7月6日ノ日本大使トノ会談ニ就テ	○	○
4032B	562	1941年1月31日 オット発 独逸外務大臣宛 日本の行動の見込み・シンガポール攻撃等	○	○
4032B		電報(秘密暗号機ニヨル)1941年1月27日05分東京発 1941年1月27日20分着 1月27日附123号 オット発		○
4033A	561	1940年11月29日 ヴァインザッカー書簡	○	○
4033B	587	1941年6月28日 リッベントロップの電報	○	○
4033D	795	1941年6月23日付 オットの電報	○	○
4033F		1939年10月24日付 オットからの電報	○	○
4033G	3821	1942年4月21日「ワイスゼッカー」覚書 日本ノ対ソ攻撃ニ関聯スル大島「ワ」会談		○

検 察 側 証 拠 書 類 第 5 7 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
4034A	507	1939年(昭和14年)9月9日 東京独逸大使館宛暗号電報第335号 リッベントロップ署名	○	○	
4034B	509	1939年9月20日18時 日本陸軍大将寺内伯爵「ソボット」ニ於テ独外相ニ 謁見。次イデ18時30分総統ニ謁見	○	○	
4034C	510	1939.9.25寺内大将ト「リ」外相「ヒ」総統トノ会談ニ関スル「クノール」 覚書(日本ハ支那事変アル程度我慢シ南方ニノビル方宣シカラズヤト「ソ」質問ニ 寺内大将肯定ス)	○	○	

4034D	614	1939年6月5日付 内閣書記官長宛オット電報	○	○
4034F※	3827	電報 1939年9月9日 マッケンゼンから独外務省	○	○
4035	502	ベルリン・ローマ・東京間ノ防守同盟締結ニツイテノ暗号電報 1939年4月26日	○	○
4035 ※		電報 (秘密暗号法) 東京1939年4月30日 独逸外務大臣宛 (極秘)	○	○
4037	564	1941年2月6日 オット発 日本の泰・印度支那間の国境紛争解決	○	○
4037B	569	1941年2月10日 リッペントロップ宛 松岡外相訪独等に就いて	○	○
4037C	565	1941年2月17日 オット発 独大臣親展 松岡外相訪独に於いて	○	○
4037D	570	ベルリン1941年2月22日 ドイツ外務大臣宛電信	○	○
4037E	571	1941年2月28日 リッペントロップ発 大島日本大使との会談	○	○
4037F	631	電報 1941年2月21日東京発オット発 同年2月9日東京発オット発 同年2月17日ベルリン ワイサッカ 同年2月19日東京 オット	○	○
4037G	572	電報 1.東京独大使館 2.暗号局宛 フッシュル 1941年2月27日	○	○
4038A	566	泰仏印紛争調停ニ付独逸ノ支援感謝ノ件 (1941.3.12ボルツエ電報)	○	○
4038B	576	オット大使 独逸外務大臣宛 日本ノ情勢ニ関スル手記	○	○
4038C	575	松岡ノ訪問ニ関スル覚書ヘノ註記 (1941.3.24 ワイツセッカー)	○	○
4038D	1304	日本外務大臣トノ会談ニ対スル日独経済問題ニ関シテノ覚書 伯林1941年 (昭16年) 3月21日	○	○
4039	329	ドイツ大使館 漢口1938年1月28日発 (第58号) 同2月16日発 (第113号)		○
4040C※	3826	オットー大使から独外務省への電報 1938年11月1日	○	○
4041	594	ベルリン1938年7月28日ウイルの覚書	○	○

4041 ※	3811	1938年12月21日「ヴィール」通商局長覚書(中国ニ於ケル独ノ優先的取扱ニ関スル大島「ヴィール」会談)	○
4041		ベルリン 1938年7月28日覚書	○
4041B	595	支那ノ日本占領地区ニ於ケル独逸経済権益ノ状況ニ関スル覚書 ベルリン1938年7月24日	○ ○
4042A	563	1940年11月21日 オットからの電報	○ ○
4042B	500	1940年12月13日 オットーからの電報	○ ○
4042C -1	567	松岡外相ベルリン・ローマ・モスコー訪問計画ノ件(1940・12・19オット電報)	○ ○
4042D	568	松岡外相ノベルリン訪問ノ件(1940・12・31 オット電報ノ件)	○ ○
4042E -1	597	覚書 ベルリン1940年10月8日 ヴィール	○ ○
4043 ※	3746	1939・5・27 オット大使→独外務省(軍事同盟ニ対する陸軍の態度其他)	○ ○
4043A		電報 東京 1939年2月18日14時10分第70号 国務大臣宛	○ ○
4043C	504	電報 1939年(昭和14年)5月6日付187号内閣書記官長宛 4日付電184号ニ対スル返電	○ ○
4043B D-1	503	電報 東京発1939年5月4日附第184号 国務大臣親展	○ ○
4043E -1	780	1939年3月23日付オットーより内閣書記官長宛書簡	○ ○
4043F	594	オットー大使(東京)ヨリ1939年3月15日ヴィール局長へ宛テタル手紙ノ抜萃	○ ○
4043G		東京5月8日 同盟電報ハ板垣・小磯ノ会见ヲ伝ヘテイル W.P.カミングノ口供書	○ ○
4043H		伯林 1939年5月28日発 東京独逸大使館宛第174号 暗号電報 大使宛秘親展	○ ○
4045	508	1939・10・27「ヴェールマン」ヨリ「オット」大使宛電報(「リ」外相ハ大島大使ノ支援ヲ要求ス)	○ ○

4046		1941.7.7 独逸外務省 3日附電報第965の反電 第1151号	○	○
4047		電報 第京 1939年9月8日15時25分 書記官長宛 オット	○	○
4047C		1939年8月11日オットーから大臣宛至急電報 1939年8月18日オットーから外務次官宛電報 1939年9月6日グロノオマッキー オットーから陸軍統帥部 空軍統帥部宛電報	○	○
4047E		極秘電報(秘密暗号法)東京 1939年8月3日20時30分 8月3日附第335号國務秘書官宛 秘 7月29日附電報第331号の続き	○	○
4047F	3827	ワイゼッカーから独外務省への電報 1939年9月4日第465号	○	○
4050-1	506	ベルリン1939年9月18日ST.S第734号 ヴァイツゼッカー署名 日本大使との会見の模様	○	○
4050B-1	782	1939年8月26日付外務省宛 ベルリン日本大使館の書簡	○	○
4051	511	電報 1940年(昭和15年)2月23日付第143号内閣書記官長宛 スタマ-とオットより	○	○

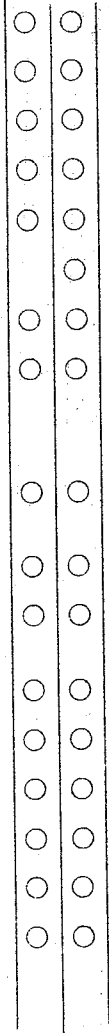
検 察 側 証 拠 書 類 第 5 8 卷

P.D. No.	EX. No.	内 容	英文	和文	備 考
4052A	830	1941年7月25日付 クレッチュマー、オットからの電報	○	○	
4052C-2	1114	電報 1941.7.15「オットー」発 大至急	○	○	
4052-21	645	1941.7.18「ショール」(在バンコック)ヨリ独本国宛電報(日本ハ「シベリヤ」依戦準備ノ為ニ仏印防衛ヲ策ス)W.P.カミング供述書付		○	
4052E	644	1941.7.20「オット」大使ヨリ「リップントロップ」外相宛電報(日本内閣更送ニヨリ仏印ヘノ行動ニハ変化ナキコトヲ報告セルモノ)W.P.カミングノ供述書付	○	○	
4052F	1118	オット発独外相宛電報 1941年7月20日 政変ニ関スルモノ	○	○	

4052G -39	1121	オットより電報 昭和16年7月24日	○	○	
4052H -5		修正セル復誦 電報東京1941.7.15 12時30分	○	○	
4052I -26		1941年7月20日オット発 松岡洋右外務大臣更送	○	○	
4052J -21		電報 盤谷 1941.7.18 14時15分W.P.カミングの供述書	○	○	
4053B※		電報1941年8月18日 オット大使から独外務省への	○	○	
4054A	3818 A	オットより独外務省への電報 東京 1942年1月23日10時0分発信 同24日15時10分受信	○	○	
4054B	3818 B	1942年1月24日附 日独ノ経済交渉ニ関スル「ヴィール」ノ覚書	○	○	
4056A	584	電報 東京発1941年4月14日午前11時5分 ボルチェ	○	○	
4058A	1172	1941.11.8 ベルリン→ワシントン ローマ(東郷は来栖に日本の対米強 硬態度を指令す)	○	○	
4059A	1068	電報 1941.5.6 オット→リップントロップ(日本ノ独米戦 独「ソ」戦 ニ対スル態度ニ関スル松岡ノ言明)	○	○	供述書のみ英文なし
4060A		オットより独逸国外務大臣宛電報 1941.5.18 東京	○	○	
4061A	586	伯林1941年6月10日 外務大臣閣下宛電報 ヴェールマン	○	○	供述書英文なし
4061E	1086	オットより電報 昭和16年6月11日 東京	○	○	
4062	3829	電報 リップントロップ→オットー 1941年7月3日	○	○	
4062A	636	1941.7.3「オット」大使ヨリ「リップントロップ」外相宛電報(松岡曰ク 英米へ圧力強化ノ為ニ仏印ニ拠点獲得ニ決定ス)W.P.カミング供述書付	○	○	
4062B	638	1941.7.4「オット」大使発電 宛名ナン(日本ノ「サイゴン」占領近キニ アリ.夫以上ノ南進ニツキテハ不明)W.P.カミング供述書付	○	○	
4062C	799	1941年7月12日付 陸海軍司令部宛オット発ノ電報	○	○	
4062E -8	796	1941年7月3日付ドイツ外務大臣宛オットノ電報	○	○	

4062F -1	797	1941年7月1日付マッケンゼンの電報
4062G	792	1941年7月5日付リップントロップよりの電報
4062H -13	798	1941年7月6日付クラマーツの覚書
4062I -13		電報 1941・7・8 1時 東京 オットより独逸外務大臣宛電報
4062J	1111	ヴァイスゼッカーより独逸国外務大臣宛テレタイプ 昭和16年7月3日
4062K	1113	オットより独逸外務大臣宛電報 昭和16年7月7日
4065A		1941年10月4日付オットー大使からの電報
4065B	654A	1941・10・1在「バリ」独逸戦経済代表「ヘンメン」独本国宛電報（仏印ノ「ゴム」ニ関スル中間報告 1941・10・6「アベツ」（在「バリ」ヨリ独本国宛電報 1941・10・15「オット」大使ヨリ独本国宛電報（日仏印協定ニ関スル日本ノ解釈・日仏印出先軍ニ関スル大使ノ見解）
4066A (14)	3823 A	1941年10月18日附「エルドマンズドルフ」発「フォン・リントレン」宛電報ヨリノ抜萃
4070-1	602	電信 1941年11月23日附第2526号 独逸国外務大臣宛 至急報
4070B	601	1941年11月21日「ウエストファリヤ」ニテ東京独逸大使館宛電報 リッベントロップ
4075A -9	3812	「ヴィール」ヨリ在京独大使への電報
4076A		電報 東京1942年1月29日 W.P.カミング供述書
4076B		電報（秘密暗号法）東京 1942年5月17日
4080A -4	801A	1941年9月4日付オット発電報
4081C	1096	リップントロップ発電報 昭和16年6月28日
4081D	1097	オット発電報 昭和16年6月28日

供述書ノミ英文アリ



4081E	635	1941.6.21「オット」大使ヨリ「リップントロップ」外相宛電報(松岡日ク日本ハ大島ヲ通シ独政府ニ対シ日本ガ仏印ニ海軍基地ヲ必要トスル旨ノ希望ヲ伝達セシメタリ)W.P.カミングノ供述書付	○	
4091A		1943年独逸海軍ニ関スル事項ニ就イテノ總統會議 1943.2.26 在「ウインザ」總統本部ニ於ケル總統ト海軍長官トノ會議ノ際ノ覚書	○	○
4092 ※	3819	1942年3月26日 ベルリンより東京への電報 大島「ソ」会談 対ソ攻撃日独ノ通商関係	○	○
4095		ローマ1939年9月2日独逸外務省暗号電報 秘密暗号法(良)極秘 9月2日附第404号 独逸外務大臣閣下	○	○
4096A	3813	大西洋ニ於ケル独ノ血戦法一商船乗組員ノ殺害...ト大島ノ同意	○	○
4107	A	被告松井ノ訊問調書ヨリノ抜萃	○	○ 証明書ノミ日本文ナシ
4103		1946年4月15日附 武藤章訊問の抜萃	○	○
4109		1946年4月16日付 武藤章訊問抜萃	○	○
4111		1946年4月19日附 武藤章將軍の訊問の抜萃	○	○
4113		1946年3月8日の東郷茂徳尋問の抜萃	○	○
4115		1946年3月11日附ノ東郷茂徳ノ訊問書ヨリノ抜萃	○	○

検 察 側 証 拠 書 類 第 5 9 卷

P.D. No	EX. No	内 容	英 文	和 文	備 考
4116		1946年3月11日の東郷茂徳訊問抜萃	○	○	
4118		1946年3月19日一東郷茂徳の訊問より抜萃	○	○	
4119		1946年(昭和21年)3月26日附東郷茂徳訊問書ヨリ(4頁)ノ抜萃	○	○	
4121	776A	大島浩被告訊問調書 1946年4月22日	○	○	英文ノミ後半脱落

4122A	768A	平沼騏一郎被告訊問調抜萃 1946年4月24日	○	○
4134		木戸幸一(侯爵)ニ対スル訊問ノ抜萃 1946年2月14日	○	○
4135		木戸幸一(侯爵)訊問ノ抜萃 1946年2月15日	○	○
4160A	1157	東条被告訊問調書	○	○
4160B	A 1157	東条被告訊問調書抜萃	○	○
4160C	B 1157	東条被告訊問調書	○	○
4167B	C 1124	東条英機ニ対スル訊問 昭和21年2月15日	○	○
4181B	A 1982	東条英機訊問抜萃 1946年3月27日	○	○
4182	1983	東条英機訊問調書 1946年3月28日		○
4182A	1983	1946年3月28日 東条英機訊問ヨリノ抜萃	○	○
4182D	A	1946年3月28日 東条英機訊問抜萃	○	○
4183A	1984	1946年3月29日 東条英機訊問抜萃 第1~4頁	○	○
4183B	A 1984	1946年3月29日 東条英機訊問抜萃	○	○
4185	B	「ユージー・オット」少将訊問抜萃 1946年2月28日14時~16時 板垣征四郎に関する訊問等	○	○
4186		大川周明に対する訊問調書 1946年3月11日	○	○
5003	1657	ナイク・パータップ・シング宣誓口供書抜萃	○	○
5004	A 1655	番号、名前、階級、部隊が8355 ナイクチャンドヂラム 2/15「ブンチャブ」聯隊の者の陳述	○	○
5005	A 1656	番号13133 2/15ブンジャブ聯隊の「マホメド」の証言	○	○
5013	A 1567	ロナルド・ジョージ・ウィリアムズ宣誓口供書(泰緬鉄道シャム地区)	○	○

5024B	1528 A	宣誓口供書 ロイ・ハルフォード・スティヴンズ(食糧・衛生設備)	○	○
5031A	1570 A	巫米利加合衆国其他対荒木貞夫其他 ビーター・ジョン・キャンベルの宣誓、証言	○	○
5034	1561 A	「ビルマ」方面ニ於ケルB級口供書「クリストファー・モンタギュー・ブラック」ノ陳述書	○	○
5038A	1563 A	「ビルマ」方面ニ於ケルB級口供書ジョージ・アーネスト・ラムゼー1942年2月 シンガポールニ於テ日本軍ノ捕虜トナル・陳述書	○	○
5038B	1582 A	シンガポールで捕虜となったオーストラリア歩兵大隊 NX3499陸軍中佐ジョージ・アーネスト・ラムゼーに関する書類	○	○
5041	1562 A	ニュー・サウス・ウェルズ州 シドニ医師チャールズ・ロウランド・プロムリー・リチャーズの陳述書	○	○
5043	1525 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 ベン・チャールズ・ハックネーの証言	○	○
5044	1505 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 ジョン・ウィリアム・ライトの陳述	○	○
4045	1503 A	1945年1月6日 金曜日「シドニー」に於て「マンスフィールド」判事殿の面前で作成せられたる証言「ジョージ・アレキサンダー・フロット」証言口述書	○	
5047B	1501 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 ジョージ・ボレインの宣誓口供書	○	○
5051	1500 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 キャンベル・ウェストン・ペリの陳述	○	○
5052B	1506 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 フレデリック・チャールズ・スチュアート の証言	○	○
5057B	1518 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 ウィリアム・ジョン・キャンベル・ゲ ストの証言	○	
5058	1517	宣誓口供書 フレデリック・カラガー・カレガン	○	○

検 察 側 証 拠 書 類 第 6 0 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
5059A	1565 A	「ビルマ」方面ニ於ケルB級犯罪口供書 チャールス・ヘンリー・カッブの宣誓書 1942・2・15 シンガポールデ日本軍俘虏ニナル	○	○	
5061	1509 A	「シンガポール」 「マレー」 関係B級犯罪口述書	○	○	
5063	1508 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 デリック・ラノルド・メーンの証言	○	○	
5064A	1566 A	クイーンズランド州プリズベイン市開業医バーネット・レスリ・ウッド・バーン・ クラークの証言	○	○	
5064B	1516	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書「アメリカ」合衆国其ノ他荒木貞夫其ノ 他バアネット・レスリイ・ウッド・バーン・クラークの証言	○	○	
5067	1568 A	セント・クレア・エドワード・ジョン・バレット宣誓書	○	○	
5068		宣誓口供書 セント・クレア・エドワード・ジョン・バレット中佐(英国陸軍軍医 部)	○	○	
5072	1569 A	宣誓口供書 チャールス・ベリー	○	○	
5074	1571 A	ジェフレー・ノウルズの宣誓陳述書	○	○	
5075	1572 A	ジェー・オー・カウンの宣誓証言	○	○	
5077	1515 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 ジェームズ・ウィリアム・ダグラス・ ブルの証言	○	○	
5078	1519 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 ジョン・レオナド・ウイルソンの陳述	○	○	
5080	1510 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 チャールス・フィリップ・ヒースの 陳述	○	○	
5081	1504 A	宣誓口供書 陸軍砲兵中佐チャールス・フィリップ・ヒース	○	○	

5084	1527 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書ピーター・レーニアー・アダムスの証言	○	○	
5085	1576 A	証言供述書 ローランス・ジョン・シーキング	○	○	
5089A	1608 A	セドリック・オーヴァートン・シヤックルトン ノ宣誓陳述書	○	○	
5089B	1590 A	1941.12.24ヨリ26ノ間スタンレーノセント・ステファン大学ニ起ッタ事件ニ関スル アンドリュウ・リーヴィング夫人ノ陳述書	○	○	
5089C	1597 A	テー・アール・カンニンガムの供述書 1941年12月18日 香港にて	○	○	日本文のみ後半脱落
5089D	1596 A	香港英国軍医部所属伍長エヌ・ジェー・リース供述書抜萃	○	○	日本文のみ後半脱落
5089E	1592	軍曹ジェー・エイチ・アンダーソン 軍曹エイチ・ピース・グッド供述書	○	○	日本文のみ後半脱落
5089F	1593 A	軍曹ジェー・エイチ・アンダーソン陳述書	○	○	日本文のみ後半脱落
5089H	1591 A	A.F.ゴードン嬢ノ陳述書(香港)	○	○	
5090	1605 A	宣誓口供書 ヴィクター・ジョセフ・マイヤット	○	○	
5093	1604 A	George Twist 宣誓陳述書	○	○	日本文のみ後半脱落
5095	1606	宣誓口供書 フレドリック・デントン・フィールド	○	○	
5096	1607	宣誓口供書 エリック・ジョン・ジョン・グリーン	○	○	
5099	1603 A	ロバート・ディックバイ・バック ノ供述書	○	○	日本文のみ後半脱落
5100	1594 A	「スタンレイ・エム・バンファイル」供述書抜萃 香港	○	○	日本文のみ後半脱落
5101	1600 A	カナダ陸軍Ysgt.William Albert HALL 宣誓陳述書	○	○	日本文不完全
5110	1622 A	宣誓口供書 ジョン・リチャードソン	○	○	
5111	1621 A	宣誓口供書 ジョウン夫人	○	○	
5112	1620 A	宣誓口供書 レスリー(ニコバル嶋人ニシテ基督信者)	○	○	
5113	1610	宣誓口供書 アッフダル・ラウフ	○	○	

5114	1612 A	宣誓口供書 ハビブ・ウル・ラーマン	○	○	
5115	1611 A	宣誓口供書 ビアライ・モハン	○	○	
5116	1613 A	宣誓口供書 アブダル・カリークの寡婦「ザイトゥーン・ビビ」	○	○	
5117	1614 A	宣誓口供書「アバディーン・バザー」の「モハメッド・オーヤーン」	○	○	
5120	1537 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書ムグ・サン・ヌグヴェの証言	○	○	
5125	1585 A	供述書 ロンドン ミルバンク、ヴンセント・ベンネット	○	○	
5128	1574	宣誓口供書 ロバート・クラウフォード	○	○	日本文一部欠落
5129	1498 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書Wong Joon の証言	○	○	
5130	1511 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 G.V.Pピコツツイの陳述	○	○	
5131	1520 A	チャールス・エリック・ヒルターマン宣誓口供書(民間人抑留)「シンガポール」 「マレー」関係B級犯罪	○	○	
5136	1575 A	供述者タル印度医務部「E.H.ワレス」大尉ノ陳述書 泰緬鉄道建設地区 (泰「ビルマ」に於けるB級犯罪口述書)	○	○	
5137	1540 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 エドワード・レウエリン・セント・ ジョン・コウチ ノ陳述書	○	○	
5138	1538 A	「シンガポール」 「マレー」 関係B級犯罪口供書 EDWARD.LI.ST.J.COUCH	○	○	
5139	1530 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 チュー・スウェー・レラク 証言調書	○	○	
5141	1531	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書ウーイ・ケー・ボン夫人の陳述	○	○	
5142	1502 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書ヨン・エン・モイ取調概略	○	○	

検 察 側 証 拠 書 類 第 6 1 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
-----------	---------	-----	-----	-----	-----

5143	1533 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 ウィリアム・ジョン・デービスの陳述	○	○
5144	1648 A	ハロルドアルフレッド・ブリトハート宣誓口供書 海上輸送B級犯罪関係口述書	○	○
5146	1646 A	サクソン・ジイオフィー・ドゥーズ宣誓口供書 海上輸送B級犯罪関係口述書	○	○
5149	1641 A	宣誓口供書 トーマス・ウィリアム・アダムソン 海上輸送B級犯罪関係口述書	○	○
5151	1642	宣誓口供書 ウィリアム・マニング・ブラックウッド 海上輸送B級犯罪関係口述書	○	○
5154	1522 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書「Q」様式の写	○	○
5156	1587 A	M. J. M. マグネスの宣誓陳述書 泰B級犯罪関係口供書	○	○
5158	1645 A	宣誓口供書 ゴールドン・ハイランダーズ 海上輸送B級犯罪関係口述書	○	○
5170	1631 A	宣誓口供書 ジョーン・オーエン・エドワード	○	○
5170A		ジョン・オウエン・エドワズ 1942年、私は「シンガポール」で捕虜になった	○	○
5172	1630	宣誓口供書ノ抜萃 ジェイティ・エヌ・クロス 台湾B級犯罪関係口供書	○	○
5177	1674 A	宣誓口供書 エドマンド・マッカーサー・シェパード 北ボルネオ(サンダカン・クチン)B級犯罪関係口述書	○	○
5179	1673 A	口供宣言書 陸軍中尉ステフェイ・ヴィクトル・バート・デー 北ボルネオ(サンダカン・クチン)B級犯罪関係口述書	○	○
5179-1		口供書 ステフェン・ヴィクトル・バート・デー	○	○
5182	1629 A	宣誓口供書抜萃 チャールス・ハーバート・ストリンジャー大佐	○	○
5187	1632 A	宣誓口供書 ジョン・エル・マンミン 台湾B級犯罪関係口供書	○	○
5190	1643 A	宣誓口供書 チャールス・ハーバート・ストリンジャー 海上輸送B級犯罪関係口述書	○	○
5191	1653 A	スコットランド軍中尉ジョフリイ・カゾーハ・ミルトン宣誓口供書抜萃 海上輸送B級犯罪関係口述書	○	○

5193	1638 A	宣誓口供書 ハロルド・J・フィットカム 海上輸送B級犯罪関係口述書	○	○
5194	1637 A	宣誓口供書 アーサー・エム・バックローズキ 海上輸送B級犯罪関係口述書	○	○
5205	1521 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 ブリアン・モリス・ジョンズ氏の陳述	○	○
5206A	1560 A	「ビルマ」方面ニ於ケルB級口供書 フレデリック・ヒュー・バッシュフォード 陳述書	○	○
5206B	1581 A	宣誓口供書 フレデリック・ヒュー・バッシュフォード	○	○
5207	1647 A	エリック・キンネット・スコット宣誓口供書抜萃	○	○
5208	1664 A	ナカタンイチ(中田信一)陳述書 北ボルネオ及サラワクB級犯罪関係口述書	○	○
5209	1660 A	宣誓口供書 バチー・ピン・O・K・K・ハサン北ボルネオ及サラワクB級犯罪関 係口述書	○	○
5211	1663 A	スジャング供述書 北ボルネオ及サラワクB級犯罪関係口述書	○	○
5212	1662 A	バジ・ピン・リンドマンの宣誓陳述書 北ボルネオ及サラワクB級犯罪関係口述書	○	○
5213	1665 A	宣誓口供書 イナナムノ農夫 ラジュン 北ボルネオ及サラワクB級犯罪関係口述 書	○	○
5214	1661 A	宣誓陳述書 トン・アー・セオン 北ボルネオ及サラワクB級犯罪関係口述書	○	○
5215		宣誓口供書 ジョセフ・エフ・マクドナルド	○	○
5216	1639 A	宣誓口供書 エス・エル・ベーカー 海上輸送B級犯罪関係口述書	○	○
5217	1866 A	宣誓口供書 ジェイムズ・エイ・マックマリア ジョゼル・ホルギン アルホンズ・ ディ・クィノネス ニューブリテン島に於ける口述書裁判記録(俘虜及現地人、 中国人の殺害)	○	○

検 察 側 証 拠 書 類 第 6 2 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
-----------	---------	-----	-----	-----	-----

5 2 1 8 A	1 6 5 8 A	「ボルネオ」俘虜収容隊杉野ツルヲ曹長の陳述 北ボルネオ及サラワクB級犯罪関係口述書	○	○	
5 2 1 9		1 9 4 5年戦争犯罪条例ニヨリ告発サレタ日本戦争犯罪人の第一表(オーストラリア軍事裁判所)	○	○	
5 2 2 1	1 6 9 0	「サマリンド」警備隊ニ対スル事件 津田准尉の陳述書	○	○	
5 2 2 3	1 8 3 1 A	宣誓供述書 吉崎清郷 昭和21年3月28日 「アンボン」島に於けるB級犯罪口述書	○	○	和文不完全
5 2 2 9	1 8 4 6 A	ニューギニアに於けるB級犯罪証拠書類 オノ サトルの証言 ニューギニアに於けるB級犯罪口述書報告書 手記(俘虜殺害、その他)	○	○	
5 2 3 2	1 6 3 4 A	宣誓供述書 レイモンド・シー・リチャードソン及J・G・マドック海上輸送B級犯罪関係口述書	○	○	
5 2 3 4	1 6 3 5 A	宣誓口供書 エドワード・アール・ネル 海上輸送B級犯罪関係口述書	○	○	
5 2 3 9		昭和21年戦争犯罪法ニヨリ濠洲軍事当局ノ提訴セル日本人戦争犯罪者名表 1 9 4 5 戦争犯罪条例ニ関スル件	○	○	
5 2 4 1	1 5 2 4 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 テレンス・チャールズ・トレバーの証言	○	○	
5 2 4 2	1 5 0 2 A	レスリー・ウィリアム・マックカン宣誓陳述書「シンガポール」「マレー」関係B級犯罪口供書	○	○	
5 2 4 4	1 6 8 9	1 9 4 6年5月27日付 日本人大尉の陳述(証明書付)蘭領「ボルネオ」B級犯罪書証	○	○	
5 2 4 5	1 8 8 4 A	オーシャン群島に於けるB級犯罪口述書 カブナレの訊問書	○	○	
5 2 4 6	1 8 8 3 A	オセアン島戦争犯罪 ダグラス・ジョン・マクベインの陳述	○	○	
5 2 4 7	1 8 8 5 A	「オーシャン」群島に於けるB級犯罪口述書(俘虜並土人殺害)坂田次郎の陳述書	○	○	
5 2 4 8	1 3 8 1	「ナウル」群島に於けるB級犯罪口述書 タウア氏の証言	○	○	和文は抜萃

5 2 5 0	1 6 2 6 A	宣誓口供書 アラン・フランク・ウインザー 海南島B級犯罪関係口供書	○	○	
5 2 5 1	1 6 2 7 A B	リチャード・ガイ・ターナー宣誓陳述書(写真付)	○	○	
5 2 5 2	1 8 8 2 A	ナウル群島に於けるB級犯罪口述書 リーチョン・ウォレの証言	○	○	
5 2 5 6	1 5 7 6 A	宣誓口供書 リチャード・アーネスト・ピータソン 泰緬鉄道建設地区(泰「ビルマ」)に於けるB級犯罪口述書	○	○	
5 2 6 0	1 5 3 6 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 ジョーン・ケヴィン・ロイドの証言	○	○	
5 2 6 2	1 8 7 7	中国人チャーチの証言(1945年10月3日)白人・中国人の殺害(ソロモン群島に於けるB級犯罪口述書)	○	○	
5 2 6 3	1 8 7 8	訊問調書 カナシローフクカン 1942年11月ヨリ1943年9月 ソロモン群島に於けるB級犯罪口述書	○	○	和文一部欠落
5 2 6 4 A	1 6 2 5 A	宣誓口供書 海南島B級犯罪関係口供書 イアン・フェークーハ・マクリー	○	○	
5 2 6 5	1 6 8 8 A	宣誓口供書 チャールズ・ヨンゲネール 1942年8月20日以前ノ諸事件の概要(蘭領「ボルネオ」B級犯罪書証)	○	○	
5 2 6 7	1 6 9 1	宣誓供述書 チャールズ・ジョンジェテル(蘭領「ボルネオ」B級犯罪書証)	○	○	
5 2 6 8	1 7 0 0 A	サイマン訊問書抜萃(蘭領ボルネオニ於ケルB級犯罪書証)	○	○	
5 2 6 9	1 6 9 2 A	宣誓陳述書(蘭領「ボルネオ」B級犯罪書証)パウル・ヒュバート・オウデマンス、チャールズ・ヨンゲネールによる証明書付	○	○	
5 2 7 1	1 6 9 4 A	宣誓口供書 モーア・アルーシヤス、マリア・ルナルダス(チャールズ・ヨンゲネールの証明書付)(蘭領「ボルネオ」B級犯罪書証)	○	○	
5 2 7 3	1 6 9 3 A	宣誓口供書 ジャンセン・グマカー・ヴァン・ヒールデン ブリーゲン・エサース(チャールズ・ヨンゲネールの証明書付)(蘭領「ボルネオ」B級犯罪書証)	○	○	
5 2 7 4 A	1 5 8 3 A	ライオネル・ヴィヴィアン・ハドスン宣誓陳述書(ビルマB級犯罪関係)	○	○	
5 2 7 5 A	1 5 8 0 A	チャールズ・エドワード・グリーン宣誓陳述書(ビルマB級犯罪関係)	○	○	
5 2 7 6	1 5 3 5 A	ジョン・ケヴィン・ロイドの宣誓陳述書(シンガポール・マレー関係B級犯罪)	○	○	

5284A	1602 A	田中均中尉訊問ノ摘要抜萃 田中均ノ宣誓陳述書 香港B級犯罪関係口供書	○	○	
5286A	1595 A	オスラー・トーマス審問要旨 宣誓シ陳述ス 香港B級犯罪関係口供書	○	○	
5287A	1598 A	Martin Tsa Him Chi 審問ノ摘要	○	○	
5288A	1601 A	訊問大要 英帝国三等勲章「エル・ティーン・ライド」陸軍大佐ノ宣誓口述書	○	○	
5289A	1599 A	回教徒「マイカル・ホーガン」訊問ノ大要抜萃 マイカル・ホーガン宣誓陳述書	○	○	
5293	1652 A	和蘭市民アザイック・サムエル・ディクリン宣誓口供書	○	○	

検 察 側 証 拠 書 類 第 6 3 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
5294	1676	陳述書 ジョン・リントン・トレロアー	○	○	
5294B	1676 A	証拠書類 A~N J. L. トレロアー中佐が本昭和21年5月27日ニソノ宣誓陳述書ヲ作成セル際同人ニ提出セルモノナリ	○	○	
5297	1825 A	「アンボン」島に於けるB級犯罪口述書 デニス・ブライアン・メイソンの口供書	○	○	
5298	1826 A	「アンボン」島に於けるB級犯罪口述書 DENIS BRIAN MASOURAFの証言	○	○	
5299	1827 A	「アンボン」島に於けるB級犯罪口述書 収容所に於ける日本兵戦争犯罪並に俘虜に対する一般虐待行為に関する件	○	○	
5300	1828 A	「アンボン」島に於けるB級犯罪口述書 1945.9.12. オーストラリア衛生病院の戦時日記よりの抜萃	○	○	
5301	1823 A	「アンボン」島に於けるB級犯罪口述書 ジョン・レスリー・シーラントの証言	○	○	
5302	1822 A	「アンボン」島に於けるB級犯罪口述書 「ウェルダァン・クライブ・ポール」の陳述	○	○	
5303	1830 A	「アンボン」島に於けるB級犯罪口述書 ポール・アルフレッド・スタンスベリーの口述	○	○	

5306	1824 A	「アンボン」島に於けるB級犯罪口述書 ビー・ボエディマンの口述	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
5307	1636 A	宣誓口供書 クライド・R・サリヴァン	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
5311	1852	野戦病院小分遺隊所屬兵「ウィリアム・クック」宣誓口供書	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
5312	1853 A	「ニューブリテン」島に於ける口述書裁判記録（俘虜及現地人・中国人の殺害） ウィルキー・デスモンドの記録	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
5313	1854 A	ニューブリテン島に於ける口述書裁判記録（俘虜及現地人・中国人の殺害） ヒュー・ジョセフ・ウェプスターの陳述		<input type="radio"/>	
5314	1848 A	ニューギニアに於けるB級犯罪口述書 カーネルの口述（C・ヨーンゲネルの証 明書付）	<input type="radio"/>		写真付
5317	1615 A	学校教師「イムダッド・アリ」ノ訊問要領 イムダッド・アリノ宣誓陳述書	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
5318	1616 A	投監中ノ「ムラド・アリ」ノ訊問摘要 ムラド・アリ宣誓陳述書	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
5319	1617 A	ブミ・ナダンノ訊問概要	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
5321	1618 A	宣誓口供書 モハマッド	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
5322	1619 A	ニヘイ・ヤマネ ニ関スル取調摘要書	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
5323	1649 A	宣誓口供書 A・ウアンブロンナシュタイン	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
5324	1650 A	宣誓口供書 ナルジョン・ロス・ベンヂ 海上輸送B級犯罪関係口述書	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
5325	1696 A	「1946年（昭和21年）2月1日及4日、3月3日及19日ボンチョナック 山本惣一調書抜萃」	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
5326	1701 A	S・林陳述書	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
5330	1702	日本海軍占領期間中蘭領東印度西部ボルネオニ於ケル強制売淫行為ニ関スル報告 （蘭領「ボルネオ」ニ於ケルB級犯罪書証）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
5332		ヂメルボルン軍司令部附キニシュヴィヴァン・パリシュ陸軍大尉（SX16852） の宣誓陳述書		<input type="radio"/>	

検 察 側 証 拠 書 類 第 6 4 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
5 3 3 3		ワシントン文書局国際検察部 典拠及び公正ニ関スル証明		○	
5 3 3 3 B	1 8 1 9 A	「アンボン」島に於けるB級犯罪口述書(捕虜殺害)中川健一の陳述	○	○	
5 3 3 3	1 8 1 9 B	「アンボン」島に於けるB級犯罪口述書(捕虜殺害)畠山国登の陳述	○	○	聴取書付
5 3 3 4	1 6 5 9 A	英国エム・ジェイ・ディクリンニ依ル報告抜萃 日本占領期間中北「ボルネオ」ノ「サラック」人ニ対シテ行ハレタ暴虐行為	○	○	
5 3 3 5	1 6 2 4 A	宣誓口供書 ウィリアム・エイケン 海南島B級犯罪関係口供書	○	○	
5 3 3 6	1 5 4 1 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書「A.M.スターロック」中佐ノ報告書		○	
5 3 3 7	1 5 3 9 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 ローセル・パークシャ連隊ノ将校 JCBバードキン大尉ノ陳述書	○	○	
5 3 3 9	1 5 4 7 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 ロバート・アンドル・ニコル ノ陳述書	○	○	
5 3 4 0	1 5 4 6 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書「ソウ・バ・ギョウ」ノ息子ナル「ソウ・ボ・ギ・ギョウ」ニ対スル訊問大要	○	○	
5 3 4 2	1 5 4 5 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書「ムドン」ノ商人「モーン・パン」ノ略式訊問	○	○	
5 3 4 4	1 5 4 2 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 宿所「キョラハ」村 職業 苦力「モン・ブ・ギ」ニ対スル訊問ヨリノ大意	○	○	
5 3 4 6	1 5 4 3 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書「マウング・ツン・シュウエ」ノ陳述書	○	○	
5 3 4 7	1 5 4 4 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 1945年5月 14オノ者ノ陳述書	○	○	
5 3 4 8 A		STATEMENT OF WITNESS Name Ms.Than Mg.	○		

5348B	1549 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 モンタン・マウング ノ陳述書	○	○
5354	1550 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 戦争犯罪ノ遂行ニ関係セル容疑者陳述書式	○	○
5356	1552 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書「ハリー・ジョセフ」ノ陳述書		○
5359	1551 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書「ローランド・ジョセフ」ノ宣誓陳述書	○	○
5361	1553 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口述書 陳述書 シマ・バハドゥルノ訊問	○	○
5364	1554 A	「ビルマ」方面ニ於ケルB級犯罪口供書 陳述書 ベルバハデュアレイ ハ日本人俘虏トシテ日本憲兵隊ノ通訳トシテ見タ日本軍ノ行動	○	○
5365	1555 A	「ビルマ」方面ニ於ケルB級犯罪口供書 バンガロー舎営区、民間無線電信局無電技師「ルドルフ・バシル・ウィルソン」氏ノ宣誓陳述書	○	○
5367	1556 A	「ビルマ」方面ニ於ケルB級犯罪口供書 1942年5月カラ11月迄「ブroom・コート」西部憲兵隊支部デ臨時通訳トシテ日本人ノ通訳トシテ働カサレタ「タン・ハイン・エング」の訊問摘要	○	○
5368	1557 A	「ビルマ」方面ニ於ケルB級犯罪口供書 1943年5月日本軍ニヨリ俘虏トシテ捕ハレ「メイミョウ」ノ「トンボ」収容所ニ送ラレタ「J・H・ウィリアムズ」ノ陳述書	○	○
5369	1558 A	「ビルマ」方面ニ於ケルB級犯罪口供書 1943年5日日本軍ニ逮捕サレ「マイミ」「トンボ」収容所ニ抑留サレタ、M・M・ウィリアムズ夫人ノ陳述書	○	○
5370	1577 A	宣誓口供書 ターキン・サー 泰緬鉄道建設地区(泰「ビルマ」)に於けるB級犯罪口述書)		○
5371	1578 A	泰緬鉄道工事ノ元野営宿泊所職員ニシテ「ビルマ・ラングーン」ノ映画芸術家デア ル「マウン・アイエ・コ」の陳述	○	○
5373	1507 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 ジョセフ・ウィルフレッド・クレーヴ ンの証言	○	○
5374	1499	アルバート・フランク・ボールの陳述		○
5375	1929 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 荒木貞夫及其他の供述書		○

5376	1651 A	濠洲陸軍看護ネスタグイネース・ジェームス宣誓口供書	○	○
5377	1644 A	宣誓口供書 ジョン・ローレンス・ハンズ 海上輸送B級犯罪関係口述書	○	○
5378	1834 A	「ニューギニア」に於けるB級犯罪口述書 チャールス・ウォルター・ケングルの証言	○	○
5379	1833	チャールス・ヘンリー・ピックス宣誓供述書 ニューギニアに於けるB級犯罪口述書 報告書手記(俘虜殺害その他)	○	○
5380	1842 A	ニューギニアに於けるB級犯罪「リサルタール・ラシッド・モード」の死に関する第19特別給水中隊兵長「ヤスサカ・マサジ」の訊問	○	○
5381	1843 A	ニューギニアに於けるB級犯罪 ラクフ・ラムの陳述	○	○
5382	1840 A	ニューギニアに於けるB級犯罪口述書報告 チェイン・シングの証言	○	○
5383	1841 A	ニューギニアに於けるB級犯罪 ヤスサカ・マサジの尋問	○	○
5384	1838 A	「ニューギニア」に於けるB級犯罪口述書 JEMADAR ABDUL の証言	○	○
5385	1847 A	ニューギニアに於けるB級犯罪口述書 藤村部隊加藤喜八郎の証言	○	○
5386	1844 A	ニューギニアに於けるB級犯罪「キチアル・シング」の死 律令的陳述 チェマダ・チン・シングの証言	○	○
5387	1845 A	ニューギニアに於けるB級犯罪証拠書 ハミル・スイング軍曹の陳述	○	○
5388	1835 A	「ニューギニア」に於けるB級犯罪口述書 エィ・エス・パーマーの陳述	○	○
5389	1849	エムラーア島に於ける「ナウィ・ビンギマン」に対する虐待行為に関する調書 ニューギニアに於けるB級犯罪口述書 報告書手記(俘虜、殺害その他)	○	○
5390	1513 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 国境小銃部隊「バッチャン・シング」の陳述	○	○
5391	1839 A	第18印度人作業隊の約100名の印度人死亡に関する調査 伍長勤務「ディナ・ナット」の陳述	○	○
5393	1858 A	ニューブリテン島に於ける口述書裁判記録(俘虜及現地人・中国人の殺害)リュウ・ウェイ・パオの証言	○	○

5394	1588	カル・ラムの宣誓陳述書 泰, B級犯罪関係口供書	○	○	
5395		宣誓陳述書 濠洲陸軍部隊勤務ベンロド・ヴァンス・ディーン	○	○	

検 察 側 証 拠 書 類 第 6 5 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
5396	1667 A	口供宣言書 アレクサンダー・ゴードン・ウェントン 北ボルネオ(サンダカン・クチン) B級犯罪関係口述書	○	○	
5397	1514 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 アレキサンダー・ゴードン・ウェントンの証言	○	○	
5398	1880 A	訊問調書 ギルバート及エリス島植民地ノ住民 1944年10月16日「タウラ」群島に於けるB級犯罪口述書(俘虜の殺害)	○	○	
5399	1829 A	「アンボン」島に於けるB級犯罪口述書(捕虜殺害)ダグラス・マクベインの口述	○	○	
5400	1855 A	ニューブリテン島に於ける口述書裁判記録(俘虜及現地人・中国人の殺害)ウォング・ヨウ・シンの証言 1945.10.15	○	○	
5401	1856 A	ニューブリテン島に於ける口述書裁判記録(俘虜及現地人・中国人の殺害)李恵星の証言 1945.10.17	○	○	
5402	1857 A	ニューブリテン島に於ける口述書裁判記録(俘虜及現地人・中国人の殺害)李恵星少佐の陳述 1945.10.18	○	○	
5403		宣誓口供書 李恵星少佐 1945年10月18日(ニューブリテン島に於ける口述書裁判記録)	○	○	
5404	1859 A	ニューブリテン島に於ける口述書裁判記録(俘虜及現地人・中国人の殺害)栄平費の証言	○	○	
5405	1860 A	ニューブリテン島に於ける口述書裁判記録(俘虜及現地人・中国人の殺害)シェル・チェン・ツォの証言	○	○	

5406	1861 A	ニューブリテン島に於ける口述裁判記録(俘虜及現地人・中国人の殺害) OHEUNG YEE YU 大尉の証言 1945.10.9	○	○
5407	1862 A	ニューブリテン島ニ於ケル口述書裁判記録(俘虜及現地人・中国人の殺害) タンバイミンの証言 1945.10.18	○	○
5408	1863 A	ニューブリテン島に於ける口述書裁判記録(俘虜及現地人・中国人の殺害) パンチンティンの証言 1945.10.18	○	○
5409	1864 A	「ニューブリテン」島に於けるB級犯罪口述書裁判記録 リーイチャイ・クニャン グ夫人の証言 1945.10.20	○	○
5410	1867 A	宣誓陳述書 マウタ・レオナード 1945年10月29日	○	○
5411	1872 A	ニューブリテン島に於ける口述書裁判記録(俘虜及現地人・中国人の殺害)工兵 バラスラム	○	○
5412	1869	宣誓口供書 デア・シー・ロイ 1945年10月5日(ニューブリテン島に於ける 口述書裁判記録)	○	○
5413	1871 A	ニューブリテン島に於ける口述書裁判記録(俘虜及現地人・中国人の殺害)スム・ ア 1946年1月2日	○	○
5414	1870	ニューブリテン島に於ける口述書裁判記録(俘虜及現地人・中国人の殺害)ジェム・ クップディン 1945.9.19	○	○
5416	1873 A	宣誓供述書 チャンギ・ラム・ヘイ 1945.10.30(ニューブリテン島に おける口述書裁判記録)	○	○
5417	1821 A	「アンボン」島に於けるB級犯罪口述書 イアン・ファーカー・マクレイの証言	○	○
5418	1820 A	「アンボン」島に於けるB級犯罪口述書 デー・デ・ヴィ・ウェストレーの証言	○	○
5419	1818 A	「アンボン」島に於けるB級犯罪口述書(捕虜殺害)G.D.E.V.ウェストレー の証言	○	○
5420	1666 A	宣誓口供書抜萃 ロデリック・グラハム・ウェルズ(北ボルネオ、サンダカン・ク チンB級犯罪関係口述書)	○	○
5422	1472 A	宣誓口供書 渡辺「ゲンジヨ」昭和20年12月8日	○	○
5423	1670 A	北ボルネオ(サンダカン・クチン)B級犯罪関係口述書 JOINT STATEMENT MADE BY CHENKAY, CHIN KIN and LOTONG WHO RESIDE NEAR THE 15½ MILE POST, SANDAKAN	○	○

5 4 2 4	1 6 6 9 A	北ボルネオ(サンダカン・クチン) B級犯罪関係口述書 STATEMENT BY ISHII, Fujio, Formosan, SUGA BUTAI	○	
5 4 2 5	1 8 7 9 A	「ソロモン」群島に於けるB級犯罪口述書 バラレ島に於ける英国兵捕虜に関し陳 述尾崎憲彦の口述 1946.8.8	○	○
5 4 2 7	1 8 8 6 A	「オーシャン」群島に於けるB級犯罪口述書 アライ・カクゾウ陳述	○	○
5 4 2 8	1 5 1 2 A	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 ロデリック・グラム・ウェルズの陳述	○	○
5 4 3 0	1 4 9 7	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 シンガポール降伏時 ワン・シンコン の供述書	○	○
5 4 3 1	1 6 6 8 A	供述書 ケイス・ボタリル	○	○
5 4 3 2	1 5 2 3	証拠概要「マラヤ」	○	○
5 4 3 3	1 8 6 8	濠洲陸軍ノ軍事裁判記録(日本戦争犯罪人)場所 ラバウル 時1946.1.4 及び1.6 被告 キカワヘルラ	○	○
5 4 3 8	1 8 6 6 A	帰還俘虜による陳述(1945.9.9) 俘虜殺害 ノーマン・ヴィカースについ ての陳述書 ジャクィノット・ベイ	○	○
5 4 4 0	1 8 1 7	「セレバス」島に於けるB級犯罪口述書(要約)(アンボン群島) 俘虜, 一般市民 に対する取扱い概略	○	○
5 4 4 1	1 5 3 4	シンガポール・マレー関係B級犯罪口供書 T. B. アウテタロニーの陳述	○	○
5 4 4 2	1 8 3 2 A	「ニューギニヤ」に於けるB級犯罪証拠要約 俘虜・民間人及び土民の取扱いに関 する証書	○	○
5 4 4 3	1 5 5 9	「ビルマ」方面ニ於ケルB級犯罪口供書「ビルマ」及「シャム」鉄道ノ「ビルマ」 地区ニ送ラレタ俘虜(a) 隊附牧師F. H「バッシュフォード」ノ供述書デアル	○	○
5 4 4 4	1 5 6 4	「ビルマ」方面ニ於ケルB級口供書 1943年4月緬泰鉄道ノ暹羅地区ニ送ラレ タ俘虜	○	○

検 察 側 証 拠 書 類 第 6 6 卷

P. D. No	EX. No	内 容	英 文	和 文	備 考
5445	1851 A	「ニューブリテン」島に於けるB級犯罪証拠要約 ウィリアム・クックの証言記録	○	○	
5446	1874	検察図書類第5447号ハ憲兵隊第17部隊大尉渡辺薫(音訳)同隊少佐伊藤太一(音訳)訊問書デアリマス。之ヲ検証ノ為ニ、ヌ印ノ附イタ箇所ヲ抜萃シ書証トシテ提出	○	○	
5447	1875 A	「ブーゲンヴィル」戦争犯罪 ワタナベ カオル証言(白人の殺害)	○	○	英文P・1欠落
5448	1633	宣誓口述書 レイモンド・C・リチャードソン	○	○	
5449	1654 A	証拠概要(北ボルネオ及サラッタノ俘虜及市民ノ取扱)	○	○	
5450	1573	証拠概略 鉄道就役ノ苦力	○	○	
5451	1675 A	宣誓口供書 ネヴィル・ホワード・モルガン		○	
5453	1579	証拠概略 緬甸・暹羅間ノ鉄道ニ連絡シテイナイ緬甸ニアル俘虜ノ兵舎	○	○	
5454	1584	「メルギー」ヨリ「ギリカン」ヘノ道路	○	○	
5455	1586	証拠概略 シャム国ニ於ケル一般入	○	○	
5456	1609	アンダマン諸島ノ原住民ノ証言ノ抜萃	○	○	
5457	1623	宣誓口供書 W・エイケン医師(海南島ニ於ケル証拠概略)	○	○	
5458		宣誓口供書 C・H・ストリンジャー大佐	○	○	
5492		中華民國国民政府軍事委員会軍令部備忘録 1946年2月18日	○	○	
5503	1804 A	供述書 海軍少佐 G・T・クーパー 1946年1月7日 セレベス島に於けるB級犯罪口述書(収容所)	○	○	

5504	1805 A	証明書 チャールズ・ヨンゲネール セレベス島に於けるB級犯罪口述書	○	○	
5514	1808	「セレベス」島に於けるB級犯罪口述書(捕虜の死刑)アール・ゼイ・ヘンセルの陳述	○	○	
5517	1807 A	「セレベス」島に於けるB級犯罪口述書(捕虜の死刑)ポール・グリーブ・エブデンカーの証言	○	○	
5518	1797 A	1945年11月7日付「ミンゲレン」博士訊問報告書	○	○	
5520	1798 A	宣誓書 小田村利武 1946年3月25日「セレベス」島B級犯罪口述書(捕虜虐殺)	○	○	
5521	1801 A	宣誓書 中村通則 1946年4月26日 セレベス島に於けるB級犯罪口述書	○	○	
5522	1813	「セレベス」島に於けるB級犯罪口述書(一般民間人非収容者)クリスチャン・ヒンドリック・ウェンズヴィーンの証言	○	○	
5523	1814	「セレベス」島に於けるB級犯罪口述書(一般民間人非収容者)スマクル虐殺事件	○	○	
5529	1815	「セレベス」島に於けるB級犯罪口述書(一般民間人収容者)スヌシー及びシナリ-2名の虐殺事件 フェイン・ビン・アブドラの証言	○	○	
5530	1816	「セレベス」島に於けるB級犯罪口述書(一般民間人非収容者)ヨーハンアイルフ外3名の斬首刑事件説明	○	○	写真付
5532	1800	谷口剛輔の証言 1946年4月11日 セレベス島におけるB級犯罪口述書	○	○	
5533	1803	中村義之の証言書 1946年4月20日「セレベス」島に於けるB級犯罪口述書	○	○	
5535	1799 A	林ヨシノリ宣誓書 1946年4月30日「セレベス」島B級犯罪口述書(捕虜虐殺)	○	○	
5538	1806	豪洲戦争犯罪委員会 陸軍大尉「S.N.ポール」証言 1945年9月24日「セレベス」島に於けるB級犯罪口述書	○	○	

検察側証拠書類 第67巻

P. D. No.	EX. No.	内 容	英文	和文	備 考
5544	1810	「セレベス」島に於けるB級犯罪口述書(一般民間人収容者)ヘルマン・ダリングの証言	○	○	
5547	1811 A	「セレベス」島に於けるB級犯罪口述書(一般民間人収容者)1945・11・5付訊問報告書 H. J. クーツ	○	○	
5555	1812	「セレベス」島に於けるB級犯罪口述書(一般民間人収容者)アン・リリアン・ロルフの証言	○	○	
5563	1809 A	「セレベス」島に於けるB級犯罪の口述書(捕虜の死刑)ファンデンベルグ・ウィリアム・カーレの証言	○	○	
5564	1802	陳述書(木場大佐)「セレベス」島に於けるB級犯罪口述書	○	○	
5571	1780 A	ロデリック・ブルース・クロー宣誓供述書(チモール・オサバ・ベサル収容所に 関するもの)	○	○	
5573	1781	トーマス・ウィリアム・ピンデンマン訊問書(チモール・ウサブ・ブサールの収容 所並に病院)	○	○	
5578-1	1785 A	デソーアース大尉/卒/シー・ケイ・ブランツ及ビデフリース中尉ニ依り作成セラ レタルフローレス俘虜労働隊ニ関スル報告書	○	○	
5579	1782 A	陸軍中佐W. W「リグット」ノ宣誓供述書ノ抜萃「チモール」小「スンダ」に於け るB級犯罪口述書(捕虜虐殺)	○	○	
5583	1786	英国飛行大尉「リンドン・ロイド・マッケンジー」口供書「チモール」小「スンダ」 に於けるB級犯罪口述書(収容所)	○	○	
5585	1784	「チモール」小「スンダ」ニ於ケルB級犯罪口述書(捕虜虐殺)	○		
5591	1794	オハラ・セイダイの陳述書 「チモール」小「スンダ」に於けるB級犯罪口述書 (一般民間人)	○	○	

5594	1793 A	鎮庄隊ノ行動 田中透「チモール」小「スンダ」に於けるB級犯罪口述書 (一般民間人)	○	○
5596	1788	日本人通訳永田Sに関する報告書「チモール」小「スンダ」に於けるB級犯罪口述書 (一般民間人)	○	○
5597	1787 A	証明書 チャールズ・ヨング・ネイル グリット・ジャン・スイップの陳述 「チモール」小「スンダ」に於けるB級犯罪口述書(収容所)	○	○
5601	1770 A	ウィルヘルム・ヘーデローアン陳述書(捕虜)(チャールズ・ヨンゲニールの証明 書付)	○	○
5604	1769 A	口供書 バトリック・スレイニイ・デーヴィス「ジャワ」及び「スマトラ」に於ける 日本の戦争犯罪に関する報告書	○	○
5617	1767 A	アーネスト・アレキサンダー・ロイドの訊問書(豪洲看護婦に対する日本人の残虐 行為)	○	○
5619	1768 A	メルキャヌス・ラトウベリッサの陳述書「スマトラ」島に於けるB級犯罪口述書 (捕虜殺害)	○	○
5623	1771	カレルヘンドリック・エミール・クリヂグズコン陳述書(捕虜)「スマトラ」島に 於けるB級犯罪口述書(収容所)	○	○
5625	1774	エル・ペエンメンス訊問調書(インドネシアに於ける残虐行為)	○	○
5632	1777 A	宣誓口供書 ヨセフ・ホッドフリード・ベンテルス「スマトラ」島に於けるB級犯 罪口述書(一般民間人)	○	○
5634	1778 A	フォッポレンス・クレーマー宣誓陳述書(ベマタンシアタン刑務所ノ悲惨ナル状態) 「スマトラ」島に於けるB級犯罪口述書(一般民間人)	○	○
5635	1775 A	シボルガニ於ケル日本軍憲兵隊ノ行ヘル残虐行為ニ関スル報告 1945年12月 24日 スイカー	○	○
5636	1776 A	宣誓口供書 ユリアス・コーネリス・テールリンク「スマトラ」島に於けるB級犯 罪口述書(一般民間人)	○	○
5645		アルフレッド・ノーマン・ウートン口供書	○	○

5646	1772 A	宣誓口供書 チャールズ・ヨンゲネールの証明書付 アー・エー・プリンス・ルル ボーンの陳述書	○	○	
5680		B 及び C 級犯罪 蘭領印度諸島 証拠概略 1946年12月ジェイ・エス・スイ ニンゲダムステ		○	
5681	1703	蘭領印度及びピル哇 証拠概略「ジャバ」島に於ける B 級犯罪に関する証拠要約		○	

検 察 側 証 拠 書 類 第 6 8 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
5682	1779	B 及び C 級犯罪 蘭領印度諸島チモール及小スンダ諸島証拠概略 国際検察団和蘭 部 昭和21年12月	○	○	
5683	1687	B. C 級犯罪 蘭領印度 蘭領ボルネオ 概略	○	○	
5684	1796	セレベス周辺諸島(日本海軍による占領) I 俘虜(殺害・収容所・死刑) II 一般民 間人(A. 被収容者・B. 抑留されざる者 1. トケイ隊 2. 殺戮) 陸軍中佐 T. S. シンニンゲ・ダステム	○	○	
5685	1766	スマトラ地区ニ於ケル日本軍ノ常習的戦争犯罪並ビニ反人道的犯罪ニ関スル概略	○	○	
5700	1728 A	ドウラーマロ宣誓口供書「ジャバ」島に於ける B 級犯罪口述書(各地域派遣ノ苦力 虐待)	○	○	
5701	1729 A	カサ・ビン・サンタミ宣誓口供書「ジャバ」島に於ける B 級犯罪口述書(各地域派 遣ノ苦力・虐待)	○	○	
5702	1730 A	サンラヴィ・ビン・ウィリアスチャ宣誓口供書「ジャバ」島に於ける B 級犯罪口述 書(各地域派遣ノ苦力・虐待)	○	○	
5703	1733 A	アチマド・ビン・ケタイエータ宣誓口供書	○	○	
5704	1734 A	ゲーデル宣誓口供書「ジャバ」島に於ける B 級犯罪口述書(各地域派遣ノ苦力・ 虐待)	○	○	

5705	1735 A	ビーゼング・アリアス・タフヒール宣誓口述書「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(各地域派遣ノ苦力・虐待)	○	○	
5706	1731 A	パルマシ・ビン・ジョタルフ宣誓口供書	○	○	
5707	1736 A	証明書 宣誓口供書(レポーに和蘭戦争犯罪調査団長特務大尉「ヨセフ・ゴット・フリート・ベンデルス」ガ質問セル所)「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(各地域派遣ノ苦力・虐待)	○	○	
5708	1744	コベル宣誓陳述書「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(各地域派遣ノ苦力・虐待)	○	○	
5709	1726	緬甸暹羅鉄道一苦力労働「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(各地域派遣ノ苦力虐待)	○	○	
5710	1727 A	チョクデヤカルタニ於ケル奴隷労働等ニ関スル日本人ノ報告ニ関スル濠軍東南アジア司令官ノ報告	○	○	
5711	1737 A	農夫「タヒル」の宣誓口供書「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(各地域派遣ノ苦力・虐待)	○	○	
5712	1732 A	セラマツト・ビン・ユノースの宣誓口供書	○	○	
5714	1741 A	宣誓口供書 ビー・シー・エイ・ボッシュャールド「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(各地域派遣ノ苦力・虐待)	○	○	
5715	1745	東南亞細亞地区最高指揮官司令部第9陸軍写真班 1945年(昭和20年)9月19日「セレンタ」	○	○	写真付
5716	1773 A	宣誓口供書 1946年4月26日 アミール・ビン・サロディン「スマトラ」島に於けるB級犯罪口述書(一般民間人)	○	○	
5722	1743 A	メダリ宣誓陳述書「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(各地域派遣ノ苦力・虐待)	○	○	
5723	1738 A	ダッヒラン宣誓口供書「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(各地域派遣ノ苦力・虐待)	○	○	
5724	1739 A	アマツナヴィ宣誓口供書「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(各地域派遣ノ苦力・虐待)	○	○	
5726	1742 A	アブデッル・マチッド 証人訊問書「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(各地域派遣ノ苦力・虐待)	○	○	

5728	1740	デーネンク、ニカ宣誓口供書「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(各地域派遣ノ苦力・虐待)	○	○
5731	1746	和蘭軍情報部 チャールス・ヨングネイル ニヨル陳述書「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(日本憲兵隊ニヨル拷問)	○	○
5732	1761	宣誓供述書「バタビア」和蘭軍諜報隊戦争犯罪部長 蘭領印度陸軍大尉「チャールス・ヨンゲネール」	○	○
5733	1758 A	山本茂一郎宣誓口供書 1946年5月29日シンガポール・チャンキ監獄にて「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(日本憲兵隊による拷問)	○	○
5734	1759 A	ch.o.ヴァン・デア・プラス博士陳述書「ジャバ」島におけるB級犯罪口述書(日本憲兵隊による拷問)	○	○
5735	1707 A	ピーター・ゲルハート・デ・グリース宣誓口供書「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(捕虜の殺害)	○	○
5736	1679	蘭印政府宛O.E.W.シックスからの書簡(赤十字社→)	○	○
5737	1677	蘭領東印度政府司法省「移動者事務局」「死亡者詮索」部作成の概算公報	○	○
5738	1681 A	宣誓口供書 中田正之(ジャバ収容所長)	○	○
5739	1680 A	宣誓口供書 齋藤正統(ジャバ収容所長)	○	○
5740	1762	アーサー・シーフォース・ブラッバーンノ陳述 "NIPPON Presents"の説明	○	○
5741	1754 A	正義ノ為ニ 戦争犯罪捜査局調書 A.P.ファンモーク夫人宣誓口供書	○	○
5742	1755 A	1946年2月4日 エス.エム.イエ.イデンブルグ夫人宣誓口供書	○	○
5743	1756 A	F.H.ローパッティの宣誓口供書「ジャバ」島におけるB級犯罪口述書(日本憲兵隊による拷問)	○	○
5744	1757 A	宣誓口供書 チャールス・ヨンゲネール「ジャバ」島におけるB級犯罪口述書(日本憲兵隊による拷問)	○	○

検 察 側 証 拠 書 類 第 6 9 卷

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
5745	1748 A	宣誓口供書 チャールズ・ヨンゲネール「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書 (日本憲兵隊による拷問)	○	○	
5746	1747 A	宣誓口供書 チャールズ・ヨンゲネールの証明書付 法学士・法学博士「ハーエー・ ボイゼグアイン」に依る報告書		○	
5747	1750 A	リー・ベング・ギョックの陳述 証明書「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書 (日本憲兵隊による拷問)	○	○	
5748	1749 A	宣誓口供書 チャールズ・ヨンゲネール「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書 (日本憲兵隊による拷問)	○	○	
5750	1751 A	宣誓口供書(エフベルト・デッ・フリース)「ジャバ」島におけるB級犯罪口述書 (日本憲兵隊による拷問)	○	○	
5751	1752 A	在バンドン憲兵隊ニ関スル スイス人技師フラックス博士ノ報告	○	○	
5754		H. E. エレゲレン夫人ノ訊問梗概「ジャバ」島におけるB級犯罪口述書(日本憲 兵隊による拷問)	○	○	
5756	1760 A	1945年10月20日 勝村憲兵少佐ヨリ手交セラレタル15頁ノ陳述書ノ翻訳 「ジャバ」島におけるB級犯罪口述書(日本憲兵隊による拷問)	○	○	
5757	1682	1946年10月31日付スエーデン公使ヨリ日本外務省宛文書	○	○	
5758	1763	宣誓口供書 バタヴィア ジェーシム・ファンデル・レーフ	○	○	
5759	1764	「日本国紹介」と題するフィルムについての書類	○	○	
5762	1720 A	T. C. R. フォーマーノ報告「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(民間の抑留 者の虐待・強姦)	○	○	

5763	1721	警官ジェラルド・ランダの宣誓陳述書「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書 (民間抑留者の虐待・強姦)	○	○
5765	1722 A	A.M.ドルング夫人宣誓口供書(婦人収容所ニ就テ)「ジャバ」島に於けるB級 犯罪口述書(民間抑留者の虐待・強姦)	○	○
5766	1723	1946年(昭和21年)4月10日附ヨハンナ・ハウリナリッセラーダ嬢ノ訊問 宣誓概要「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(民間抑留者の虐待・強姦)	○	○
5767	1719 A	アリダ・ホルスト宣誓口供書「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(民間抑留者の 虐待・強姦)		○
5769	1724 A	「カラング・パナス」及「ランパサリー」婦人収容所ニ於ケル婦人取扱ニ関スル概 観「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(民間の抑留者の虐待・強姦)	○	○
5770	1725	訊問調書 1946年(昭和21年)5月16日 イエ・ベールマン旧姓バレーホ ーイェン「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(民間抑留者の虐待・強姦)		○
5771	1678	東京駐在瑞典国派遣団の公式記録の一部 日本外務大臣より日本駐劄瑞典公使宛の 覚書	○	○
5772	1683	重光外務大臣宛スウェーデン代理公使リパ・オロフの書簡(1946年10月31日 付)	○	○
5773	1684	外務大臣重光葵よりスウェーデン特命全權公使ヴィダール・バック	○	○
5776	1709	爪哇ニ於ケル日本人戦争犯罪事件ニツイテ宣誓供述書 ベッド・フォード・オーク レイ ハイツ・コッテジ「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(俘虜収容所に於け る虐待)	○	○
5777	1706 A	蘭印軍大尉レーダー報告(カリチャチ大量虐殺ニ関シ)「ジャバ」島に於けるB級 犯罪口述書(捕虜の殺害)	○	○
5778	1704 A	戦犯犯罪調査局調書 1946年3月1日「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書	○	○
5779	1705 A	A.モエス宣誓口供書「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(捕虜の殺害)	○	○

検 察 側 証 拠 書 類 第 7 0 卷

P. D. No	EX. No	内 容	英 文	和 文	備 考
5780	1708 A	チャールス・ヨンゲンール宣誓陳述書「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(俘虜収容所に於ける虐待)海兵隊軍曹コルネーリス・ヴィジルブリーフの報告書	○	○	
5781	1713 A	和蘭軍少尉G. J. チゼヴェルト宣誓口供書「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(逃亡逮捕セラレタル俘虜処刑)	○	○	
5782	1714 A	「ドーンボス」ノ報告一テイマヒ第6大隊収容所ノ処刑一1945年10月20日附収容所命令ニヨル俘虜2名ノ処刑ニ関スル略報「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(逃亡逮捕セラレタル俘虜処刑)	○	○	
5783	1715	蘭印軍予備將校F. H. ターフィーチ博士陳述書	○	○	
5784	1716 A	蘭印軍医將校F. M. ウォンク ノ報告「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(逃亡逮捕セラレタル俘虜処刑)	○	○	
5786	1718 A	調書 1946年1月12日 コルネリス・ブルーアルチェス「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(逃亡逮捕セラレタル俘虜処刑)	○	○	
5787	1711	英国軍医中佐C. W. メイシー宣誓口供書「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(俘虜収容所における虐待)		○	
5788	1712	日本ノ戦争犯罪及ビ「ジャワ」「バンドン」ノ「エル・オージー・ランドソップ」収容所ニ於ケル俘虜虐待ニ関スル事項「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(俘虜収容所に於ける虐待)	○	○	
5789	1710	宣誓口供書 ローイ・パルマー・ブシコック「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(俘虜収容所に於ける虐待)		○	
5802	1783 A	セバステアノ グラカノ 訊問概要「チモール」・小「スンダ」に於けるB級犯罪口述書(捕虜虐殺)	○	○	
5803	1789	宣誓口供書 カルロス・ホセ・セキアラ「チモール」・小「スンダ」に於けるB級犯罪口述書(一般民間人)	○	○	
5804	1790 A	アーネスト・シモースの陳述 エイリュウの日本軍 1942年9月15日「チモール」・小「スンダ」に於けるB級犯罪口述書(一般民間人)	○	○	

5805	1791	「ウィリアム・アンダーソン・ビーティ」の陳述 1946年9月27日メルボルンにおいて「チモール」・小「スンダ」に於けるB級犯罪口述書(一般民間人)	○	○
5806	1792 A	ルイアントニオスメスロドリゲスの陳述 ディリでの日本軍 1942・2・20「チモール」・小「スンダ」に於けるB級犯罪口述書(一般民間人)	○	○
5807	1795 A	通訳チュン・ハイ・チェンの陳述 俘虜に対する暴力「チモール」・小「スンダ」に於けるB級犯罪口述書(一般民間人)	○	○
5921	1698	訪問調書 林秀一 1946年3月16日 蘭領「ボルネオ」B級犯罪書証	○	○
5922	1697 A	ボルネオ新聞英語版ノ抜萃 蘭領「ボルネオ」B級犯罪書証	○	○
5951	1685 A	宣誓口供書 イェ・エム・イエムルレル	○	○
5952	1686 A	宣誓口供書 タン・エング・トンク 蘭領「ボルネオ」B級犯罪書証	○	○
5953	1695 A	フット夫人ノ陳述書 蘭領「ボルネオ」B級犯罪書証	○	○
5958	1699 A	本吉正次ニ対スル起訴	○	○
6001	895	1941年12月以前の日本軍コロール島に於ける軍事施設に関する証言「ジョゼブウエルベラウ」の証言	○	○
6002	896	オークスト・リュームの取調べ証書	○	○
6010		米国海軍作戦根拠地海軍3237号 日本陸軍がエニウエトック環礁に上陸した証言 1946・3・12	○	○
6011		エニウエトック環礁エンゲビ族酋長「アブリーム」の宣誓	○	○
6012	897	モセス・イチロウ宣誓供述書 ウマン島軍備に関して	○	○
6013	894	アルフレッド・マイロ供述書	○	○
6014	898	「リーナ・モスキット」訪問調書	○	○
6015	899	アターエラ訪問調書	○	○
6016		ミチュフ・ナチュラ訪問調書	○	○

6017	691	ビンセンティ・デリオン・グェレロ 供述書	○	○	
6018	893	「ホセ・エス・パンジュリナン」陳述書	○	○	
6019	885	Ignacio Benavente 陳述書	○	○	和文一部欠落
6020	886	1946年3月16日附エリアスビーサブラン陳述書(サイパン要塞ニ関シテ)	○	○	
6021	890	CONCEPCION BLANCO 陳述書	○	○	和文一部欠落
6022	883	マヌエル・ブランコ陳述書(南洋諸島ニ於ケル日本ノ軍備ニ関シテ)	○	○	
6023	887	1946年3月16日 マシアノ・パンケリノン陳述書(サイパンノ軍備ニ関シテ)	○	○	和文一部欠落
6024	884	若松真陳述書(南洋諸島ニ於ケル日本ノ軍備ニ関シテ)1946年3月16日附	○	○	和文一部欠落
6025	888	Antonio Angailen 陳述書	○	○	和文一部欠落
6026	889	Juan M. Ada 陳述書	○	○	和文一部欠落
6027	692	Francisco de Borje の宣誓口供書	○	○	和文一部欠落
6028	907	LAJINA の証言	○	○	和文一部欠落
6029		日本軍の上陸ニ関する証言 AJIDRIK の証言	○	○	和文一部欠落
6030	901	証言 FERDINAND Z EMIZ	○	○	断片
6031	903	口供書「ラーネン」の証言	○	○	
6032	902	口供書(マーシャル群島ヤルイト環礁イメジ島の土人が証言す)	○	○	和文一部欠落
6250		1934年10月29日「クラリーヂ」に於ける米国及び日本代表者間会談覚書 抜萃	○	○	
6251	1251	国務省会議録第24号 ロンドン軍縮会議1935年(昭和10年)アメリカ合衆 国代表委員報告書 1936年(昭和11年)ノロンドン海軍条約原文及び他ノ 文書	○	○	
5785	1717 A	蘭印軍F. J. ターマー陳述書「ジャバ」島に於けるB級犯罪口述書(逃亡逮捕セ ラレタル俘虜処刑)	○	○	

検察側証拠書類 第71巻

F. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
6254A		スターリング・タッカー・ディブレルの陳述	○	○	
6254B		WOTJE 島地図 ジェームス・J・ロビンソン宣誓供述書		○	P. I 欠落
6254C		スターリング・タッカー・ディブレル陳述 証明書 ウォッチェ (WOTJE) 島分図	○	○	
6255A	1254A	軍事施設艦船行動其の他に関する日本の通報	○	○	
6255C		軍事施設艦船行動其の他に関する日本の通報 (13頁)	○	○	
6225D		軍事施設艦船動静其の他に関する日本の通報 (14頁)	○	○	
6225E		軍事施設艦船動向其の他に関する日本の通報 (21頁)	○	○	
6225F	1261	軍事施設艦船行動等に関する日本側電報 発ホノルル 宛東京		○	
6225G		軍事施設艦船動向等に関する日本側の通報	○	○	
6225H		軍事施設艦船動向等に関する日本側の通報	○	○	
6225I		軍事施設及び船舶の移動等に関する日本のメッセージ	○	○	
6256A	1259	1942年1月1日附 オットー・キューン宣誓口供書	○	○	
6256B	1260	「オットキューン」宣誓口供書 布哇ホノルル1941年(昭和16年)1月3日(1942)	○	○	
6257	1249	1931年乃至1941年ノ日本海軍ノ戦備ニ関シ準備サレタル陳述並ニ報告 亜米利加合衆国退役海軍大将「ゼームス・オー・リチャードソン」ニヨリ準備サレタル陳述並ニ報告	○	○	
6258		真珠港の見取図並びにその証明書		○	

6260※	916	1931年及1945年に於ける主なる日本軍艦の保有量及建造中量	○	○	
6261※	915	1934.12.31~1945.8.15マデニ於ケル日本海軍軍人ノ総増加員数表	○	○	
6262※	913	1931年~1945年日本海軍戦艦ニ関スル表	○	○	
6263※	918	1931年~1945年ニ於ケル航空母艦	○	○	
6264※	917	1931年~1945年ニ於ケル軽巡及重巡ニ関スル表	○	○	
6901		序論		○	
6902		日本憲法と政府	○	○	英文第1ページ欠落
6904		劈頭の辞		○	
6904B		支那に於ける一般人其ノ他に対する残虐行為及び阿片其の他の麻薬使用の件 Che chun Hsiang 検察官に依る論告		○	
6905		裁判所の所長及所員へ 荒木貞夫以下8名の陳述書		○	

検察側証拠書類 第72巻

P. D. No.	EX. No.	内 容	英文	和文	備 考
6906		冒頭陳述 中国並ニ大東亞ニ於ケル経済的侵略 1932年ヨリ1945年ニ至ル		○	
6907		日・独・伊間ノ協同(第1編) 序論	○	○	
6908		合衆国及大不列顛対日本の関係		○	英文P45のみあり
6909		蘇聯邦ト日本トノ関係	○	○	
6910		仏領印度支那ニ対スル侵略 劈頭陳述		○	

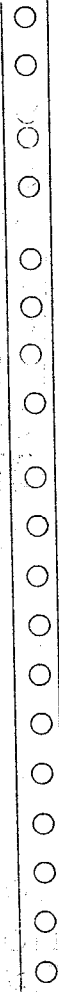
検察側証拠書類 第73巻

P. D. No	EX. No	内 容	英文	和文	備 考
6911		冒頭陳述	○	○	正誤表つき
6912		劈頭陳述 主題 対和蘭侵略	○	○	
6913	1.3.5.4	一般C級犯罪及び比律賓ニ於ケルB級D級犯罪ニ対スル比律賓陪席検事ノ冒頭陳述 1946年12月 国際検察部	○	○	
6914		冒頭陳述 訴因第53、第54、第55ニ関スル件 戦争法規及慣例違反 俘虜・ 民間抑留者及占領地区住民ニ対スル罪科		○	
7005		朕新聞紙等掲載制限令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム		○	
7050		映画非常時日本 台本		○	
7050-(1)		映画「非常時日本」中荒木陸相演説		○	

検察側証拠書類 第74巻

P. D. No	EX. No	内 容	英文	和文	備 考
7101 (1.39)		映画関係法令		○	
7102		治安維持法		○	
7103		出版法		○	
7104		映画法		○	
7106 (1-16)		陸軍現役将校学校配属令 大正14年4月13日勅令→改正昭和4年		○	
7107		青年訓練所規定		○	

- | | | |
|----------------|-----|---------------------------------------------------|
| 71109 | | 朕 青年学校教練科等査閲令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム |
| 71110 | 135 | 昭和13年11月30日 青年訓練所の軍事教練査閲に関する勅令 勅令第739号 |
| 71111 | | 青年学校教練科等査閲規程左ノ通定ム |
| 71112
(1.5) | | 青年学校教練科等査閲規定中左ノ通改正ス 昭和15年4月12日 陸軍大臣
畑俊六 |
| 71113 | | 時局ニ鑑ミ学校当事者ノ学生生徒薰化啓導方 |
| 71114 | | 教育勅語 |
| 71118 | | 朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル軍機保護法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム |
| 71119 | | 朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル治安警察法ヲ裁可シ茲ニ公布セシム 明治33年3月9日 内閣總理大臣山県有朋 |
| 7122 | | 情報宣伝ニ関スル実施計画綱領(案)昭和11年5月20日 |
| 7129 | | 法律第25号 軍用資源秘密保護法 |
| 7501 | 121 | 履歷書 大島浩 |
| 7502 | 125 | 履歷書 白鳥敏夫 |
| 7503 | | 荒木貞夫履歷書 |
| 7505 | | 橋本欣五郎履歷書 |
| 7506 | | 畑俊六履歷書 |
| 7507 | 108 | 履歷書 広田弘毅 |
| 7508 | | 星野直樹履歷書 |
| 7509 | | 木戸幸一履歷書 |
| 7510 | | 松岡洋右履歷書 |



8004B	1911	支那(含満洲)に於けるB級犯罪書証 ロージャ・ディック・バムフォードの証言	○
8006	1917A	宣誓口述書 元米国人俘虜 Thqs. H. Hewlett の訊問書	○ ○
8007A	1897	支那(含満洲)に於けるB級犯罪書証 ジョン・フランシス・ライアの証言	○ ○
8016	1932	宣誓口述書 サイリル・エドワード・ビュック 日本内地に於ける捕虜虐待証書	○ ○
8022	1918	日本内地に於ける捕虜虐待証書 「シツ・デュネラル病院の患者」の証言	○ ○
8024	1904	支那(含満洲)に於けるB級犯罪書証 民間人ジョン・ロバーツ・デ・ラーラの証言(抜萃)	○ ○
8026	1920	日本内地に於ける捕虜虐待証書 アイアン・ダグラス・ニューランズの証言	○ ○
8029	1945	日本内地に於ける捕虜虐待証書 ジェームス・フォース・ローレンスの証言	○ ○
8033	1896	支那(含満洲)に於けるB級犯罪書証 ロバート・マカロ・ブラウントの証言	○ ○
8036	2035	宣誓口供書 ロバート・ヒューランカスター	○ ○
8043	1934	日本内地に於ける捕虜虐待証書「ウィリアム・ルドルフ・レイボルド」の証言	○ ○
8051	1930	日本内地に於ける捕虜虐待証書 テルピン・ルイス・オウエン伍長の証言	○ ○
8063	1911	支那(含満洲)に於けるB級犯罪書証 ジョン・エフ・グロナーの証言	○ ○
8065	1947	日本内地に於ける捕虜虐待証書「チャールス・ユードン・モラー」の証言	○ ○
8071	1927	日本内地に於ける捕虜虐待証書 ジョン・ブリヤン・リップードテの証言	○ ○
8072A	1899	支那(含満洲)に於けるB級犯罪書証 モリス・リットマンの証書	○ ○
8074	1938	日本内地に於ける捕虜虐待証書「ウィリアム・ロバート・リンダフェルト」の証言	○ ○
8077	1933	日本内地に於ける捕虜虐待証書「アーサー・ローレンス・マーハコ」の証言	○ ○
8078	1940	日本内地に於ける捕虜虐待証書「ウィリアム・マホニー」軍曹の証言	○ ○
8082	1946	日本内地における捕虜虐待証書 1945年9月8日 ジェン・マーシャル供述書抜萃	○ ○
8095	1941	訊問調書 マシュー・デイビッド・モンク	○ ○
8104	1948	日本内地に於ける捕虜虐待証書「アレクザンダー・メレデス」の証言	○ ○
8107	1953	日本内地に於ける捕虜虐待証書「マイケル・デー・ロバートソン」の証言	○ ○
8116	1951	日本内地に於ける捕虜虐待証書アラン・バーケリィの供述書	○ ○

8117	1919	日本内地に於ける捕虜虐待証書 ウィリヤム・ジョンソンの証言	○	○
8118	1943	日本内地に於ける捕虜虐待証書 ロビン・ロバートソン・ペトリーの証言	○	○
8119	1950	日本内地に於ける捕虜虐待証書 フランシス・J・マレーの陳述	○	○
8123	1907	支那(含満洲)に於けるB級犯罪書証 ジョーン・ブラウン・レスリー・アンダーソンの証言	○	○
8127	1895	支那(含満洲)に於けるB級犯罪書証 デュイムス・スコット・ブラウニングの証言	○	○
8130	1898	支那(含満洲)に於けるB級犯罪書証 ホカール・エドワード・ステグマイヤーの証言	○	○
8136	1915	宣誓供述書 ステフェン・マーティン・スイヴコウ 支那に於ける捕虜虐待証書	○	○
8137	1890A	ジェームス・ヘクター・コールの証言書 支那に於けるB級犯罪書証	○	○

検察側証拠書類 第76巻

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
8142	1931	日本内地に於ける捕虜虐待証書「ジェームス・ガットレー」の証言	○	○	
8146		ヴィンドン陳述書	○	○	
8148		「ルベレ・フォイレープ」の陳述書	○	○	
8151		ジョセフレイエッツイ・デタロの陳述書	○	○	
8161	1952	日本内地に於ける捕虜虐待証書 ジョン・ウィリアム・ヴィネーの陳述書	○	○	
8163	1954	日本内地に於ける捕虜虐待証書 ハリー・スレーター・ジュニアの陳述	○	○	
8171	1942	日本内地に於ける捕虜虐待証書 陸軍伍長「アレクスイス・ジューモット」の証言	○	○	
8172	1893	支那(含満洲)に於けるB級犯罪書証 エドワード・エリック・ウィリアムソンの陳述書	○	○	
8175	1894	支那(含満洲)に於けるB級犯罪書証「ウィリアム・スレイドバシギ」の証言	○	○	
8178	1888A	宣誓口供書 アーネスト・フィリップ・ヒッグス「支那(含満洲)」に於けるB級犯罪書証	○	○	

8180	1889A	支那(含満洲)に於けるB級犯罪書証 アーネスト・ソロモンの証言	○	○
8193	1903	HAROLD JACOB KLOTA 陸軍中尉ノ陳述書 支那(含満洲)に於けるB級犯罪書証	○	○
8194	1902	支那(含満洲)に於けるB級犯罪証書 ハロルド・フランク・ホーグの証言	○	○
8197	1937	日本内地に於ける捕虜虐待証書 ヘンリー・ホレース・ポーレーの証言	○	○
8203	1949	宣誓訊問調書 アーノルド・フレイザー・キャディ 日本内地に於ける捕虜虐待書証	○	○
8206	1913	支那(含満洲)に於けるB級犯罪書証 HERMAN EALI 伍長	○	○
8209	1900	ウインフィールド・スコット・カンニンガムの陳述書 支那(含満洲)に於けるB級犯罪書証	○	○
8211A	1905	支那(含満洲)に於けるB級犯罪書証 エルマー・アルフレッド・モースの証言	○	○
8218	1912	支那(含満洲)に於けるB級犯罪書証 ジェームス・アレキサスダー・ギルバートの証言	○	○
8220	1906	支那(含満洲)に於けるB級犯罪書証 ヘルマン・E・フェイアルの証言	○	○
8223	1925	日本内地に於ける捕虜虐待証書 ヨリオ・オギヤ訊問調書	○	○
8234	1936	日本内地に於ける捕虜虐待証書 フィリップ・イー・サンダースの証言	○	○
8258	2111	ウィリヤム・ジェー・バルカス, エドウィン・エイ・ペトリ, ユージン・ニールソン, アルバート・ディー・パチエコハの宣誓書	○	○
8260	2112	宣誓口供書 フェーン・ジョセフ・バーター	○	○
8263	1928	日本内地に於ける捕虜虐待証書 ジョン・パウド・マリンスの証言	○	○
8266	1944	日本内地に於ける捕虜虐待書証「オリヴァ・エドウィン・ローバン」の証言	○	○
8279	1901	支那(含満洲)に於けるB級犯罪書証 C・D・スミス海軍中佐の陳述書	○	○
8284	1929	宣誓口供書 オウエン・R・コーバート一等兵 日本内地に於ける捕虜虐待書証	○	○
8285	1926	日本内地に於ける捕虜虐待証書 マーシャル・シドニー・シェルハートの証言	○	○

英文P1~P4欠落

8289	1935	日本内地に於ける捕虜虐待証書 ジョージ・マックライの証言	○	○	
8291	1939	日本内地に於ける捕虜虐待証書「フランク・エドワード・ピック」の証言	○	○	
8312	1914	支那(含満洲)に於けるB級犯罪書証	○	○	前半欠落
8349	1955	日本内地に於ける捕虜虐待書証 フィリップ・E・サンタース陳述書	○	○	
8350	2110	Rufus W. Smith の宣誓書	○	○	
8379	2098	1944年3月18日沈没セル汽船「ナンシー・モラー」号三等運転士「S・K・チュラ」ノ陳述書	○	○	
8380	2094	1943年12月14日沈没ノ汽船「デイジイ・モラア」号ノ船長「R・J・ウィークス」ノ陳述書 印度洋 残虐事件に関する英国政府抗議の口供書	○	○	
8381	2095	1944年2月24日沈没「プリティムンヒバルリ」ノ公文航海日誌ヨリ抜萃 印度洋 残虐事件に関する英国政府抗議口供書	○	○	
8383	2097	1944年2月29日沈没セル汽船「アスコット」号襲撃報告	○	○	
8382	2096	1944年2月26日撃沈セラレタ サトレツチ号機関長P・H・リーズの陳述書	○	○	

検察側証拠書類 第77巻

P. D. No	EX. No	内 容	英文	和文	備 考
8388	2099	宣誓供述書 F・デ・ジョング 印度洋 残虐事件に関する英国政府抗議ノ口供書	○	○	
8389	2087	宣誓口供書 チャールス・E・パイル 印度洋 残虐事件に関する口供書	○	○	
8390		陳述「ロバート・カルビン・バトラー」	○	○	
8391	1916	証拠概略	○	○	
8392	1887	支那(含満洲)に於ける書証要約 アーネスト・P・ビックス 1946年3月4日	○	○	
8393		陳述書(宣誓口供書)チャールス・H・ロード 印度洋 残虐事件に関する口供書	○	○	
9394		宣誓口供書 ジェイムス・ディクソン・ビーヤスン	○	○	

8395		スイス公使ヨリ東京帝国外務省宛書簡(1944年9月15日付)	○	○	
8396		スイス公使ヨリ帝国外務省宛書簡(1944年9月15日付)	○	○	
8397		スイス公使ヨリ重光葵外務大臣宛書簡(1944年6月19日付)	○	○	
8398		スイス公使館ヨリ日本外務省ヘノ通帳(1945.4.23)	○	○	
8399		東京外務省 口述覚書(1945.5.12)	○	○	
8400	2092	スイス公使ヨリ重光外務大臣宛書簡(1944年6月5日付)	○	○	
8401		スイス公使ヨリ重光外務大臣宛書簡 1944年6月19日付	○	○	
8402		東京帝国外務大臣宛スイス公使館の書簡 1944年12月29日付	○	○	
8404		帝国外務省ヨリノ口上書(米国汽船ジャン・ニコレット号乗組員ノ取扱振ニ関スル 米国政府抗議)	○	○	証明書つき
8405		巫米利加合衆国海軍大佐「ジョン・D・マーフィ」ノ口供書	○	○	
8408		居秘第158号 口上書 端西国公使館口上書	○	○	
8409		スイス公使館ヨリ帝国外務省宛書簡(1945年4月19日付)	○	○	証明書つき
8410		スイス公使ヨリ東郷茂徳外務大臣宛書簡(1942年3月19日付)	○	○	
8411		スイス公使館ヨリ帝国外務省宛書簡(1945年4月28日付)	○	○	証明書つき
8412		スイス公使ヨリ外務大臣重光葵宛書簡(1945年2月21日付)	○	○	
8413		スイス公使館ヨリ日本外務省ヘノ書簡(1945年2月20日)	○	○	
8414		帝国外務省ヨリ米国政府ヘノ口上書(1945年5月15日)	○	○	和文に日付なし
8415		重光外務大臣ヨリスイス特命全權公使 カミーユ・ゴルジュ宛書簡(昭和19年 11月28日付)	○	○	
8416		重光外務大臣ヨリスイス国特命全權公使カミーユ・ゴルジュ宛書簡(昭和19年 11月28日)	○	○	
8417		スイス公使館ヨリ日本外務省ヘノ抗議 1945.6.9 1945.6.8	○	○	
8418		瑞西国公使館ヨリ日本当局ニ(アメリカ人俘虜ノ報告ヲスルヨウ日本当局ニ求メル) 1945年6月26日	○	○	
8421		東京帝国外務省宛電報 軽井沢ニテ 1945年5月23日	○	○	
8422	2053	軽井沢1945年7月27日 東京帝国外務省宛書簡	○	○	証明書つき

8423	2050	スイス公使館より東京帝国外務省宛書簡(1944年11月1日付)	○	○	証明書につき・和文 一部欠落
8424	2049	スイス公使館より帝国外務省宛書簡(1944年9月25日付)	○	○	
8425	2052	スイス公使館より帝国外務省宛書簡(1945年5月15日付)	○	○	
8426	2051	スイス公使館宛東京帝国外務省宛書簡(1945年3月19日付)	○	○	
8427	2042	スイス公使より谷正之外務大臣宛書簡(1942年10月7日付)	○	○	
8428	2046	スイス公使館より東京帝国外務省宛書簡(1943年10月8日付)	○	○	
8429	2048	スイス公使館より東京帝国外務省宛書簡(1944年2月14日付)	○	○	
8430	2047	スイス公使館より東京帝国外務省宛書簡(1943年12月10日付)	○	○	
8431		外務大臣東郷茂徳よりスイス特命全權公使カミーユ・ゴルジュ宛書簡	○	○	
8432A	2040	外務大臣東郷茂徳よりスイス特命全權公使カミーユ・ゴルジュ宛書簡 1942. 5.26~1945 スイス公使 外務省間往復文書	○	○	
8432B		条三普通第362号「ウエーキ」島ヨリ他ニ移送シタル俘虏, 案否ニツイテ	○	○	
8433	2039	スイス公使より東郷茂徳宛書簡(1942.5.26付)	○	○	
8434		スイス公使館より東京帝国外務省宛書簡(1945.6.27付)	○	○	
8435		東京帝国外務省宛書簡 瑞西公使館 1945.1.29	○	○	
8436	2043	ウエーキ島に於ける米国人抑留者氏名についての書類 1943.4.8	○	○	
8437	2044	ウエーキ島に於ける米国非戦闘員に関する書類 1943.4.22	○	○	
8438	2045	スイス公使館より東京帝国外務省宛書簡	○	○	
8439	2036A	口供書 酒井原繁松	○	○	

検察側証拠書類 第78巻

P. D. No	EX. No	内 容	英 文	和 文	備 考
8440	2036B	陳述書 海軍少尉橋本	○	○	
8441	2036C	海軍大尉佐藤寅司の供述書	○	○	
8443		東京 1942年1月21日 スイス公使から外務大臣東郷茂徳閣下宛書簡	○	○	
8444	2055D	阿部「コン」の陳述	○	○	
8445	2041	1942.9.21 スイス公使より外務大臣谷正之宛書簡	○	○	
8446	2055B	小原大佐ノ陳述	○	○	
8447	2055A	海軍大佐「オバラヨシオ」ノ1942年10月「フェゼリン」島ニ於ケル米国俘虜処刑ニ関スル陳述	○	○	
8448	2055E	米国海軍予備役大尉「ウウイリアム・P・マホニイ」の口供書	○	○	
8449	2055C	1946年3月2日 海軍中将阿部孝壮に対する訊問	○	○	
8450	1910	支那・満洲に於けるB級犯罪書証	○	○	証明書付
8454		日本駐在瑞西公使館外国利益代表部 告知書(1945.6.1 怪井沢)	○	○	
8457		鈴木忠勝閣下宛書簡 怪井沢 1945年6月6日	○	○	
8462	2056B	米人俘虜処刑ニ関スル命令 的場少佐 1945年2月22日	○	○	
8463	2056A	第18日「マリアナ」諸島「グラム」合衆国太平洋艦隊「マリアナ」方面司令官 1946年9月6日金曜日 裁判午9時30分開延	○	○	
8469	2063	合衆国陸軍高級副官宛書簡 1945年5月2日 陸軍補給隊第205補助病院 「コンフォート号」攻撃に関する報告・死亡並ニ負傷者報告・其の他	○	○	

8470		米国太平洋艦隊及太平洋海域司令官本部 1945年5月19日 米国太平洋艦隊司令官より、米国陸隊司令官宛無電 件名 敵航空機ニ襲撃セラレタル米国船カムフォート号/GCMFORT/	○	○
8471A		和蘭軍病院船「オブ・テン・ノールト」号事件に関する報告書「オブ・テン・ノールト」号二等軍医「A. W. Xレマ」の陳述書 スラバヤ、1946. 5. 8	○	○
8471B		和蘭軍病院船「オブ・テン・ノールト」号事件に関する報告書 軍艦「ゲーツイテンガ」号艦長より日本帝国海軍大臣へ「ミジョン」1942. (S. 17) 2. 22	○	○
8471C		和蘭軍病院船「オブ・テン・ノールト」号事件に関する報告書「オブ・テン・ノールト」号船長より、日本総理大臣へ、 1944. 2. 23	○	○
8471D	2069	和蘭軍病院船「オブ・テン・ノールト」号事件に関する報告書 広島県知事の「オブ・テン・ノールト」号乗組員にする演説	○	○
8471E		和蘭軍病院船「オブ・テン・ノールト」号事件に関する報告書「オブ・テン・ノールト」号軍医長より日本国総理大臣へ 1944. 6. 29	○	○
8471F	2066	宣誓口供書 チャールス・ヨンゲネール	○	○
8472	2100	連合国船舶沈没一覧表 太平洋及印度洋区域 印度洋—日本潜水艦ニ依リ沈没センメラレシモノ	○	○
8473		和蘭病院船「オブ・テン・ノールト」号の爆撃及抑留に関する書簡 欧に普通第45号 外務大臣東郷茂徳より瑞典特命全權公使「ヴィダール・バッゲ」宛 1942. 6. 9	○	○
8474		オランダ軍病院船オブ・テン・ノートノ釈放取得ノ件に関する口上覚書(スエーデン公使館より日本外務省へ) 1942. 9. 28	○	○
8475		1942年5月28日付日本駐劄瑞典公使発、日本外務大臣宛書簡	○	○
8476		和蘭病院船「オブ・テン・ノット」号ニ関スル書類 1945. 10. 30	○	○
8477		瑞典外交代表「リバ・オロフ」の宣誓供述書 1945. 9. 10	○	○
8479	2106	陸軍中将大島浩ノ訊問 1946年2月1日	○	○
8480	2038	宣誓供述書 小原寧雄儀	○	○

8481	2104	ウィリアム・ソールターの口供書「ビハール」号に関する利根副長陳述	○	○
8482	2037	補給部陸軍中佐「リチャード・E・ルデイシル」の陳述書	○	○
8483	2054	出所及信憑証明書 スイス公使、外務省問往復文書	○	○
8485	2091	ゼイムスゼイ・ロビンソン亜米利加合衆国予備海軍大佐ハロコロンゼヤ区ワシントン所在、戦争犯罪局、海軍部部長トシテ、亜米利加合衆国政府ニ公的關係アル事ヲ証明 印度洋 残虐事件ニ関スル口供書	○	○
8487	2109	1944.12.14「バラワン」「ボートプリンセサ」収容所図	○	○

検察側証拠書類 第79巻

P. D. No.	EX. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
9002A	841	昭和12年6月23日 陸軍省 軍需品製造工業5年計画要綱	○	○	
9015A		日本官省書類調査目録 日本海軍工廠に関する報告	○	○	
9016	853	昭和16年11月1日 南方外貨表示軍用手票取扱手続について	○	○	
9016B		政府寄託保管品所在品別帳	○	○	
9017		昭和13年6月23日付 風見章発板垣征四郎宛依命通牒	○	○	
9018A		国家総動員上緊急を要する諸政策の徹底強行に関する件 内閣書記官長風見章より板垣征四郎への依命通帳 1938.6.23	○	○	
9022A	852	軍用手票ニ関スル件 昭和16年1月16日	○	○	
9023A		陸軍省・海軍省予算要約 1931年~1941年	○	○	
9027A	849	昭和17年3月11日付東京日日新聞抜萃 佐藤陸軍省軍務課長必勝の要諦力説 産業統制に関する演説	○	○	
9028 A. B. C		単位名目通貨の紙幣版面原版についての証明書	○	○	

検察側証拠書類 第80巻

P. D. No	EX. No	内 容	英文	和文	備 考
9030	858	主題一戦ニ対スル一般生産及財政準備(1925-1941年日本帝国ニ於ケル金ノ生産額図表一商工・大蔵両省所出)	○	○	

検察側証拠書類 第81巻

P. D. No.	EX. No.	内 容	英文	和文	備 考
9501		「極秘」1939年11月20日 EE893号 114号麻醉剤 2650号 に関する回答		○	
9502		米国首府ワシントン 財務省調査部関税部長宛 1937年7月27日 上海駐 在財務官M・R・ニコルソン		○	
9503		書翰 発 支那上海米国領事館気付財務官エム・アール・ニコルソン、宛 米国 ワシントン大蔵省調査部関税事務官「福建(省)ニ於ケル日本薬種商ノ側面観」 ナル報告書写ヲ送付スル 1937(昭12)4.15		○	
9504		支那上海にて 1936年11月24日 米国大蔵財務官補		○	
9505		コロンビヤ地区、ワシントン市税関代理部税関事務官宛 財務部関税局調査課 昭和11年7月10日		○	
9506		1936年4月20日 支那上海ニテ米国大蔵省財務官 華盛頓税関局内税関局 長宛書簡		○	
9507		華盛頓関税部税務司宛 1934年11月9日 中華民国上海、米国領事館気付 財務官エム・アール・ニコルソン 台湾及厦門産阿片取引ニ関スル件		○	
9508		1938年2月2日 M. R. ニコルソンよりワシントンD. C. 米国財務省内 関税事務官宛書簡 日本軍、南方に於て麻醉政策を取る		○	
9509		米国首府「ワシントン」國務省 1940年5月22日		○	
9510		熱河ニ於ケル罂粟栽培奨励用日本貸付金ニ関スル件 米国政府「ワシントン」関 税部関税部長宛 財務官M. R. ニコルソン		○	
9512		1936. 6. 6 財務省関税局調査係 中華民国上海駐在アメリカ領事気付財 務官代理E. M. ジャコブソン。ヨリ、米国首府「ワシントン」関税部関税部長 宛「北察哈爾六県陥落以來ノ同地ニ於ケル麻醉剤ノ脅威」ト題スル報告書		○	
9514		察哈爾及綏遠ニ於ケル 罂粟ノ栽培		○	

9 5 1 5	察哈爾・ 遠ノ阿片栽培	○
9 5 1 6	上海 1937年4月7日 北「察哈爾」ニ於イテ日本側ガ 粟栽培ヲ奨励ス	○
9 5 1 7	中国、上海1936年5月9日領事官付大蔵省事務官代理イー・エム・コブソン 華盛頓行政地区税務局税関事務官殿「ヒロイン」製造ニ関スル報告書ノ写	○
9 5 1 8	昭和11年7月30日 上海 ワシントンD・C税務部税関長宛 財務官M・R・ ニコルソン「北支ニ於ケル日本ノ麻醉政策」ト題スル報告書	○
9 5 1 9	支那上海、1937年1月11日「通懸及北平に於ける日本人の薬種密輸入機関」 に關する通信	○
9 5 2 0	濟南領事地域ニ於ケル阿片ノ栽培 販売及用途一政治月報から一1940年12 月9日	○
9 5 2 1	財務省 上海財務官室理事官へ 大北京ノ「ヘロイン」業ノ「親分」トシテノ二 人ノ支那人	○
9 5 2 2	關稅係リ關係事項（山東省に於ける麻醉劑に關する1941年3月28日附濟南 米國領事館よりの國稅長官宛電文写）	○
9 5 2 3	國務省（ワシントン）参照番号（FE 893、114 麻醉劑2947）阿片禁 止局ガ青島ニ新画セラル阿片制限旅行ニ付キテノ批評	○
9 5 2 4	滿洲ニ於ケル阿片専売	○
9 5 2 4 B	1934年7月11日附上海米領事館よりの報告書「滿洲に於ける阿片専売」に 關する米大蔵省の證明書	○
9 5 2 5	コロムビア地区ワシントン市麻醉藥事務官殿 1935年6月12日 關稅勵行 部長代シャーレー・ステーヴン（滿洲國遼寧省に於ける麻藥狀況に就て）	○
9 5 2 8	1936年11月25日受 關稅課調査班、ワシントン國務省への書簡 滿洲に 於ける阿片事情	○
9 5 3 0	1937. 2. 4 第14号文書（朝鮮ヨリノ對滿洲阿片積出高増加ニ關スル件） 京城米國總領事館 同封 京城日報ヨリノ完訳（阿片生産ノ増大）	○
9 5 3 2	奉天1937年10月27日「滿洲國阿片専売管理」ソノ組織ト活動及1937	○

年ニ於ケル「満洲国」ノ阿片状態 満洲国諸省ニ於ケル阿片耕作明細報告表付

9532B

1~2

9533

(1-4)

大蔵次官ヨリ長官殿宛書簡 1946年5月31日

在満洲国奉天米国総領事 1938年1月27日 満洲国阿片政策 ワシントン
國務卿閣下宛 米副領事ジョン・ダーヴィス

9534

(1、2)

1938年4月2日香港発 ジュネーヴ亜米利加総領事館内ステュアート・J.
フラー宛 アメリカ領事館附財務官M. R. ニコルソン(北支及満洲国ニ於ケル
阿片、麻薬ニ関スル資料)

9535-1

1939年5月16日 國務省 満洲国-4・FE893ニ関スル返信

9536

(1-13)

支那日本占領地域ニ於ケル麻薬ノ状況 ワシントン國務長官閣下宛書簡 ジョー
ゼフ・シー・グルー

9537

1937年3月23日 ワシントン國務省 六ト照会のこと 極秘 2月16日
附上海総領事ヨリノ第613号信書及びその同封書二通 支那に於ける麻薬及阿
片ノ輸送ニ関する件

9538

1~3

9540

1938年1月2日上海ニテ 地方阿片商人日本側へ対案ヲ提出ス

ワシントン財務省関税委員宛 米国財務省 在支那上海米国総領事1939年4
月1日(日本船が大連ヨリ阿片8百箱ヲ送リン件)

9541

上海、1939年8月4日 北米合衆国財務省、関税監督局長宛 中華民國上海
駐在米国財務官エム・アール・ニコルソンノ書簡 台湾ノコカイン工場ニ関する
件

9542-1

中華民國上海所在亜米利加合衆国総領事館内財務省財務官発1938年(昭和
13年)12月10日 華盛頓 財務省調査部関税局長殿宛書簡(上海に於ける
日本の阿片政策)

9543

1~2

中華民國上海所在「アメリカ」総領事館内財務省財務官発 1938年(昭和
13年)12月27日「コロンビア」区「ワシントン」大蔵省調査部関税局長宛
書簡(上海に於ける日本の阿片政策)

9544-1

中華民國上海所在米国総領事館内財務省財務官発 1939年(昭和14年)1
月12日 華盛頓D. C. 大蔵省関税局長宛書簡(上海に於ける日本の阿片政策)

9545 1-2	中華民国上海所在「アメリカ」総領事館内財務省財務官発 1939年(昭和14年)1月14日「コロンビア」区「ワシントン」財務省調査部関税局長殿宛書簡(上海に於ける日本の阿片政策)	○
9546-1	中華民国上海所在「アメリカ」合衆国総領事館内合衆国財務省財務官発 1939年(昭和14年)2月21日コロンビア区ワシントン財務省調査部関税局長殿宛書簡(支那に於ける日本の阿片政策)	○

検察側証拠書類 第82巻

P. D. No.	E X. No.	内 容	英 文	和 文	備 考
9547		手紙 1939年4月5日「傀儡政権阿片管理規則を發布す」の報告書		○	
9548		中華民国上海所在「アメリカ」総領事館内合衆国財務省財務官発 1939年(昭和14年)7月21日「コロンビア」区「ワシントン」財務省調査部関税局長殿宛書簡(東支那に於ける日本の阿片政策)		○	
9550		上海にて1939年12月15日 上海に於ける傀儡政権の阿片の成因		○	
9552		米国財務省 1941年1月21日 秘密覚書 在上海領事館付財務官事務所 在上海日本阿片専売組合、阿片専売引上ノ件		○	
9553		コロンビア区、ワシントン、ターツービル内麻酔剤協議会委員ホンエチヂアン スリンガー殿宛 1946年1月29日寿府ニテ常設中央阿片局秘書官S・フリー マン		○	
9554		1946.5.21 原田熊吉の供述書(支那に於ける日本の阿片政策)		○	
9555		朝鮮京城 在朝鮮米軍軍政府本部麻薬在庫品の種類、位置、所有権ヲ示ス一覽 表		○	
9555B		自1930年至1945年、朝鮮ニ於ケル麻酔剤ノ生産、製造及輸出入		○	
9556		国務省 華盛頓 国際労働・社会・健康部長 オーライス、イエ、オーテイス、 イーマリケン発		○	
9557		1332 極東状況ノ検査 何傑才博士(支那)の陳述書(支那に於ける麻薬に 関する件)		○	

9558	連盟会議及ビ各所屬員へ通知済 公番号C・315M・2、11、1937年11 冊阿片及ビ他ノ危険ナル藥物取引ニ関スル諮問委員会	○	
9559- (1、2)	国際連盟第25回議事細目(1940年5月13日より17日マデジュネーブにて 開催)阿片其他危険ナル売薬ノ取引ニツイテノ審議会	○	
9560	南京高等法院 1946年(昭和21年)5月25日 連合軍最高司令部総本部国 際検察局「阿片吸煙禁止処理經過事情」	◎	
9561	1937~1940 三井物産社によるベルシヤ阿片輸入	○	証明書付
9562	1937~1940 満洲帝国政府より三菱商事社に託せられたイランよりの阿片 輸入	○	証明書付
9563	1946.6.19 太田静夫の供述書 阿片に関する件	○	
9564	藤田勇宣誓供述書 上海に於ける日本の阿片政策	○	
9565	米国陸軍法務中尉ジェイムズ・エム・マックイーウエンの口述書(P. D. 9554 原田熊吉將軍の供述書に関する件)	○	
9568	373 ワシントン・D・C 関税会議委員ジェームス・H・モイル氏宛書簡(支那に於け る阿片の状況)	○	
9570	宣誓書 李鳴(里見甫)(支那に於ける阿片の状況)	○	
9575	宣誓口供書 及川源七(支那に於ける阿片及び麻醉剤に関する件)	○	
10001	荒木貞夫訪問調書 1946年2月7日~11日	○	
10002	証録第58号6頁 2月8日	○	
10003	荒木貞夫訪問調書 1946年2月8日~13日	○	
10004	綴込番号第58号 2月13日午後第2項	○	
10005	綴込番号第58号 2月15日 第4頁(荒木貞夫ニ対スル訪問)	○	
10006	綴込番号第58号 2月19日 第1頁	○	

1 1 5 1 1	1 4 3	供述書 池島重信	○
1 1 5 1 2		供述書 岩淵辰雄	○
1 1 5 1 3	1 4 7	中井金兵衛供述書	○
1 1 5 1 4		AFFIDAVIT TOKUGAWA, Yoshichika	○
1 1 5 1 5		供述書 大橋なみ	○
1 1 5 1 6		供述書 宇垣一成	○
1 1 5 1 7		供述書 清水行之助	○
1 1 5 1 8		供述書 米内光政	○
1 1 5 1 9		宣誓書 佐竹三郎	○
1 1 5 2 0		供述書 牧野軍曹	○
1 1 5 2 1		供述書 中島英子	○
1 1 5 2 2		供述書 幣原喜重郎	○
1 1 5 2 3		宣誓口供書 富田健次	○
1 1 5 2 4		誓言書 犬養健	○
1 1 5 2 5		口供書 岡田啓介	○
1 1 5 2 6		宣誓書 鈴木東民	○
1 1 5 2 8		宣誓書 若槻礼次郎	○
1 1 5 2 9		供述書 後藤文夫	○

東京大学社会科学研究所蔵
極東国際軍事裁判記録
「検察側証拠書類」目録

1971年3月31日発行

編 著 東京都文京区本郷7丁目3-1
発 行 者 東京大学社会科学研究所「日本近代化」研究組織
代表者 林 茂
特定研究「日本近代化」研究連絡組織

印刷所 東京都新宿区舟町1-2
四谷印刷有限公司